

2026（令和8）年度
大学院シラバス
博士前期課程

人間環境大学
大学院 松山看護学研究科

Graduate School of Nursing at Matsuyama
University of Human Environments

目次-博士前期課程-

科目区分	授業コード	授業科目の名称	配当年次	単位数		担当教員	記載ページ
				必修	選択		
(必修科目)	EMA0101	看護学研究法特論M	1前	2		佐伯 由香	1
	EMA0201	看護倫理特論M	1前	2		別宮 直子	4
	EMA0301	統計学特論M	1前	2		沼田 真美	6
	EMA0401	研究方法論特論M	1前	2		赤松 公子 岡 多枝子 羽藤 典子	8
(選択科目)	EMB0101	看護理論特論M	1後		2	中島 紀子 三並 めぐる	10
	EMB0201	看護管理特論M	1後		2	崎田 智美 山岡 多恵 西田 慎太郎	12
	EMB0301	人体生理学特論M	1後		2	本田 和男	15
	EMB0401	オーラルヘルス特論M	1後		2	中島 紀子 岡本 樹	17
	EMB0501	ヘルスアセスメント特論M	1後		2	高田 律美 別宮 直子 羽藤 典子	19
	EMB0601	患者指向性薬理学特論M	1後		2	本田 和男	22
	EMB0701	感染マネジメント特論M	1後		2	三並 めぐる 高田 律美 中島 紀子	24
基盤看護学領域	EMC0101	看護教育・管理学特論M	1前		2	佐伯 由香 村上 早苗	27
	EMC0201	看護教育・管理学特別演習M	1後		2	佐伯 由香 村上 早苗	30
	EMC0301	実践基礎看護学特論M	1前		2	中島 紀子	34
	EMC0401	実践基礎看護学特別演習M	1後		2	中島 紀子	36
	EMC0501	基盤看護学特別研究 I M	1通		4	佐伯 由香	38
	EMC0502	基盤看護学特別研究 I M	1通		4	中島 紀子	41
	EMC0601	基盤看護学特別研究 II M	2通		4	佐伯 由香	43
EMC0602	基盤看護学特別研究 II M	2通		4	中島 紀子	46	
発達看護学領域	EMD0101	リプロダクティブヘルス看護学特論M	1前		2	高田 律美	48
	EMD0201	リプロダクティブヘルス看護学特別演習M	1後		2	高田 律美	51
	EMD0301	小児看護学特論M	1前		2	三並 めぐる	54
	EMD0302	小児看護学特論M	1前		2	羽藤 典子	57
	EMD0401	小児看護学特別演習M	1後		2	三並 めぐる	59
	EMD0402	小児看護学特別演習M	1後		2	羽藤 典子	63
	EMD0501	成人看護学特論M	1前		2		
	EMD0601	成人看護学特別演習M	1後		2		
	EMD0701	発達看護学特別研究 I M	1通		4	高田 律美	65
	EMD0702	発達看護学特別研究 I M	1通		4	三並 めぐる	67
	EMD0703	発達看護学特別研究 I M	1通		4	羽藤 典子	69
	EMD0801	発達看護学特別研究 II M	2通		4	高田 律美	71
	EMD0802	発達看護学特別研究 II M	2通		4	三並 めぐる	74
EMD0803	発達看護学特別研究 II M	2通		4	羽藤 典子	76	
広域看護学領域	EME0101	地域・在宅看護学特論M	1前		2		
	EME0102	地域・在宅看護学特論M	1前		2	西嶋 真理子	78
	EME0201	地域・在宅看護学特別演習M	1後		2		
	EME0202	地域・在宅看護学特別演習M	1後		2	西嶋 真理子	80
	EME0301	精神看護学特論M	1前		2	別宮 直子	82
	EME0401	精神看護学特別演習M	1後		2	別宮 直子	84
	EME0501	高齢者看護学特論M	1前		2	赤松 公子	86
	EME0502	高齢者看護学特論M	1前		2	岡 多枝子	88
	EME0601	高齢者看護学特別演習M	1後		2	赤松 公子	90
	EME0602	高齢者看護学特別演習M	1後		2	岡 多枝子	92
	EME0701	広域看護学特別研究 I M	1通		4	岡 多枝子	95
	EME0702	広域看護学特別研究 I M	1通		4	赤松 公子	97
	EME0703	広域看護学特別研究 I M	1通		4	別宮 直子	99
	EME0704	広域看護学特別研究 I M	1通		4		
	EME0705	広域看護学特別研究 I M	1通		4	西嶋 真理子	
	EME0801	広域看護学特別研究 II M	2通		4	岡 多枝子	101
	EME0802	広域看護学特別研究 II M	2通		4	赤松 公子	103
	EME0803	広域看護学特別研究 II M	2通		4	別宮 直子	105
EME0804	広域看護学特別研究 II M	2通		4			
EME0805	広域看護学特別研究 II M	2通		4	西嶋 真理子		

授業コード	EMA0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	共通科目(必修) EMA01				教育・実践力	○
授業科目名	看護学研究法特論M	選択・必修	必修		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	
担当教員	佐伯由香				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、保健医療福祉の現場における高度実践リーダー・管理者・教育者として、看護実践と看護研究に関する専門的知識と技術を向上し、ケアプログラムやケアシステムの改善・構築につながる臨床指向型研究の概要をより深く理解することを目的とする。自研究の課題から導き出せる成果を臨床現場に活かし、臨床と研究とを往還するため、研究の質を高め、研究の概念枠組みを精選し、研究目的に合致する研究デザインを選択できるように教授する。研究方法として、質的研究・量的研究・実験的研究などについての概略を理解し、研究計画書作成、倫理審査の概略を説明する。研究目的、研究方法、データ分析、結果と考察の論述の仕方など研究プロセスを理解し、研究活動全般についての基礎的知識を修得する。</p>						
授業の概要						
<p>看護研究における新規性・独創性・社会的価値のある研究(研究の意義)について概説する。また研究における倫理的配慮の重要性を指摘するとともに、研究倫理審査会の役割について説明する。さらに看護研究の進め方における研究課題、研究デザイン、研究仮説の関連性、及びそれらの意味することを論述する。</p> <p>看護研究における文献検索の意義と文献検索の方法を論述する。また実際に演習を行う。文献クリティーク能力を養うとともに、質的研究法、量的研究法、実験研究法、介入研究法について詳述する。さらに、研究論文の構成、及び研究の信頼性、妥当性、一貫性を理解の上、研究倫理を踏まえた論文作成のポイントや執筆の仕方について教授する。本学研究所の学位論文取得のプロセスについても説明する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13:10-14:40)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	研究の意義	研究とは 看護における研究の重要性 看護実践、看護研究、看護理論の関係性 ・ディスカッション	【事前】自身の研究課題をイメージしておく。【事後】教科書の該当ページ、及びオリジナル資料を熟読する。	教科書；第1章A、B、C		
2	研究の進め方① (研究過程の概観)	研究課題の明確化、研究方法の選定、研究データの収集、研究データの分析、結果とその解釈 ・ディスカッション	【事前】自身の研究課題の遂行をイメージしておく。【事後】自身の研究課題と講義内容とを比較検討し、自身の研究の質を高める。	教科書；第2章A、B、C、D、E、F		
3	研究における倫理①	研究における倫理の考え方と対応 研究対象者の権利と倫理審査体制 ・ディスカッション	【事前】自身が考える医療における倫理原則、及び研究倫理として考えられることをイメージしておく。【事後】研究を行う人としての自覚・行動規範を内在化させる。	教科書；第3章A、B、C		
4	研究における倫理②	・責任ある研究活動	【事前】資料に目を通しておく 【事後】研究を行う人としての自覚・行動規範を内在化させる。	資料配布		
5	研究の進め方② (文献検討)	オリジナル文献を読む 文献クリティーク ・ディスカッション	【事前】自身の研究課題を設定したときに用いた文献を読んでおく。【事後】文献クリティークについて再考する。	教科書；第4章A、B、C、D、E 文献クリティークの為の文献を配布。		
6	研究の進め方③ (概念枠組みと仮説)	概念枠組みと仮説設定の必要性 研究における変数の考え方 ・ディスカッション	【事前】自身の研究課題が何を明らかにしようとしているか、考えておく。【事後】自身の研究の概念枠組みや仮説について再考する。	教科書；第5章A、B、C、D		
7	研究の進め方④	研究デザインの種類	【事前】研究手法について自身で	教科書；第6章		

	(研究デザイン)	研究の問いのレベルと研究デザインの関係 ・ディスカッション	調べておく。【事後】研究の問いを再考し、自身の研究課題はどの種類であるか検討する。	A、B、C、D、E、F
8	研究の進め方⑤ (研究計画書)	・研究タイトル ・研究課題と研究の問い ・研究目標 ・研究課題の背景 ・研究の意義 ・研究の枠組み ・ディスカッション	【事前】自身の研究課題について再考する。【事後】自身の研究課題について修正できるところはしておく。	教科書；第8章 A、B、C、D
9	研究の進め方⑤ (研究計画書)	・研究計画書を作成する ・ディスカッション	【事前】研究計画を作成する【事後】ディスカッションをふまえて再考する	教科書；第8章 A、B、C、D
10	文献のクリティーク	クリティークとは何か、どのようにするのか、目的は何かを学ぶ。 ・ディスカッション	【事前】クリティークに関連する文献を読んでおく。【事後】1文献のクリティークを行ってみる。	教科書；第3章 C、D、E ・クリティーク 文献(量的文献、 質的文献)を配布
11	文献のクリティーク	実際に文献(量的研究、質的研究)を使ってクリティークする ・ディスカッション	【事前】文献に対してクリティークしてくる。【事後】自研究に関連する文献をクリティークする。	
12	文献のクリティーク	各自がクリティークしてきた文献と資料を使って発表しディスカッションする。	【事前】各自でクリティークした文献についてまとめておく。【事後】意見交換の振り返りを行う。	
13	文献のクリティーク	各自がクリティークしてきた文献と資料を使って発表しディスカッションする。	【事前】各自でクリティークした文献についてまとめておく。【事後】意見交換の振り返りを行う。	
14	研究計画書の構成	研究計画書の記載必要項目を確認し、中間発表の概要を理解する。 ・ディスカッション	【事前】本研究科の研究計画書について調べておく。 【事後】中間発表までの予定を確認し、中間発表の原稿作成に取り組む。	資料配布
15	研究論文の構成、論文審査の視点、学位論文のプロセスの確認	既存の修士論文を活用して研究論文の構成を理解する。学位論文審査をイメージし、論文審査の視点を確認する。学位論文審査等の手順、手続きの不明点を確認する。 ・ディスカッション	【事前】研究論文の構成を確認し、執筆要領を読んでおく。 【事後】研究論文の構成、及び論文審査の視点、倫理的配慮について、学位論文審査の受け方について確認する。	研究科大学院要 覧：p17-19、20- 22、p37-41 ・必要資料は配 布
16	試験			
教科書・参考文献など				
(教科書) 南 裕子、野嶋佐由美編集：看護における研究 第3版、日本看護協会出版会、2025 (参考文献) D.F. ポーリット他：看護研究 原理と方法、医学書院、2010。 山川みやえ他：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版：研究手法別のチェックシートで学ぶ、日本看護協会出版会、2020。				
最終到達目標			評価方法	
①看護における研究の重要性が認識できる②看護研究から導き出される看護実践の根拠(エビデンス)について、各種文献からイメージできる③研究目的を達成するための適切な研究デザインを選択できる④研究計画書を作成する基盤が理解できる⑤看護研究における倫理的配慮について説明できる⑥文献検索の意義が理解でき、文献検索ができる⑦文献クリティークの方法がわかる⑧研究計画書、倫理申請書、論文作成、中間発表などプロセスが具体的にイメージできる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100~80点)：到達目標を達成している (Very Good)				

B(79～70点) : 到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E : 試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F : 出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMA0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	研究力	○
科目区分	共通科目 (必修) EMA02				教育・実践力	○
授業科目名	看護倫理特論 M	選択・必修	必修		倫理調整力	○
配当学年/学期	1 年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	別宮直子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目の目的は、実践者としての倫理および研究者としての倫理の両面から看護職としての倫理的課題へ対応するための知識と責務を探究することである。今日では、延命治療、生殖補助医療、移植医療など、医学の進歩によってもたらされた倫理的課題は、看護においても人間とは何か、看護とは何か、正義とは何か、人間を尊重するための正しさとは何かを追究していく必要性を増している。また医療の場においては、日常の中に自律尊重など倫理原則に関連した臨床判断が求められる場面は多い。医療関係職種との倫理的葛藤に対峙することに加え、看護対象者の QOL の多様化・グローバル化に対し、専門職として倫理的感受性を高め、クライアントの意思決定能力を最大限に活かすための支援に必要な知識を修得する。</p>						
授業の概要						
<p>本講義の具体的内容は、生命倫理の歴史の変遷から倫理原則や看護の倫理原則、看護師の倫理綱領、IC、アドボカシー等を学習し、更なる看護専門職としての造詣を深め、責務を探究する。それにより、看護実践者として臨床現場でかかえる課題への倫理判断能力、課題解決能力、倫理的感受性などをさらに高める。また、研究者として、研究遂行上における倫理的課題と配慮について、研究活動遂行上の基本的姿勢を学修し、自研究のテーマと研究方法への倫理的判断のための知識と方法を理解する。</p> <p>講義の第 4 回から第 13 回は、学生が主体的にテーマを選択し、そのテーマについてリサーチし、プレゼン、ディスカッションを行う形式となる。各自の講義回までに、準備を進めることで、倫理的知識の定着と思考を養う。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 12：00-13：30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	看護倫理とは	看護倫理について概説し、また、医療における倫理原則を概説する。初回の授業であり、2 回目以降の授業構成および担当テーマを決定する。	事前：シラバスを参照し、自身が担当するテーマを絞り込んでおくことが望ましい。 事後：これからの授業の根幹となる基礎的知識として、復習しておくこと	系統看護学講座：看護倫理		
2	倫理における歴史の変遷	患者の権利や IC における歴史の変遷を概説する。また、ニュルンベルク綱領やヘルシンキ宣言、リスボン宣言など現在の倫理の根幹となる倫理宣言を概観する。	事前：各綱領や宣言を熟読しておくこと。 事後：ヘルシンキ宣言やリスボン宣言は理解しておくこと	系統看護学講座：看護倫理		
3	ICN による看護師の倫理綱領	ICN による看護師の倫理綱領を抄読する。	事前：ICN の看護師の倫理綱領や日本看護協会からの看護職の倫理綱領を熟読しておくこと。 事後：ICN の看護師の倫理綱領の内容を理解しておくこと	ICN による看護師の倫理綱領 HP, 日本看護協会「看護職の倫理綱領」HP		
4	倫理的課題（延命治療、生殖補助医療、尊厳死、移植、再生医療・遺伝子治療など）	学生が選んだテーマにおける倫理的課題を調べ、プレゼンを行い、ディスカッションを行う。	事前：担当となった学生はテーマについて調べ、発表準備を行う。 事後：それぞれへの課題に対し、多様な考え方があることを復習する。	関連文献		
5						
6						
7						
8	倫理的問題へのアプローチ法（4 分割）	それぞれの倫理的問題へのアプローチ法を調べ、事例を用いてアプローチ法のプレゼンを行う。	事前：担当となった学生はテーマについて調べ、発表準備を行う。 事後：それぞれへのアプローチ法の特徴を理解すること。	関連文献 系統看護学講座：看護倫理		
9						

10	倫理的問題へのアプローチ法 (ナラティブ)	それぞれの倫理的問題へのアプローチ法を調べ、事例を用いてアプローチ法のプレゼンを行う。	事前：担当となった学生はテーマについて調べ、発表準備を行う。 事後：それぞれへのアプローチ法の特徴を理解すること。	系統看護学講座：看護倫理 対話と承認のケア ナラティブが生み出す世界、宮坂道夫、医学書院
11				
12	医療・看護における合意形成プロセス	それぞれの倫理的問題へのアプローチ法を調べ、事例を用いてアプローチ法のプレゼンを行う。	事前：担当となった学生はテーマについて調べ、発表準備を行う。 事後：それぞれへのアプローチ法の特徴を理解すること。	系統看護学講座：看護倫理 看護実践の倫理【第3版】
13	倫理的問題へのアプローチ法 (サラ・フライ)			
14	研究倫理	研究倫理について概説し、本学の人間環境大学研究倫理審査申請書に沿って、研究を遂行する上で必要な倫理的配慮を理解する。	事前：大学院要覧や人間環境大学研究倫理審査申請書を通読しておく。 事後：自身の研究計画書や倫理審査申請書の作成時に活用すること。	人間環境大学研究倫理審査申請書
15				
教科書・参考文献など				
参考文献：系統看護学講座：看護倫理、ICNによる看護師の倫理綱領 HP，日本看護協会「看護職の倫理綱領」HP 看護実践の倫理【第3版】倫理的意思決定のためのガイド，サラ T. フライ，メガン・ジェーン・ジョンストン著片田範子、山本あい子訳、日本看護協会出版会、対話と承認のケア ナラティブが生み出す世界、宮坂道夫、医学書院				
最終到達目標			評価方法	
(1) 実践者としての倫理と、研究者としての倫理の両面から看護職としての倫理的課題へ対応するための知識と責務を理解することができる。 (2) 研究者として、研究遂行上における倫理的配慮について理解し、研究計画書や倫理申請書に反映させることが理解できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・	
履修判定基準・評価基準				
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMA0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	共通科目 (必修) EMA03				教育・実践力	○
授業科目名	統計学特論 M	選択・必修	必修		倫理調整力	○
配当学年/学期	1 年次/前期	単位数	2		連携力	
担当教員	沼田 真美				提言力	
授業の目的						
<p>本科目は、観察した事実を真実に近づけるための科学的方法として、量的研究を行う際に必要な統計学の基本的知識を修得し、自研究を遂行するための手法を検討できるようにすることを目的とする。</p>						
授業の概要						
<p>統計の基本として、データ、分布、尺度水準、基本的な相関と検定について理解し、アンケート作成に必要な知識を学修する。また、統計ソフトを用いたデータの入力方法、検定操作方法、統計処理、解釈の基本を修得する。またデータ分析の結果を適切に可視化するための方法を理解し、文献レビュー及び研究計画書と論文作成に活かすための Excel の操作法についても、表計算を含め学修する。講義の具体的内容として、研究における統計解析の意義について論述する。そのため、授業の進め方・統計の基礎・変数の種類とデータとしての取り扱いについての基本的な知識と、分布の理解、平均と標準偏差、母集団と標本、尺度水準等の基本的な統計指標についての知識を修得する。また、相関、統計的解析 (χ 二乗検定、t 検定、分散分析、適合度と独立性の検定、多変量解析等)、効果量について講義および演習を行い、理論と技術を学修する。また、アンケート調査作成の基本、データ入力、統計ソフトの基本的操作、結果の読み方、その他の統計解析について、自研究の遂行上必要な知識を修得する。</p> <p>(オフィスアワー：授業前後時間)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	ガイダンス／統計とは	本授業のガイダンスと目的および確認		事後学修：統計ソフトの動作確認を行うこと	配布資料	
2	代表値と散布度	データの特徴の記述		事後学修：代表値と散布度の違いについて確認すること	配布資料	
3	共分散と相関係数	2 つの変数の関係についての分析 1		事後学修：共分散や相関係数の算出方法について確認すること	配布資料	
4	相関係数の算出から記述まで	2 つの変数の関係についての分析 2 (オンライン同時双方向型)		事後学修：相関係数について、統計ソフトの出力方法の確認および結果の記述方法について確認すること	配布資料	
5	統計的検定とは 1	統計的検定の考え方 1：基礎と確認 (オンライン同時双方向型)		事後学修：統計的検定の考え方を整理・確認すること	配布資料	
6	統計的検定とは 2：論文に沿って考える	統計的検定の考え方 2：論文例の紹介 (オンライン同時双方向型)		事後学修：統計的検定の具体例について理解を深めること	配布資料	
7	t 検定	統計的検定の具体的な手続き：2 変数間の差の検定 (オンライン同時双方向型)		事後学修：t 検定について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料	
8	カイ二乗検定	統計的検定の具体的な手続き：質的な 2 変数間の関連 (オンライン同時双方向型)		事後学修：カイ二乗検定について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料	
9	因子分析 1	統計的検定の具体的な手続き：データの要素 1 (オンライン同時双方向型)		事後学修：因子分析について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料	
10	因子分析 2	統計的検定の具体的な手続き：データの要素 2 (オンライン同時双方向型)		事後学修：因子分析について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料	

11	分散分析 1	統計的検定の具体的な手続き：3変数間以上の差の検討 1（オンライン同時双方向型）	事後学修：分散分析について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料
12	分散分析 2	統計的検定の具体的な手続き：3変数間以上の差の検討 2（オンライン同時双方向型）	事後学修：分散分析について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料
13	重回帰分析 1	統計的検定の具体的な手続き：複数の変数による予測 1	事後学修：重回帰分析について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料
14	重回帰分析 2	統計的検定の具体的な手続き：複数の変数による予測 2	事後学修：重回帰分析について、結果の読み取り方および統計ソフトの出力方法を確認すること	配布資料
15	まとめ	まとめ	事前学習：自身の研究への繋がりを考える 事後学修：全 15 回の授業全体について確認すること	配布資料
教科書・参考文献など				
教科書は使用しない。参考文献は、授業内で適宜紹介する。授業内では、適宜配布されるデータをダウンロードし、各自のパソコンにて統計ソフトを用いて、分析に取り組む必要がある。使用教室にパソコンが設置されていない場合、初回授業までに各自ノートパソコン等（Windows 推奨）、データの保存用に USB フラッシュメモリ等を準備すること（詳細は初回の授業内で説明・確認を行う）。				
最終到達目標			評価方法	
最終到達目標は、以下の 3 点である。 (1) 統計を自身の研究に役立てるための基礎知識を得ること (2) 統計を用いた他者の研究を理解するための基礎知識を得ること (3) ソフトウェアを用いた統計分析の実践的な技能を得ること			課題達成度を以下の方法で評価する 最終課題レポート (40%)・授業内課題 (60%)	
履修判定基準・評価基準				
評価の基準は以下のとおりとする。 A (100～80 点)：到達目標を達成している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMA0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	共通科目 (必修) EMA04				教育・実践力	○
授業科目名	研究方法論特論M	選択・必修	必修		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	
担当教員	赤松公子 岡多枝子 羽藤典子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、研究テーマの目的に沿った研究方法の選び方や、質的研究、量的研究、実験的研究の既存の文献をクリティークし、また、それぞれの手法を実践的に理解することを目的とする。自研究の研究計画に即した研究方法を選択できるよう学修する。質的研究は M-GTA などの手法を、量的研究は調査法及び解析方法を、実験的研究は仮説設定と検証に必要な条件設定、ならびに正確なデータ取得方法の概略を修得する。</p>						
授業の概要						
<p>(赤松公子/5回) 調査研究の理論的基盤を理解するとともに、既存の学術論文を批判的に読み解く力、質問票の作成について詳述する。</p> <p>(岡多枝子/5回) 質的研究の意義と特徴、種類と研究デザイン、データ収集と逐語録、コード化、KJ法や質的統合法、M-GTA や行動分析、エスノグラフィー等を詳述し、狭義のKJ法グループワークについて詳述する。</p> <p>(羽藤典子/5回) 実験研究の種類と特徴、仮説の設定と必要なデータの選定、実験研究に必要な条件設定とデータの収集方法、実際のデータ収集、及びデータの検査、データの分析と、結果の解釈、動物実験、生理学的実験に必要な研究倫理について詳述する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	調査研究とは何か (赤松)	看護学における調査研究の理論的背景、調査研究の位置づけ、仮説検証型研究と探索的研究		自身の研究テーマを「調査研究で何が明らかにできるか」という視点で整理	資料を配布	
2	論文から読み取る調査研究：批判的読解の実際 (赤松)	調査研究論文の構造的理解と信頼性・妥当性の評価、倫理的配慮の読み取り、研究の限界と今後の課題の妥当性		指定論文の精読、論文評価	指定論文	
3						
4	質問票作成と理論と実際 (赤松)	質問票調査の基本原則、質問文作成の原則、既存尺度の利用と開発		自身の研究課題に基づく質問項目案の作成	各自の研究テーマに関連する原著論文	
5						
6	調査研究とは何か (岡)	質的研究の意義、特徴、文献の利用、種類、看護研究・実践における質的研究、研究デザインとデータの収集方法について理解・アウトプットする。		事前学修：自身の研究課題に関連した質的研究論文を検索する。 事後学習：質的研究の意義、特徴、種類、研究デザインとデータ収集の概要を説明できる。	資料を配布	
7	質的研究の実際 (岡)	文献や質問紙・逐語録などから質的データの抽出法、コード化の実際を理解・アウトプットする。		事前学修：研究課題に関連した先行研究を概観する。 事後学習：質的研究による研究データを精選する。	資料を配布	
8	質的研究方法 (岡)	KJ法、質的統合法、M-GTA、現象学的分析、行動分析、エスノグラフィー等から関心の方法論を選んで発表・ディスカッションする。		事前学修：質的研究法から関心のある研究法を検索・概観する。 事後学習：質的データを用いて関心のある研究法に着手する。	資料を配布	
9	狭義のKJ法グループワーク (岡)	パルス討論・R作成・配り・吟味・多段ピックアップ・G編成・土俵・R集め・一匹狼・表札・核融合法・点メモ花火・島の配置と全体図解・シンボルマーク付与・関係線・叙述化。		事前学修：川喜田二郎の研究と時代背景を検索・概観する。 事後学習：自己の研究に関するKJ法全体図解を提出する。	資料を配布	
10						
11	実験研究とは (羽藤)	実験研究とは何か、実験研究の種類と特徴について理解する。		事前学修：実験研究に対するイメージを構築しておく。	適宜、適当な文献、資料を配布	

			事後学習：実験研究の種類と特徴を説明できる。	する。
12	実験研究の進め方（羽藤）	看護職者が行った実験研究を例に、どのように研究を進めるか理解を深める。	事前学修：事前に配布する資料を熟読して内容を理解おく。 事後学習：研究目的や期待される結果、試験の規模に応じた研究方法について説明できる。	適宜、適当な文献、資料を配布する。
13	実験研究の演習と実験研究論文の書き方（羽藤）	簡単な実験研究を計画・実施し、学術的エビデンスレベルを高めるための改善点および論文の書き方について演習形式で学ぶ。	事前学修：興味のある実験研究の文献をもとに計画をイメージしておく。 事後学習：モデル実験の改善点と最終形態について論文形式でレポートにまとめる。	適宜、適当な文献、資料を配布する。
14				
15				
16	試験			
教科書・参考文献など				
バーンズ&グローブ（監訳：黒田裕子ほか）：看護研究入門第7版，ELSEVIER，2021. 南裕子，野嶋佐由美：看護における研究 第2版，日本看護協会編 2017. 川喜田二郎：KJ法：渾沌をして語らしめる，中央公論新社，1986.				
最終到達目標			評価方法	
量的研究の進め方が説明できる。量的研究で行う検定の意味が分かる。 質的研究の進め方と質的研究方法によってデータ分析方法が異なることが説明できる。関心のあるテーマで質的研究に着手できる。 実験研究では仮説と検証に必要な条件設定、及び正確なデータ取得のための方法など研究の質管理方法について説明できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMB0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EMB01				教育・実践力	○
授業科目名	看護理論特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	中島紀子 三並めぐる				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、看護理論の変遷と、看護実践に関連する諸理論の特徴を学び、看護ケアのための人間理解、人間と環境との関連性の理解を意義として、臨床判断能力、批判的思考能力、及び実践遂行能力を高めることを目的とする。看護広範囲理論（発達理論、ニード論、相互作用論、システム論、ケアリング理論など）の特徴、中範囲理論（セルフケアとセルフケア不足理論・症状マネジメントと援助に関連する理論、ストレス・コーピング理論、危機理論と対処理論、保健信念モデル、変化ステージモデル、自己効力感などの行動変容理論、ソーシャルサポートシステム論など）について、理論開発の意義と、理論の活用について学修する。</p>						
授業の概要						
<p>看護理論の変遷と理論活用の意義・目的、及び、理論の定義と用語の理解、看護広範囲理論の特徴と活用（発達理論、ニード論、相互作用論、システム論、ケアリング理論）について実践に照合させ人間理解と看護理解について詳述する。また、EBNIにつながる理論展開、理論開発について論じ、実践と研究とを相互に考察することにより、理論活用における臨床上、研究上の課題について論じる。</p> <p>中範囲理論・援助理論の特徴と活用（セルフケア理論、保健行動理論、行動変容ステージモデル、ストレス・コーピング理論、危機理論、症状マネジメントモデル論など）について、看護過程の展開と看護介入と理論の実践への適用について論じる。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	導入（中島）	看護理論とはなにか、看護理論発展の基礎を学修しディスカッションを行う。	【事前】シラバスの確認 【事後】教科書、配布資料を振り返り看護理論の基礎をおさえる。	看護理論家の業績と理論評価（第2版）		
2	看護理論の実践への適用（中島）	看護理論を構成する要素とはどのようなものか、看護実践に看護理論を適用するとはどのようなものかディスカッションを行う。	【事前】看護理論には何があるか調べておく。 【事後】看護理論はどのように形成されるかふまえる。	看護理論家の業績と理論評価（第2版）		
3	広範囲理論①（中島）	広範囲理論とはなにか学習しディスカッションを行う。	【事前】広範囲理論とはなにかがあるか調べる。 【事後】広範囲理論とはどのようなものか理解する。	看護理論家の業績と理論評価（第2版）		
4	広範囲理論②（中島）	ニード論（ヴァージニア・ヘンダーソン、アブデラ）とはどのようなものか学修し、ディスカッションを行う。	【事前】ニード論とはどのようなものか調べる。 【事後】ニード論に含まれる理論について理解する。	看護理論家の業績と理論評価（第2版）		
5	広範囲理論③（中島）	対人関係論（ヒルデガードE. ペプロウ、ジョイス・トラベルビー）とはどのようなものか学修し、ディスカッションを行う。	【事前】対人関係論とはどのようなものか調べる。 【事後】対人関係論に含まれる理論について理解する。	看護理論家の業績と理論評価（第2版）		
6	広範囲理論④（中島）	システム論（カリスタ・ロイ、ドロシーE）とはどのようなものか学修し、ディスカッションを行う。	【事前】システム論とはどのようなものか調べる。 【事後】システム論に含まれる理論について理解する。	看護理論家の業績と理論評価（第2版）		
7	グループワーク①（中島）	看護理論を看護実践に活用し、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。	【事前】看護実践をふまえた看護理論を選択する。 【事後】プレゼンを振り返る。	看護理論家の業績と理論評価（第2版）		

8	グループワーク ②(中島)	・看護実践へ活用することの意義と課題を話し合う。	【事前】看護理論を用いた看護実践について再考する。 【事後】GWを振り返る。	看護理論家の業績と理論評価(第2版)
9	中範囲理論とは (三並)	看護診断と中範囲理論、なぜ看護診断をするときに中範囲理論が必要かについて学修し、ディスカッションする。	【事前】看護診断と中範囲理論について調べ、発表できる準備を行う。【事後】中範囲理論がなぜ必要か振り返る。	看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版 2-27 ページ
10	セルフケア理論 (三並)	セルフケア理論とは、理論の歴史的背景、理論の概論と枠組みおよび看護への活かし方について学修し、ディスカッションする。	【事前】セルフケア理論について、調べ、発表できる準備を行う。【事後】セルフケア理論の応用の視点を振り返る。	看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版 30-52 ページ
11	保健行動理論 (三並)	保健行動理論とは、理論の歴史的背景、理論の概論と枠組みおよび看護への活かし方について学修し、ディスカッションする。	【事前】保健行動理論について、調べ、発表できる準備を行う。【事後】保健行動理論の看護への活かし方について振り返る。	看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版 53-68 ページ
12	行動変容ステージモデル (三並)	理論とは、理論の歴史的背景、理論の概論と枠組みおよび看護への活かし方について学修し、ディスカッションする。	【事前】行動変容ステージモデルについて調べ、発表できる準備を行う。【事後】行動変容ステージモデルと看護介入について振り返る	看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版 69-82 ページ
13	ストレス・コーピング理論 (三並)	ストレス・コーピング理論とは、理論の歴史的背景、理論の概論と枠組みおよび看護への活かし方について学修、ディスカッションする。	【事前】ストレス・コーピング理論について調べ、発表できる準備を行う。 【事後】ストレス・コーピング理論の応用について振り返る。	看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版 262-268 ページ
14	危機理論 (三並)	危機理論とは、理論の歴史的背景、理論の概論と枠組みおよび看護への活かし方について学修し、ディスカッションする。	【事前】危機理論について調べ、発表できる準備を行う。【事後】危機理論の発達の危機と状況的危機について振り返る。	看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版 367-392 ページ
15	症状マネジメントモデル (三並)	症状マネジメントモデルとは、理論の歴史的背景、理論の概論と枠組みおよび看護への活かし方について学修し、ディスカッションする。	【事前】症状マネジメントモデルについて調べ、発表できる準備を行う。 【事後】症状マネジメントモデルと看護活動について振り返る。	看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版 525-548 ページ
教科書・参考文献など				
1. 筒井真優美著：看護理論家の業績と理論評価 第2版、医学書院(2020)参考書 2. 黒田裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版、Gakken(2021)教科書				
最終到達目標			評価方法	
看護理論の変遷と、看護実践に関連する諸理論の特徴および看護ケアのための人間理解、人間と環境との関連性を理解でき、臨床判断能力、批判的思考能力、及び実践遂行能力が高められる。看護広範囲理論と中範囲理論について、理論開発の意義と、理論の活用ができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100~80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79~70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMB0201			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EMB02				教育・実践力	○
授業科目名	看護管理特論 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1 年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	崎田智美 山岡多恵 西田慎太郎				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、病院機能・組織における看護管理の役割と責任を再考し、自組織が円滑に、より効果的、効率的に看護を提供できるシステムを構築するため、必要な知識を理解することを目的とする。そのため、組織運営、及び組織評価に関する知識と人・もの・コスト・時間・情報等の管理に関する諸理論を活用し管理上の課題を明確にする。保健医療福祉のそれぞれの現場における課題に対して、看護の質を高めるための看護管理のあり方や方策について探求する。</p>						
授業の概要						
<p>看護ケアマネジメントと看護サービスマネジメントについて基本的知識を含めて論じる。看護管理者に求められる能力として、組織管理能力、質管理能力、人材育成能力、危機管理能力、政策立案能力、創造する能力について述べ、目標管理を通して成果を上げる取り組み、さらに成果を形にする能力など具体的な事例を通して詳述する。人材育成能力については、組織の人材育成と自己のキャリアについて再考し、生涯学習の視点より学びについて討議する。経営的視点では、看護部が病院経営にいかに関与できるか具体的な戦略をあげ、トップマネージャーとしての方策を考える。（崎田智美/5回）</p> <p>前5回で学んだ看護管理の内容を踏まえ、看護組織における意思決定、リーダーシップ、倫理、労務管理、ウェルビーイングといった管理課題を、理論と実践の両面から検討する。看護管理の分析的視点を持って複雑な組織課題に対して、科学的根拠に基づく解決策を構築することを目指す。（山岡多恵/5回）</p> <p>医療組織における看護管理の役割を再考し、組織を円滑かつ効果的に運営するための情報管理、業務管理、看護の質管理について学ぶ。電子カルテ等の医療情報や看護データの活用を通して、組織運営や看護の質評価の方法を理解し、看護管理上の課題を分析する。講義とディスカッションを通じて、データに基づく意思決定や組織改善の視点を踏まえた看護管理の方策を主体的に検討する力を養う。（西田/5回）</p> <p>崎田：新任地のアドレスが分かり次第連絡します（別途お知らせいたします） 山岡：大学メールアドレス（別途お知らせいたします） 西田：大学メールアドレス（別途お知らせいたします）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	看護サービスの価値と質（崎田）	看護サービスマネジメントの基本的知識 看護サービスの「質」と「価値」	【事前】 自施設の組織図を持参	【参考文献】 看護マネジメント 文献 随時提供		
2	組織マネジメントと看護の質保証（崎田）	目標管理と組織運営 臨床において根拠あるケアの提供のためのしくみ	【事前】 自組織における資源を活用したマネジメント経験事例を 800 字程度で考えをまとめておく	【参考文献】 看護マネジメント 文献 随時提供		
3	看護管理と労務問題（崎田）	看護師の働き方の特徴と労働安全衛生・ストレスマネジメント ハラスメントにおける看護管理者の対応	【事前】労働安全衛生に関する法律について調べる。ハラスメントにおける指導と攻撃の境界について考えをまとめておく	【参考文献】 ・労働安全ガイドライン		
4	看護キャリア開発（崎田）	キャリア開発、人材育成、生涯学習、賃金制度と人事考課 国際支援を通して日本の看護を発信する	【事前】 自己のキャリアを振り返り記載し、自身のキャリアデザインについて考えてくる	【参考文献】 ・看護職の生涯学習 ガイドライン		
5	組織の役割と看護が果たす役割	組織におけるミッション、ビジョン、ストラテジー	【事前】地域における自組織の役割と組織理念について調べてくる	【参考文献】 ・随時提供		

	(崎田)	組織経営への参画	【事後】自組織の目指す取り組みに対し管理者の立場でミッション、ビジョン、ストラテジーを A4 用紙 1 枚程度まとめ提出する	
6	看護管理における意思決定と問題解決 (山岡)	1) 管理者の意思決定プロセス 2) 問題解決の枠組み 現場課題の分析と意思決定	【事前】自部署で問題だと思ふ場面を 1 つあげ、その状況となぜその問題が起きていると思うかを 200 文字程度にまとめる 【事後】自分が事前課題で挙げた問題を分析し、改善案を 1 つ提案する	【参考文献】 ・ 随時提供
7	リーダーシップとフォロワーシップ (山岡)	1) 看護管理に必要なリーダーシップ理論 2) フォロワーシップの重要性 3) チームビルディング リーダーシップ実践	【事前】リーダーシップを発揮できた経験を書いてくる。	【参考文献】 ・ 随時提供
8	組織における倫理と看護管理者の役割 (山岡)	1) 組織倫理とは 2) 看護管理者が直面する倫理課題 倫理的風土を育てる組織づくり	【事前】倫理的に迷う場面を匿名化し 200 文字程度でまとめる	【参考文献】 ・ 随時提供
9	働き続けられる職場作りと労務管理 (山岡)	1) 労務管理 2) ワークライフバランス 3) 離職防止と定着支援 『働き続けられる職場』の条件を考えるワーク	【事前】働きたい職場とはどんな職場かまとめる	【参考文献】 ・ 随時提供
10	看護職のウェルビーイングと組織活性化 (山岡)	1) ウェルビーイング 2) ストレスマネジメントとバーンアウト予防 3) 組織活性化の理論 (エンゲージメント、心理的安全性) ウェルビーイングを可視化するデータを考えよう	【事前】自分のウェルビーイングを上げる要因を 3 つ考えてくる 【事後】働き続けられる職場にするためにどのような取り組みを行うかについて、可視化出来るウェルビーイングの指標を組み込み、800 字程度にまとめる	【参考文献】 ・ 随時提供
11	医療組織における看護管理と情報マネジメント (西田)	1) 看護管理における情報情報とは何か データ→情報→知識→意思決定 看護管理に必要な情報 データドリブンマネジメント	【事前】「看護管理者はどのような情報をもとに意思決定しているか」について意見交換できるように考えておく	【参考文献】 ・ 随時提供
12	医療情報システムと看護管理 (西田)	1) 医療情報システム 電子カルテと看護支援システム 2) 看護データの特徴 業務データ、患者アウトカム 3) 看護情報管理 標準化、データ活用	【事前】「電子カルテデータは看護管理にどのように活用できるか」について意見交換できるように考えておく	【参考文献】 ・ 随時提供
13	看護の質管理 (西田)	1) 医療の質管理 Donabedian モデル 2) 看護の質指標 3) 看護の質評価 ベンチマーク 4) 看護管理者の役割	【事前】「看護の質はどのように測定できるか」をについて意見交換できるように考えておく	【参考文献】 ・ 随時提供
14	看護業務管理と業務改善 (西田)	1) 看護業務管理 人的資源管理、業務量 2) 業務分析 3) 業務改善	【事前】「看護業務をどのように再設計するか」について意見交換できるように考えておく	【参考文献】 ・ 随時提供

		4) 看護補助者の活用		
15	看護政策の提言 (西田)	1) データドリブン看護管理 ・未来の看護管理について、データを活用した組織変革について討議	【事後課題】 左記討議内容をもとにレポートでまとめる	【参考文献】 ・随時提供
教科書・参考文献など				
崎田:参考図書 1) 原玲子:学習課題とクイズで学ぶ 看護マネジメント入門 第2版 日本看護協会出版会 2020年 2) 井部俊子監修:2025年版 看護管理学習テキスト第3版1~5+別冊 日本看護協会出版会 2025年				
最終到達目標			評価方法	
崎田 看護管理の概要を理解した上で、臨床の事例を踏まえ看護管理の視点からアプローチする様々な解決方法を学ぶと共に、自身の果たすべき役割や戦略を自ら考え行動していく力を身につける。 山岡 看護組織における管理課題を、理論と実践の両面から再構築し、実践的・分析的能力を高め、解決策を導き出す力を付ける。 西田 医療・保健福祉組織における看護管理者の役割と責任を踏まえ、組織の特性や環境を踏まえながら、より効果的かつ効率的に看護を提供するためのシステム構築や質向上に向けた看護管理の方策を主体的に検討・説明できる能力を修得する。			崎田 課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(60%)・プレゼンテーション(20%)・授業参画・討議状況(20%) 山岡 課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(60%)・プレゼンテーション(20%)・授業参画・討議状況20% 西田 課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(60%)・プレゼンテーション(20%)・授業参画・討議状況20%	
評価基準				
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100~80点):到達目標を達成している (Very Good) B(79~70点):到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点):到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満):到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E:試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F:出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMB0301			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EMB03				教育・実践力	○
授業科目名	人体生理学特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	
担当教員	本田和男				提言力	
授業の目的						
看護研究の実施にあたっては人体の解剖と生理についての基本的な知識が必要であるが、医学に関する知見は日進月歩で変化しているので常に最新の情報を取り入れる必要がある。この科目では細胞から臓器レベルにわたるまでの知識を、新しいテキストを用いて網羅的・総合的にアップデートする。さらに各々の臓器について、正常の生理的機能がそこなわれた状態（病態生理）と新しい治療のアプローチについても理解を深める。						
授業の概要						
最新版の教科書「ナーシンググラフィカ人体の構造と機能①：解剖生理学 第5版」を通読することにより、あいまいな理解や古くなってしまった知識のアップデートをはかる。講義は教科書の目次の項目に従って臓器別にすすめるので、あらかじめテキストに眼を通し自分の理解が不十分な点を確認しておくことが望ましい。免疫については2回にわたって特に詳しく説明する。各々の分野では臨床診療で問題となる点や最新医療との関連性が高い項目をピックアップして重点的に解説する。評価は筆記試験で行うが、必要に応じて課題を提示し、各自のプレゼンテーション、レポート提出などにより理解を深める。 (オフィスアワー：火曜日 10：50-12：20)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	細胞と組織	細胞、上皮、支持組織、筋、神経	14頁から85頁	解剖生理学5版		
2	骨格	骨組織、頭蓋、体幹、四肢、関節	86頁から121頁	解剖生理学5版		
3	筋肉	筋組織、筋肉の機能、骨格筋	122頁から147頁	解剖生理学5版		
4	血液	血液の成分・機能、血球、血液型	148頁から172頁	解剖生理学5版		
5	循環器	心臓、動脈、静脈、リンパ管	173頁から209頁	解剖生理学5版		
6	呼吸器	気道、肺、呼吸の運動・調節	208頁から255頁	解剖生理学5版		
7	体液・泌尿器	体液調節、腎臓、尿路、排尿	256頁から291頁	解剖生理学5版		
8	消化器	食欲、嚥下、消化、吸収、排泄	292頁から341頁	解剖生理学5版		
9	神経	構造と機能、中枢神経、末梢神経	342頁から399頁	解剖生理学5版		
10	感覚器	視覚、聴覚、嗅覚、味覚、その他	400頁から437頁	解剖生理学5版		
11	膜と皮膚	漿膜、粘膜、滑膜、髄膜、皮膚	438頁から463頁	解剖生理学5版		
12	免疫1	抗原特異性、抗体産生、T細胞	464頁から479頁	解剖生理学5版		
13	免疫2	自然免疫、アレルギー、自己免疫	480頁から503頁	解剖生理学5版		
14	内分泌	脳、甲状腺、膵臓、副腎、性腺	504頁から537頁	解剖生理学5版		
15	生殖器	卵巣、子宮、性周期、妊娠出産	538頁から584頁	解剖生理学5版		
教科書・参考文献など						
ナーシンググラフィカ人体の構造と機能①：解剖生理学 第5版 メディカ出版 ISBN978-8404-7831-1						
最終到達目標				評価方法		
最近出題された看護師国家試験問題にも正答できるように、「人体生理学・病態生理学」に関する基本的知識をあらためて整理しなおし身につける。				課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・		

評価基準・評価基準

履修判定指標：

評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMB0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	
科目区分	共通科目(選択) EMB04				教育・実践力	○
授業科目名	オーラルヘルス特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	中島紀子 岡本樹				提言力	
授業の目的						
<p>口腔は生命、健康維持に不可欠な機能を持つ臓器の集合体である。歯、歯槽骨、上下顎骨、口蓋骨、口腔粘膜、舌、唾液腺、咀嚼筋群などで構成される。口腔は咀嚼、発音、嚥下の基本機能に加え、味覚、消化液分泌、異物認識、保湿、抗菌などの機能も担っている。口腔の健康（オーラルヘルス）を維持することは長寿に繋がる。そのためには、ライフステージ別のオーラルマネジメントが必要である。齲蝕、歯肉炎、歯周病、欠損補綴、口腔粘膜病変、顎変形症手術による咬合回復、唾液腺疾患、口腔癌の集学的治療などを理解する。また、ヒトが罹患する病気のうち、最も患者数が多い疾患は歯周病である。歯周病が糖尿病をはじめ、脳卒中、脳梗塞、心筋梗塞、アテローム動脈硬化症、高血圧、周産期有害事象、肥満、メタボリックシンドローム、認知症など全身の多くの疾患と関連することを理解し、そのエビデンスを確認する。さらに、医科歯科連携の立場からも周術期、化学療法中の急性期口腔ケア、介護施設での口腔衛生管理が重要であり、その手法の理解、さらに科学的根拠を学修する。</p> <p>この科目を受講した者は患者看護の上で、いかにオーラルヘルスが重要であるかがわかるようになる。</p>						
授業の概要						
<p>最初に口腔解剖学、口腔生理学を概観する。次に口腔内に生じる多彩な疾患とその診断、治療法、予防法を理解する。口腔を初発部位とする全身疾患や口腔症状が全身病の部分症状である疾患群を学ぶ。口腔内嫌気性菌を原因とする歯周病の発生メカニズムを知った上で、歯周病に関連する医療である periodontal medicine の理解に重点を置く。口腔ケアの実践に当たっては患者の基礎疾患、病状把握が重要であり、個々の患者に適した手法と口腔ケアの効果、その科学的エビデンスを知る。また、近年骨粗しょう症患者やがん患者に投与されるビスフォスフォネート製剤やランマークなどで薬剤性顎骨壊死が増加しており、大きな研究課題になっている。そのメカニズム、対処法について理解を深め、科学的エビデンスを検証する。(岡本樹/7回)</p> <p>口腔機能と唾液分泌との関連性、口腔粘膜や唾液などが正常に機能するための要素、オーラルフレイル予防法、適切なオーラルアセスメントとケア実践、最先端のオーラルケア研究について概説する。また、嚥下障害と嚥下性肺炎の概説、及び全身ケアにつながる口腔ケア実践について、近年の研究成果を踏まえて論述する。さらに口腔ケアの発展的教育としての看護基礎教育の展開について論ずる。(中島紀子/8回)</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-13：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	オリエンテーション 口腔医学の概略 (岡本)	対面授業		口腔外科学 白砂兼光 編 医歯薬出版、ほか		
2	口腔解剖学、口腔生理学 (岡本)	対面授業	事後：口腔の発生、解剖について理解する			
3	顎顔面先天異常、顎変形症 (岡本)	対面授業	事後：顎顔面先天異常について、その原因と治療の流れを理解する			
4	歯周病医療 (岡本)	対面授業	事後：歯周病の病態について理解する	診断と治療9：歯周病が及ぼす全身疾患への影響 診断と治療社		
5	口腔癌の治療法と看護 (岡本)	対面授業	事後：口腔癌の治療とその後のリハビリテーションについて理解する			
6	薬剤性顎骨壊死 (岡本)	対面授業	事後：MRONJの病態について理解する	薬剤性顎骨壊死ポジションペーパー		

7	口腔ケアの方法論 (岡本)	対面授業	事後：口腔ケアについてその方法について理解する	成果の上がる口腔ケア 岸本裕充編著 医学書院 よくわかる歯科医学・口腔ケア 喜久田利弘編 医学情報社 内科医から伝えたい歯科医院に知ってほしい糖尿病のこと 西田亙著 医歯薬出版
8	オーラルフレイルとは (中島)	オーラルフレイルの概念や取組みについて学修する。	【事前】オーラルフレイルについて調べる 【事後】オーラルフレイルの概念を理解する。	関連文献
9	口腔機能低下とその影響 (中島)	口腔機能低下が全身に及ぼす影響を学修し、討議する。	【事前】口腔機能低下に関連する文献検索 【事後】講義内容の復習	関連文献
10	摂食嚥下障害とその影響 (中島)	摂食嚥下障害に対する包括的アプローチについて学修し討議する。	【事前】摂食嚥下障害に関する文献検索 【事後】講義内容の復習	関連文献
11	認知症と口腔の健康 (中島)	認知症、要介護高齢者の口腔内の健康について学修し討議する。	【事前】認知症と口腔ケアに関する文献の検索 【事後】講義内容の復習	関連文献
12	オーラルフレイルとフレイル、サルコペニアとの関連 (中島)	オーラルフレイルとフレイルとの関連を学修し討議する。	【事前】フレイル、サルコペニアについて調べる 【事前】講義内容の復習	関連文献
13	要介護高齢者に対する口腔ケア (中島)	要介護高齢者に対する口腔ケアに関する研究の動向を調べ、課題を明確化する。	【事前】要介護高齢者に対する口腔ケアの研究の動向を調べる 【事後】講義内容の復習	関連文献
14	要介護高齢者に対する口腔ケアの課題と課題解決 (中島)	臨床経験をふまえ、明確化した課題解決に向け、討議する。	【事前】前回の討議をふまえ課題を明確にする 【事後】解決策の検討	関連文献
15	口腔健康管理の在り方と多職種連携(中島)	口腔健康管理の在り方を多職種連携の視点から学修し討議する。	【事前】口腔ケアと多職種連携に関連する文献の検索 【事後】講義内容の復習	関連文献
16	試験			
教科書・参考文献など				
適宜講義内で紹介				
最終到達目標			評価方法	
1. 口腔解剖学、口腔生理学で学んだ疾患や予防法を理解する。 2. 歯周病のメカニズムと対処法について理解する。 3. オーラルフレイルの概念を理解する。 4. オーラルフレイルと要介護者の支援における課題と解決策を理解する。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
評価基準				
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMB0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	共通科目(選択) EMB05				教育・実践力	○
授業科目名	ヘルスアセスメント特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	高田律美 別宮直子 羽藤典子				提言力	○
授業の目的						
各種の健康課題を抱える人々への身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面のアセスメントの知識と技術を学修することを目的とする。フィジカルアセスメント、及び心理社会的側面へのアプローチにつながる臨床判断能力を高めるために系統的、実践的に学修する。						
授業の概要						
<ul style="list-style-type: none"> ・女性の心身医学を中心に性差医学的な視点で学修する。妊娠期も含めた、高齢者までのライフサイクルを通して、女性のフィジカルな変化をアセスメントする方法の実際や鑑別診断、看護ケアについて学修する。 ・乳幼児期からの子どもの健康の特徴を捉え、とくに成育医療に関する、成人まで続く子どもの心身の成長発達と疾患との関連のフィジカルアセスメントの実際を学修する。 ・心理社会的側面のアセスメントとして、躁鬱(双極性障害・うつ・軽度認知障害)を中心に、同定する主訴、各主症状の確認と過小評価の危険性、問診に必要なコミュニケーション技術、生活背景の聴取と家族からの情報聴取について詳述する。(オフィスアワー：火曜日 13:20-14:50) 						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。女性のライフサイクルと性差医学(高田)	女性のライフサイクルと性差医学：心身医学的アプローチ法について講義・グループディスカッション実施。	女性のライフサイクルと性差医学について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
2	女性と生殖器疾患と関連症状(高田)	女性のライフサイクルに伴う生殖器疾患と関連症状の講義・グループディスカッション実施。	女性のライフサイクルと生殖震撼と関連症状について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
3	生殖医療と周産期のフィジカルアセスメント(高田)	生殖医療と周産期のマタニティヘルスに関連するフィジカルアセスメントを講義・グループディスカッション実施。	生殖医療と周産期のマタニティヘルスに関連するフィジカルアセスメントについて文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	助産師のためのフィジカルイグザミネーション		
4	女性の暴力被害と依存症(高田)	女性の暴力被害と依存症：ソーシャルワークとエンパワーメントによるアプローチ法を講義・グループディスカッション実施。	女性の暴力被害と依存症：ソーシャルワークとエンパワーメントによるアプローチ法等について文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
5	女性のライフサイクル各期の課題(高田)	女性の心身疾患や症状、社会的課題に関連する最新の動向、知識、介入技術について講義・グループディスカッション実施。プレゼンテーション/グループディスカッション	女性の心身疾患や症状、社会的課題に関連する最新の動向、知識、介入技術について文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
6	子どものフィジカルアセスメントの基本(羽藤)	小児における初期評価と小児アセスメントトライアングル(PAT)のポイントや対応方法、適切なV.S.測定に必要な知識・関わり方	トリアージにおいて汎用される小児評価トライアングル、小児におけるバイタルサインの特徴について事前学修する。事後学習について			

		について講義・ディスカッション実施。	ては、講義時に提示予定。	
7	子どもの呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメントのポイント(羽藤)	発達段階に応じた呼吸機能、循環機能のアセスメントについて、視診、聴診の方法・留意点のほか、実際の聴診音について講義・ディスカッションを実施。	小児における呼吸・循環器の解剖学的特徴、異常呼吸音等について事前学習をする。事後学習については、講義時に提示予定。	
8	子どもの腹部・運動機能(反射)のフィジカルアセスメントのポイント(羽藤)	腹部から鼠蹊部にかけての視診、触診、聴診、打診の実際と成長・発達の過程にある子どもの特徴を踏まえた、運動機能(反射)についてのアセスメントの講義・ディスカッションを実施。	小児における消化器系、鼠径部の解剖学的特徴、原始反射等について事前学習をする。事後学習については、講義時に提示予定。	
9	子どもの発疹に関するフィジカルアセスメントのポイント(羽藤)	子どもの代表的な発疹に関する特徴やアセスメント、必要な対応、ホームケアについて講義・ディスカッションを実施。	子どもの代表的な発疹の性状、隔離が必要な疾患、緊急性の高い(発疹)疾患、基本的なワクチンの時期・種類等について事前学習する。	
10	健康問題をかかえた子どもや家族への支援と課題(羽藤)	小児医療に関する現在の動向を踏まえ、自身の興味のあるテーマを選定し、文献をもとにしたプレゼンテーション・ディスカッションを実施。	各担当者は、自身の興味のあるテーマについて文献をもとに調べ、プレゼンの準備を行う。	
11	双極性障害(別宮)	双極性障害の主症状と鑑別診断における留意点、心理社会的側面のアセスメントについて、プレゼン・ディスカッション実施。	担当者は、双極性障害について、文献をもとに調べ、プレゼンの準備を行う。	
12	うつ病(別宮)	うつ病の主症状と鑑別診断における留意点、心理社会的側面のアセスメントについて、プレゼン・ディスカッション実施。	担当者は、うつ病について、文献をもとに調べ、プレゼンの準備を行う。	
13	軽度認知障害(別宮)	軽度認知障害の主症状と鑑別診断における留意点、心理社会的側面のアセスメントについて、プレゼン・ディスカッション実施。	担当者は、軽度認知障害について、文献をもとに調べ、プレゼンの準備を行う。	
14	BPSD(別宮)	BPSDと周辺疾患の心理社会的アセスメントについて、プレゼン・ディスカッション実施。	担当者は、BPSDについて、文献をもとに調べ、プレゼンの準備を行う。	
15	知的障害(境界域)(別宮)	境界域を含む知的障害の主症状と鑑別診断における留意点、心理社会的側面のアセスメントについて、プレゼン・ディスカッション実施。	担当者は、知的障害について、文献をもとに調べ、プレゼンの準備を行う。	

教科書・参考文献など

1-5 回参考文献：*女性生涯看護学、吉沢豊予子編、真興交易(株)医書出版部(2004)*助産師のためのフィジカルイグザミネーション、我部山キヨ子、大石時子編、医学書院(2018)
6-10 回参考文献：二宮啓子、今野美紀「小児看護学Ⅰ 小児看護学概論・小児看護技術 子どもと家族を理解し力を引き出す」南江堂(2022)、今野美紀・二宮啓子編、「小児看護学Ⅱ 小児看護支援論 子どもと家族の主体性を支える」改訂版第4版、南江堂、(2022)
11-15 回参考文献：標準精神医学【第8版】尾崎紀夫、三村將、水野雅文、村井俊哉編集、医学書院(2021)、カプランの臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開、井上令一監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル(2021)

最終到達目標	評価方法
各種の健康課題を抱える人々への身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面のアセスメントの知識と技術を学修でき、そのアプローチ方法も含め、自身の学習課題を見出し、その分野についてプレゼンテーションができる。	課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・
履修判定指標・評価基準	
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EMB0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	共通科目（選択） EMB06				教育・実践力	○
授業科目名	患者指向性薬理学特論 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1 年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	本田和男				提言力	○
授業の目的						
<p>正常細胞ががん化するしくみを解明するため、40 年以上前から多くの遺伝子レベルでの研究が積みかさねられてきた。得られた膨大な知見を総合してがん細胞の遺伝子を解析することにより、個々のがん患者さんに最適な治療を選択するオーダーメイド医療：「がんゲノム医療」が保険適応となった。愛媛では四国がんセンターが拠点病院となり、愛大病院、県立中央病院、松山赤十字病院などが連携病院として臨床応用されている。ここでは「はじめてのがんゲノム医療—臨床のための基礎知識」という本をテキストとして、がんゲノム医療の実際を学ぶ。</p>						
授業の概要						
<p>がんゲノム医療の基礎知識、がんの分子生物学の基礎知識、がんゲノム解析の基礎知識、臓器横断的バイオマーカー、患者さんへ説明する歳のポイント、がんゲノム検査の種類、臓器別がんゲノム検査のポイントについて、テキストを中心に必要に応じて配布する参考資料を参照しながら学習を進める。</p> <p>（オフィスアワー：講義終了後 ～ 30 分）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1～3	がんの分子生物学の基礎知識	DNA の遺伝情報からたんぱく質の合成に至る過程を復習し、がんが遺伝子の変化による病気であることを学ぶ。ドライバー変異とパッセンジャー変異、癌遺伝子と癌抑制遺伝子、エクソンとイントロン、リーディングフレームと・突然変異とコドン表について講義と討論で理解を深める。	事前学習：学習課題に必要な基礎的知識を解剖生理学の教科書の該当部位を振り返り整理しておく。 事後学習：がん細胞における遺伝子の変異を説明できる。	適宜、適切な文献やプリントを配布する。		
4～5	がんゲノム医療の基礎知識	抗がん剤の種類と特徴、分子標的薬の特徴。がんの遺伝子解析、検体の種類、コンパニオン検査の公開情報。二次的所見と遺伝子カウンセリングについて講義と討論で理解を深める。	事前学習：学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく。 事後学習：従来の抗がん剤の選択とがんゲノム医療での抗がん剤の選択の違いについて説明できる。	適宜、適切な文献やプリントを配布する。		
6～7	がんゲノム解析の基礎知識	DNA の塩基配列を決定するためのシーケンシングの原理を学び、正常細胞由来の DNA とがん細胞由来の DNA の区別、遺伝子変異の結果のたんぱく質としての記載、DNA としての記載を学ぶ。	事前学習：学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく。 事後学習：塩基配列シーケンシングの原理を説明できる。	適宜、適切な文献やプリントを配布する。		
8～9	組織検体とリキッドバイオプシー	がんの組織を検体として用いる際の注意点と、リキッドバイオプシーと呼ばれる血液を検体として用いる場合の注意点について講義と討論で理解を深める。	事前学習：学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく。 事後学習：組織検体及び血液検体の取り扱いについて説明できる。	適宜、適切な文献やプリントを配布する。		
10～11	臓器横断的バイオマーカー	免疫チェックポイント阻害薬の作用メカニズムについて学びこの東急な薬剤の感受性の判定方法について理解する。その他の NTRK 融合遺伝子、BRAF、RET 融合遺伝子についても講義と討論で理解を	事前学習：学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく。 事後学習：免疫チェックポイント阻害薬について説明できる。	適宜、適切な文献やプリントを配布する。		

		深める.		
12	患者さんへ説明する際のポイント	がんゲノム医療について適応と期待される効果、検査の費用、副次的な遺伝情報の取り扱いについてわかりやすく説明できるように講義と討論で理解を深める.	事前学習：学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく。 事後学習：順序よくわかりやすく説明できるかシミュレーションを行う。	適宜、適切な文献やプリントを配布する.
13 ～ 14	がんゲノム検査の種類	がんゲノム検査の種類と利用可能なパネル検査について講義と討論で理解を深める.	事前学習：学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく。 事後学習：パネル検査の種類と臨床用途の理解	適宜、適切な文献やプリントを配布する.
15	臓器別がんゲノム検査のポイント	膵がん、胆道がん、胃がん、大腸がん、非小細胞性肺がん、乳がん、前立腺がん、脳腫瘍、骨・軟部腫瘍、甲状腺がん、卵巣がん、悪性黒色腫について講義と討論で理解を深める.	事前学習：学習課題に必要な基礎的知識を振り返り整理しておく。 事後学習：それぞれのがんに用いられるがんゲノム検査を説明できる.	適宜、適切な文献やプリントを配布する.
教科書・参考文献など				
「はじめてのがんゲノム医療—臨床のための基礎知識」 加藤真吾 南江堂 2025年 JSBN978-4-524-21808-0				
最終到達目標			評価方法	
がんゲノム医療を知ることががん患者の看護職の立場から極めて重要である。自分自身で理解しわかりやすく説明できることが目標となる。			課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(80%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定基準・評価基準				
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMB0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	共通科目（選択）EMB07				教育・実践力	○
授業科目名	感染マネジメント特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	三並めぐる 高田律美 中島紀子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、病院や地域においても喫緊の課題となっている COVID-19 などの感染症対策において、様々な感染症リスク回避、及び適切で迅速な対応の必要性と重要性について学修し、感染症に対する専門的知識、及び技術とリスクマネジメントとしての感染拡大防止対策について知識を得ることを目的とする。個人、組織、地域を守るための感染マネジメントの考え方と、最新のエビデンスに基づいた予防対策、コンサルテーションに関する知識を深める。各組織のリーダーとして、管理者として、研究者としての感染マネジメントと具体的戦略について学修する。</p>						
授業の概要						
<p>感染対策とマネジメントの基本コンセプト、感染対策プログラム・ガイドラインについて詳述するとともに、人体の免疫機構と感染の成立機序、感染症の病態と治療、薬物療法とワクチンについて最新の知識と技術について論述する。感染症関連の関係法規（医療法・感染症法・学校保健安全法・予防接種法など）の最新の動向、及び感染予防・管理システムの組織的計画の在り方、感染予防・管理システムの運用と評価、サーベイランスの考え方と手法について管理的視点から詳述する。実践の場における感染防止に関する科学的根拠とその評価、及び感染予防の視点からのケア改善と業務改善、感染対策チーム（ICT）の機能と役割、コンサルテーションとファシリティマネジメントについて学修する。また災害時・パンデミックを想定した準備と対応、感染に関連した倫理的課題について、研究的視点で論述する。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション（三並）	感染症関連の関係法規（医療法・感染症法・学校保健安全法・予防接種法など）の最新の動向	感染症関連の関係法規について、事前に調べ、発表できる準備を行う。	各自で文献用意		
2	感染予防・管理システムの組織的計画、運用と評価（三並）	感染予防対策の基本について学修し、ディスカッションする。	感染予防について、事前に調べ、発表できる準備を行う。	参考書「国際基準の感染予防対策ナーシングスキルズ」・文献		
3	サーベイランスの考え方と手法①（三並）	医療関連感染サーベイランスと全般的手順について学修し、ディスカッションする。	サーベイランスとその手順、方法について、事前に調べ、発表できる準備を行う。	教科書「感染対策のためのサーベイランス」2-69 ページ・文献		
4	サーベイランスの考え方と手法②（三並）	種類別サーベイランスデータの分析・活用方法について学修し、ディスカッションする。	サーベイランスデータの分析・活用方法について、事前に調べ、発表できる準備を行う。	教科書 72-225・文献		
5	ワクチンの基礎知識とこれからのワクチン（三並）	ワクチンの基礎知識とこれからのワクチンについて学修し、ディスカッションする。	ワクチンの基礎知識とこれからのワクチンについて、事前に調べ、発表できる準備を行う。	参考書「歴史から読み解くワクチンのはなし」・文献		
6	宿主、寄生体、環境の相互作用と感染のメカニズム（高田）	感染症のメカニズムと主な病原体の性状と宿主についての基礎的知識について学修し、ディスカッションする。	感染症のうち関心のあるテーマについてディスカッションで話題提供できるように準備を行う。	「感染制御の基本がわかる、微生物学・免疫学」（羊土社、2020）		
7	主な病原体の性状と宿主（高田）	感染症のメカニズムと主な病原体の性状と宿主についての基礎的知識について学修する。各自	事後学修：前回のテーマで興味のあるところについて文献を追加で調べたところを発表できる。	「感染制御の基本がわかる、微生物学・免疫学」		

		感染に関する文献についてディスカッションする。		学」(羊土社、2020)
8	免疫のメカニズムとワクチン (高田)	免疫のメカニズムとワクチンの基礎的知識について学修する。各自感染に関する文献についてディスカッションする。	事後学修：前回のテーマで興味があったところについて、文献を追加で調べたところを発表できる。	「感染制御の基本がわかる、微生物学・免疫学」(羊土社、2020)
9	院内感染の疫学、地域における感染流行に対する疫学と感染防御の概要 (高田)	院内感染の疫学、地域における感染症の流行に関する疫学と感染防御の概要の基礎的知識について学修する。各自感染に関する文献についてディスカッションする。	事後学修：前回のテーマで興味があったところについて、文献を追加で調べたところを発表できる。	「感染制御の基本がわかる、微生物学・免疫学」(羊土社、2020)
10	感染に関連する最新の知識、技術、疫学的動向や感染防御 (高田)	感染の基礎理論に関する最新の知識、技術、疫学的動向や感染防御について、文献を基にプレゼンテーション後グループディスカッションで理解の共有が図れる	事前学習：各自が興味あるテーマでレジメを作成し、プレゼンテーションできるように準備する。	院生各自の文献
11	院内感染症 (中島)	最近の院内感染について、事例をもとにディスカッションする。	内因性感染と外因性感染について調べる。	参考書「基礎から学ぶ医療関連感染対策」
12	臨床における感染予防 (中島)	標準予防策、針刺し防止対策、廃棄物処理について学修する。	臨床における感染要因について整理する。	参考書「基礎から学ぶ医療関連感染対策」
13	ICTの役割 (中島)	院内におけるICTの役割と機能について学修する。	臨床におけるICTの実際のはたらかしをイメージする。	参考書「基礎から学ぶ医療関連感染対策」
14	災害時の感染症 (中島)	災害時における感染対策の必要性について学修する。	災害時に感染につながる要因について調べる。	参考書「基礎から学ぶ医療関連感染対策」
15	新興感染症 (中島)	新興感染症の定義と現状について学修する。	最近話題になった新興感染症について調べる。	参考書「基礎から学ぶ医療関連感染対策」
教科書・参考文献など				
(参考書) 増澤俊幸著：感染制御の基本がわかる、微生物学・免疫学、羊土社(2020) 3,080円 (参考書) ICHG研究会編：国際基準の感染予防対策ナーシングスキルズ、医歯薬出版株式会社(2021) 5,500円 (教科書) 藤田烈編集：感染対策のためのサーベイランス、MCメディカ出版(2015) 4,400円 (参考書) 中山哲夫著：歴史から読み解くワクチンのはなし、朝倉書店(2023) 2,860円 (参考書) 坂本史綱著：基礎から学ぶ医療関連感染対策、南江堂(2019) 3,080円				
最終到達目標			評価方法	
感染症に対する専門的知識、及び技術とリスクマネジメントとしての感染拡大防止対策について理解し、個人、組織、地域を守るための感染マネジメントの考え方を基に、最新のエビデンスに基づいた予防対策、コンサルテーションに関する知識をもとに感染マネジメントができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				

(E : 試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、 F : 出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMC0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 基盤看護学領域 EMC01				教育・実践力	○
授業科目名	看護教育・管理学特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1学次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	佐伯由香 村上早苗				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、看護教育学に関する基礎的概念や理論を学び、「看護学」教育における主要課題；例えば看護教育制度、教育課程、講義・演習・実習、臨地実習、継続教育等について学修し、看護教育発展のための効果的な教育方法の開発を探究することを目的とする。また看護管理学においては、職場（病院・施設等）における看護組織マネジメント、良質な看護サービスの提供、リーダーシップとフォロワーシップ、医療安全等について学修し、医療の質保証について考究する。</p>						
授業の概要						
<p>看護学は実践の科学である。看護基礎教育課程における教育学的な学修（講義、演習、臨地実習等）について、看護ケアを高めるための知識・理論・技術・態度・倫理観等をどのように教育するのか論述する。また卒業教育や継続教育について考察する。看護教育学の教授研究領域についても概説する。看護管理学においては、看護管理に必要な基本的知識・理論を学び、医療・看護の質の維持・向上のため、現場における看護管理の在り方を考え、看護サービスの実際について具体的に考察する。さらに生涯にわたって主体的に学び続けることの重要性を論じる。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：10-14：40）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	看護教育学に関する基礎的概念	<ul style="list-style-type: none"> 看護教育と看護教育学 「看護学」の教育 看護教育学の教授研究領域 ディスカッション 	【事前】自身が受けた看護教育について想起する。【事後】看護教育学の教授研究内容領域について、自身が研究したい興味・内容について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> オリジナル資料配布 杉森みど里、舟島なをみ著：看護教育学、医学書院、2009 		
2	看護教育制度	<ul style="list-style-type: none"> 看護教育の歴史の変遷 看護教育制度と各法規との関連 ディスカッション 	【事前】看護師養成教育について調べておく。【事後】看護師養成教育と学校教育制度について理解しておく。	<ul style="list-style-type: none"> オリジナル資料配布 学生に課題を与える（レジュメ提出） 		
3	看護教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 看護基礎教育課程 教育課程（カリキュラム） ディスカッション 	【事前】自身が受けた教育カリキュラムについて想起しておく。【事後】看護基礎教育課程と大学院教育との継続性について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> オリジナル資料配布 学生に課題を与える（レジュメ提出） 中井俊樹編著：カリキュラムの編成、玉川大学出版部、2022 		
4	大学院教育と高度実践看護師の育成	<ul style="list-style-type: none"> 大学院教育の意義・目的 専門看護師、認定看護師、認定看護管理者、特定行為実践看護師の社会的役割・機能 ディスカッション 	【事前】現在、大学院で学んでいることについて内省する。【事後】わが国の保健医療福祉状況における看護職の量と質について考えておく。	<ul style="list-style-type: none"> オリジナル資料配布 学生に課題を与える（レジュメ提出） 		
5	教授—学習過程	<ul style="list-style-type: none"> 講義 演習、実習 臨地実習 シラバス ディスカッション 	【事前】自身が受けた看護教育の実際について想起する。【事後】教授—学習課程の構造について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> オリジナル資料配布 学生に課題を与える（レジュメ提出） 		

6	看護教育と学習原理	<ul style="list-style-type: none"> ・成人学習者 ・学習理論（古典的条件づけ、道具的条件づけ、刺激-反応理論、洞察、自己効力理論、クランボルト理論） ・ディスカッション 	<p>【事前】自身が受けた看護教育の実際について、講義・演習・臨地実習はどのようなものであったか振り返りを行う。【事後】看護学が実践の科学であるためには、看護実践で用いられる学習理論や各種エビデンスが存在していることを認識する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル資料配布 ・学生に課題を与える（レジュメ提出）
7	看護管理学に関する基本的概念	<ul style="list-style-type: none"> ・管理とは何か ・看護管理の構造 ・ディスカッション 	<p>【事前】自身が所属する組織体の管理の実際について考えておく。【事後】看護管理の構造について深く理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル資料配布 ・橋本徹著：決断力、PHP新書1265 ・学生に課題を与える（レジュメ提出）
8	リーダーシップとフォロワーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・フォロワーシップ概念モデル ・状況対応リーダーシップモデル ・ディスカッション 	<p>【事前】組織を意図的・目的的に動かす方法について想起しておく。【事後】リーダーシップとフォロワーシップの相違と重要性を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル資料配布 ・学生に課題を与える（レジュメ提出）
9	医療安全①	<ul style="list-style-type: none"> ・ハインリッヒの法則 ・医療事故と医療従事者の過失 ・アクシデントとインシデント ・ディスカッション 	<p>【事前】看護管理において最も重要な患者の安全について認識しておく。【事後】ハインリッヒの法則の重要性とリスクマネージメントの在り方について理解を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル資料配布 ・学生に課題を与える（レジュメ提出）
10	医療安全②	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマンエラーと医療事故 ・ヒューマンエラーの防止 ・看護業務の特性と事故 ・ディスカッション 	<p>【事前】過去に起きている医療事故（看護に関する事故）について調べておく。【事後】ヒューマンエラーの重要性を認識する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル資料配布 ・学生に課題を与える（レジュメ提出）
11	生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の必要性 ・職業的能力を向上させるための継続教育、研修 ・看護師の生涯学習 	<p>【事前】自身の生涯学習を認識する。【事後】看護における学びの意義について理解を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル資料配布 ・木村 元編集；系統看護学講座「教育学」、236-246、医学書院 ・学生に課題を与える（レジュメ提出）
12	【文献検討】	<p>論文輪読 浦上昌則著：学生の進路選択に対する自己効力に関する研究、名古屋大学教育学部紀要、42巻、115-126、1995</p>	<p>【事前】学生個々に分担を決めて課題を与える。論文を熟読しておく。自身の担当部分のレジュメを作成する。【事後】自身の発表に対する他者の意見を傾聴し、自己評価をする。レジュメの修正を行い教員に提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル文献を配布する
13	【文献検討】	同上	同上	
14	【文献検討】	同上	同上	
15	【文献検討】	同上	同上	
教科書・参考文献など				
必要に応じて資料を配布する。				
最終到達目標			評価方法	

<p>①看護教育の歴史的変遷を理解し、看護基礎教育課程の実際や看護教育制度、継続教育の現状について説明できる</p> <p>②学習者の自己教育力を育成するための教育方法について説明できる</p> <p>③教育プログラムを立案できる</p> <p>④看護管理の本質と特徴について理解できる</p> <p>⑤看護管理と医療安全について説明できる</p>	<p>課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・</p>
<p>履修判定指標・評価基準</p>	
<p>履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EMC0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 基盤看護学領域 EMC02				教育・実践力	○
授業科目名	看護教育・管理学特別演習 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	佐伯由香 村上早苗				提言力	
授業の目的						
本科目は、看護教育・管理学特論Mの学修を踏まえ、自己の研究課題を明確にするために、看護教育・管理学に関連する国内外の論文講読を行い、研究デザインの導き方、研究方法の妥当性・信頼性・新規性、論理的・批判的思考の展開方法等について示唆を得ることを目的とする。						
授業の概要						
学習者の研究課題や関心に応じて、文献講読や看護教育の現場、病院施設等のフィールドワークを実施し、看護教育学的検討・考察や看護管理学的検討・考察を行う。その結果を報告・討議し、自身の研究課題に結び付ける。						
(オフィスアワー：火曜日 13:20-14:50)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	看護学教育とは	<ul style="list-style-type: none"> ・大学教育と指定規則 ・教育課程（カリキュラム）の意義と実際 ・ディスカッション 	【事前】 既習した看護教育・管理学特論Mの振り返り学習をする。 【事後】 看護学教育における法的根拠、カリキュラムの実際について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル資料配布 ・杉森みどり、舟島なをみ著：看護教育学、医学書院、2017 		
2	同上	同上	同上	同上		
3	授業の組織化	<ul style="list-style-type: none"> ・授業設計と授業の組織化 ・事例検討—授業計画の立案（目的、目標、講義概要等）—人間環境大学松山看護学部の授業科目；「生と死のケア演習」を用いる ・ディスカッション 	【事前】 「生と死のケア演習」のシラバスを読んでおく。 【事後】 事例検討を通して授業設計の必要性を理解する。	河野の担当科目「生と死のケア演習」のシラバス配布		
4	同上	同上	同上	同上		
5	教授—学習過程（教材研究）	<ul style="list-style-type: none"> ・学部生教育「生と死のケア演習」に参加（1コマ目） 	【事前】 本学の科目；「生と死のケア演習」の中で提示されている文献のうちひとつを選び、記載されている内容について要約・記述する。 【事後】 講義プレゼンテーションを通して内容の理解を深める。	学生自身が選択した文献、及びプレゼンテーションのレジュメ		
6	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・同上（2コマ目） 	同上	同上		
7	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・「生と死のケア演習」で使用されている教材文献から、自身が最も興味・関心を引く文献を選んで、何が書かれているか、なぜこの文献が使われたのかをプレゼンテーションする。 ・ディスカッション 	同上	同上		
8	シラバスとは	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスとは ・講義科目「生と死のケア演習」を用いて、シラバスの概要をクリ 	【事前】 シラバス作成基準を読んでおく（事前配布）。 【事後】 シラバスの考え方について理解を深め	・芦田宏直著：シラバス論、晶文社、2019		

		<ul style="list-style-type: none"> ・ ティークする。 ・ シラバス作成基準 ・ ディスカッション 	る。	・ 中井俊樹編著：カリキュラム編成、玉川大学出版部、2022
9	同上	同上	同上	同上
10	地域包括ケアシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケアシステム、及び地域包括支援センターについてフィールドワークを実施する。 	<p>【事前】地域包括支援センターにアポイントメントをとっておく。</p> <p>【事後】フィールドワークの記録をする。</p>	・ オリジナル資料
11	同上	同上	同上	同上
12	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドワークの実際についてスライドを用いて発表（プレゼンテーション）する。 ・ ディスカッション 	<p>【事前】フィールドワークで得られた事実を資料にする。パワーポイントを作成する。【事後】フィールドワーク、ディスカッションを通して、継続看護、多職種連携等の意義を認識する。</p>	・ 学生自身のプレゼンテーション資料
13	人間の「生きる意味」を問う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護教育学及び看護管理学の学問の根底にある人間が生きることの意味について学修する。 ・ 提示した文献の講読・分析 ・ ディスカッション 	<p>【事前】提示された文献を読んでおく。【事後】看護を考える上において、最も重要な人間の尊厳、個人の尊重、及び倫理観について考察する。</p>	・ ホセヨンバルト著：「人間の尊厳」と「個人の尊重」、法学教室、88 (1)、1988
14	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネガティブケイパビリティとは ・ 提示した文献の講読・分析 ・ ディスカッション 	<p>【事前】提示された文献を読んでおく。【事後】人間が生きることに於いて、答えの出ない事態に耐えるということとはどのようなことかを考察する。</p>	・ 帚木蓬生著：ネガティブケイパビリティ、朝日新聞出版、2022
15	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳死と臓器移植 ・ 提示した文献の講読・分析 ・ ディスカッション 	<p>【事前】提示された文献を読んでおく。【事後】脳死と臓器移植、生命倫理観と関連させながら死の意味を考察する。</p>	・ 柳田邦男：犠牲、わが息子脳死の11日、203-210
16	医療・看護とQOL	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療とQOL ・ 自身の興味・関心のある文献を抽出する。その文献に書かれている内容を要約してプレゼンテーションする。 ・ ディスカッション 	<p>【事前】自身で文献を選ぶ。文献を熟読・クリティークする。その後、要約して発表につなげる。【事後】ディスカッションにおいて、指摘された事柄を反芻し自身の研究的知識とする。</p>	・ 学生自身のプレゼンテーション資料
17	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護とQOL ・ 自身の興味・関心のある文献を抽出する。その文献に書かれている内容を要約してプレゼンテーションする。 ・ ディスカッション 	同上	・ 学生自身のプレゼンテーション資料
18	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急性疾患とQOL ・ 自身の興味・関心のある文献を抽出する。その文献に書かれている内容を要約してプレゼンテーションする。 ・ ディスカッション 	同上	・ 学生自身のプレゼンテーション資料
19	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 慢性疾患とQOL ・ 自身の興味・関心のある文献を抽出する。その文献に書かれている内容を要約してプレゼンテーションする。 ・ ディスカッション 	同上	・ 学生自身のプレゼンテーション資料
20	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・ ターミナルケアとQOL 	同上	・ 学生自身のプ

		<ul style="list-style-type: none"> ・自身の興味・関心のある文献を抽出する。その文献に書かれている内容を要約してプレゼンテーションする。 ・ディスカッション 		レゼンテーション資料
21	文献クリティーク	<ul style="list-style-type: none"> ・提示した文献；看護師のキャリア形成」について講読・分析し、レジュメを作成する。 ・量的文献 ・ディスカッション 	【事前】提示された文献を読んで、量的研究あるいは質的研究においてクリティークする。どのような知見が得られたのか、その妥当性・信頼性等はあるか、において自身の考えをまとめておく。【事後】文献クリティークに関して知識を深め、自身の研究課題に関する文献に対しても同様にクリティークできるようにする。	・林 有学、米山京子著：看護師におけるキャリア形成およびそれに影響を及ぼす要因、日本看護科学会誌、28(1)、12-20、2008
22	同上	同上 <ul style="list-style-type: none"> ・質的文献 ・ディスカッション 	同上	文献提示
23	同上	同上 <ul style="list-style-type: none"> ・実験的文献 ・ディスカッション 	同上	文献提示
24	同上	同上 <ul style="list-style-type: none"> ・諸外国の看護教育、管理に関する文献講読・分析 ・ディスカッション 	同上	文献提示
25	同上	同上 <ul style="list-style-type: none"> ・諸外国の看護教育、管理に関する文献講読・分析 ・ディスカッション 	同上	文献提示
26	看護教育の変遷と今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・パワポを用いた指導教員の看護教育私見、及び指定規則の変遷を論じる。 ・ディスカッション 	【事前】指定規則の変遷について調べておく。【事後】指導教員の教育歴と看護の変遷について理解する。	・指導教員の「看護教育学私見」パワーポイント ・新カリキュラム資料
27	同上	同上	同上	同上
28	看護教育・管理学に関する総括	<ul style="list-style-type: none"> ・看護教育及び管理学に関して学生自身が選んだ文献を用いてディスカッションを展開する。 	【事前】学生は文献を事前に選びメンバーに提示しておく。【事後】メンバーの意見や自身の考えを確認する。	・学生が提示する文献
29	同上	同上	同上	同上
30	まとめ	看護教育学・看護管理学に対する自身の考えを深めるとともに、自身の研究課題が今回の学修内容とどのように関連しているかについてディスカッションする。	【事前】学修の成果を検討する。 【事後】自身の研究課題について考えを進める。	
教科書・参考文献など				
必要に応じて資料を配布する。				
最終到達目標			評価方法	
①文献のクリティーク方法が理解できる ②現在の看護教育の状況や今後のあるべき方向性を説明できる ③看護管理の実践活動や新しい知見について意見交換ができる			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	

④今後の探究課題を明確化できる	
履修判定指標・評価基準	
<p>履修判定指標：</p> <p>評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EMC0301			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 基盤看護学領域 EMC03				教育・実践力	○
授業科目名	実践基礎看護学特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	
担当教員	中島紀子				提言力	
授業の目的						
<p>本科目は、看護学の基盤となる基礎看護技術について、その根拠への理解を深めるとともに、看護実践のありかたや効果的な看護、及び看護技術の実施方法について多角的に考察し理解を深めることを目的とする。</p> <p>新時代における看護や看護の役割について知識を深め、看護技術や看護の教育的役割について考究する。また、看護専門職として人がその人らしく「生活する」ための効果的な看護とその技術の実施方法や教育方法について検討する。</p>						
授業の概要						
<p>本科目は、基礎看護学における基礎看護技術について、実践科学として理論的に説明できるよう、自身の実践の中で経験した事例を論理的に記述し、看護学の知識に文献を反映して意味づけをする。ケースレポートにまとめて課題解決につなげ、看護実践の本質的特徴について検討することで、科学的根拠をふまえた知識と技術の獲得につなげる。臨床現場において個別性のある看護を遂行するための看護実践能力を高める。</p> <p>(オフィスアワー：木曜日 16:30-18:00)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	新時代の看護	看護の対象と看護学、新時代の看護の役割等について概説する。	【事前】新時代の看護とはどういうものか考える。 【事後】新時代の看護の役割について理解する。	適宜資料		
2	生活と健康	生活と健康に関する概念モデルを概観し、ディスカッションを行う。	【事前】生活と健康に関する文献調査を実施する。 【事後】概念モデルを復習する。	健康という幻想		
3	ケアの本質	ケアとは何か、ケアの本質についてメイヤロフの文献を用いて学修し、ディスカッションを行う。	【事前】メイヤロフのケアの本質について調べる 【事後】メイヤロフのケアの本質の意味を理解する。	ケアの本質		
4	看護活動展開の方法	看護過程、看護活動の情報、情報テクノロジー、健康情報とヘルスリテラシーについて概説する。	【事前】看護活動について振り返る 【事後】看護活動の展開について理解する。	適宜資料		
5	看護における人間関係とコミュニケーション	援助関係とは、コミュニケーションの特性について学修しディスカッションを行う。	【事前】コミュニケーションの特性について考える 【事後】援助関係、コミュニケーションの特性について理解する。	配布資料		
6	看護活動の前提となる技術	感染看護、看護動作とボディメカニクス、医療安全について概説する。	【事前】日常業務における看護活動の前提となる技術について振り返る。 【事後】看護活動の前提となる技術について理解する。	適宜資料		
7	看護技術；EBN	EBN、技術の評価、看護技術教育の課題について学修し、ディスカッションを行う。	【事前】基礎看護技術の評価について調べる。 【事後】EBNの必要性、技術評価について理解する。	配布資料		
8	ヘルスアセスメント	身体的健康状態のヘルスアセスメント、心理状態と社会性のアセスメント、セルフケア能力について概説する。	【事前】ヘルスアセスメントについて調べる。 【事後】ヘルスアセスメントについて理解する。	適宜資料		

9	看護実践と看護実践能力	優れた看護ケアとは、看護ケアの質とは何かを学修し、ディスカッションを行う。	【事前】日本看護質評価改善機構の評価項目一覧を熟読する。 【事後】看護ケアにおける質保証について理解する。	看護ケアの質評価と改善
10	生活の質	生活の質とは、生活の質評価について学修し、看護実践の本質の特徴についてディスカッションを行う。	【事前】QOL の概念について調べる。 【事後】現代における QOL について理解する。	適宜資料
11	治癒促進と症状緩和ケア	タッチのケア、痛みのケア、味覚異常のケアについて概説する。	【事前】治癒促進や緩和ケアについて調べる。 【事後】タッチのケア、痛みのケア、味覚異常のケアについて理解する。	適宜資料
12	看護の教育的役割	看護の教育的役割について概説する。	【事前】看護の教育的役割について臨床場面を振り返る。 【事後】看護の教育的役割について理解する。	適宜資料
13	ヘルスプロモーションの基本理念と方策	ヘルスプロモーションのプロセス戦略や活動方法について概説する。	【事前】ヘルスプロモーションについて調べる。 【事後】ヘルスプロモーションの基本理念について理解する。	適宜資料
14	看護技術の測定	生体反応を測定した研究を概観しディスカッションを行う。	【事前】各自文献検索を行い、プレゼンできるよう準備する。 【事後】看護技術の測定について研究や臨床現場で活用できるか検討する。	適宜資料
15				

教科書・参考文献など

参考図書

- ①健康という幻想—医学の生物学的変化, ルネ・デュポス (著), 紀伊国屋書店 (1983) 880 円
- ②人間にとって健康とは何か, 斎藤環, PHP 研究所 (2016), 1,989 円
- ③看護ケアの質評価と改善, 一般社団法人日本看護室評価改善機構 (編), 医学書院, (2022), 3,300 円
- ④省察の実践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考, 柳沢昌一, 鳳書房, (2007), 4,400 円
- ⑤基礎看護学テキスト—EBN 志向の看護実践, 深井喜代子, 南江堂 (2023), 5,940 円

最終到達目標

評価方法

看護実践に関する文献から基礎看護技術について理解を深め、生活機能を向上させる看護技術について述べることも、課題を明確化し実践への応用を考察することができる。

課題達成度を以下の方法で評価する
筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・

履修判定指標・評価基準

履修判定指標：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

- A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)
 - B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)
 - C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 - D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)
- (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMC0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 基盤看護学領域 EMC04				教育・実践力	○
授業科目名	実践基礎看護学特別演習 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	中島紀子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は実践基礎看護学特論 M の学修をふまえ、実践における基礎看護に存在する課題を追求し、多角的視点から現象をとらえ、自己の研究課題を明確にすることを目的とする。実践基礎看護学に関連する論文購読を行うとともに、研究デザイン、研究方法の妥当性、信頼性、得られた結果の新規性等を論理的、批判的に精読し、科学的論理的思考に基づく研究課題を導き出す。また学生の研究課題や関心、必要に応じて、看護教育の現場や、病院施設でのフィールドワークに参加し、その結果を報告・討議し、自身の研究課題に結び付ける。</p>						
授業の概要						
<p>本科目は、自己の研究課題を明確にするために、疾患を抱えながら治療や生活をする人への基礎看護技術（日常生活行動、観察、安全・安楽・自立）に関連するテーマを中心に論文を精読し、研究手法について学修する。自己の研究課題を明確にする必要がある場合には、必要時看護教育現場や病院施設等のフィールドワークを実施し、実践看護の構造や有用性・妥当性について検討し、自己の研究課題に結び付ける。</p> <p>（オフィスアワー：木曜日 16:30-18:00）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1~2	科目オリエンテーション クリティークとは	クリティークとは何か概説する。	【事前】クリティークについて調べる。 【事後】講義内容を振り返り次回の講義までにクリティークについて理解する。	文献レビューのきほん		
3~6	文献クリティークの方法	研究課題に関連する文献を選定し概観する。 自己の研究課題に関する研究の動向をつかみ、ディスカッションを行う。	【事前】研究課題に関連する文献の選定 【事後】ディスカッション内容を振り返りまとめる。	適宜資料 関連文献		
7~10	論文クリティークの実際①	質的研究における文献クリティークについてまとめ、質的研究の文献クリティークを実施する。	【事前】文献を熟読する。 【事後】研究内容および研究手法を理解する。	適宜資料 関連文献		
11~14	論文クリティークの実際②	尺度開発における文献クリティークについてまとめ、尺度開発に関連する文献クリティークを実施する。	【事前】文献を熟読する。 【事後】研究内容および研究手法を理解する。	適宜資料 関連文献		
15~18	文献クリティークの実際③	介入研究における文献クリティークについてまとめ、介入研究に関連する文献クリティークを実施する。	【事前】文献を熟読する。 【事後】研究内容および研究手法を理解する。	適宜資料 関連文献		
19~22	文献クリティークの実際④	システムティックレビューにおける文献クリティークについてまとめ、システムティックレビューのクリティークを実施する。	【事前】文献を熟読する。 【事後】研究内容および研究手法を理解する。	適宜資料 関連文献		
21~24	文献クリティークの実際⑤	ケーススタディにおける文献クリティークについてまとめ、ケーススタディに関連する文献クリティークを実施する。	【事前】文献を熟読する。 【事後】研究内容および研究手法を理解する。	適宜資料 関連文献		

25 ～ 28	課題の探求	自己の研究課題と学修内容の関連についてディスカッションを行う	【事前】研究課題明確にする。 【事後】研究課題を明確にするための研究方法について検討する。	文献レビューのきほん
29 ～ 30	まとめ	これまでの学習について振り返り、クリティカルシンキングについての理解を深める。	【事前】これまでの文献を再読する 【事後】自己の研究課題との関連について検討する。	適宜資料 関連文献
教科書・参考文献など				
参考書：文献レビューのきほんー看護研究・看護実践の質を高める 大木秀一（著），医歯薬出版第一版（2013），2,860円				
最終到達目標				評価方法
1. クリティークとは何か理解することができる。 2. 文献クリティークを行い、研究手法を理解することができる。 3. 看護技術と自己の研究課題につなげて考察することができる。				課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMC0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目・基盤看護学領域 EMC05				教育・実践力	○
授業科目名	基盤看護学特別研究IM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1学年/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	佐伯由香				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、看護教育・管理学の質保証に欠かせない科学的知見を得るために、看護サービスの提供、看護システム、看護教育の内容、及び展開方法等について個別研究指導を行うことを目的とする。研究過程は①研究課題の把握、②研究テーマの設定、③関連文献の探索、④研究目的と研究デザインの決定、⑤研究計画・方法の決定、⑥データ収集、及びデータ分析を明確化し、修士論文計画書を作成して公開審査会で発表する。</p>						
授業の概要						
<p>学生自身の個別テーマに合わせて研究指導を実施する。担当教員のこれまでの研究テーマは、①看護教育課程の歴史の変遷の研究、②教授—学習課程の研究、③看護師の自己効力感と自己実現に関する研究、④看護師のアサーションに関する研究、⑤患者のQOLと人権に関する研究等である。</p> <p>看護の課題解決に向けた積極的・自主的な研究的取り組みを必要とし、正確で緻密なデータ収集やデータ分析、論理的・客観的文章の作成が求められる。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13:10-14:40)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	科目ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> 研究指導教員のガイダンス、及び副研究指導教員の紹介 研究課題の確認、イメージのさらなる検討 研究スケジュールの検討 ディスカッション 		【事前】ガイダンスを受け自身の研究の進め方を調整する。【事後】ガイダンス後に、自身の研究スケジュールを再調整する。	関連文献	
2	同上	同上		同上	同上	
3	研究動機の明確化	<ul style="list-style-type: none"> 研究課題に対する「問い」とその背景を明確化する ディスカッション 		【事前】研究課題のイメージの深化、文献検索。【事後】研究指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献	
4	同上	同上		同上	同上	
5	研究課題に関連した文献検索と文献クリティーク	<ul style="list-style-type: none"> 文献検索の方法 文献のクリティークにより、自身の研究課題への応用性の分析 ディスカッション 		【事前】関連する文献を集める。【事後】文献クリティークにより、研究テーマの新規性、研究方法の妥当性、研究対象の妥当性、データの収集法、データの客観性・信頼性、結果・考察の新規性・妥当性等を理解する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献	
6	同上	同上		同上	同上	
7	同上	同上		同上	同上	
8	同上	同上		同上	同上	
9	同上	同上		同上	同上	
10	研究課題の焦点化	<ul style="list-style-type: none"> 文献検討、文献クリティークから自身の研究課題を焦点化する。 ディスカッション 		【事前】自身の研究テーマを絞り込む。【事後】研究テーマの決定後は、特に関連する文献を精査する。指導教員とのディスカッションを	関連文献	

			ノートに書く。	
11	同上	同上	同上	同上
12	同上	同上	同上	同上
13	研究の概念モデルの構築（用いる理論の決定）	・研究目的、研究の概要から研究の概念モデル、あるいは用いる理論を検討する。	【事前】自身の研究テーマ、研究の問い、研究で明らかにしたいことを踏まえて、概念モデル（理論）を検討する。【事後】指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
14	同上	同上	同上	同上
15	研究テーマ、研究目的の決定	・研究テーマを決定する。 ・研究目的を文章化する。	【事前】研究テーマ、研究目的を文章化しておく。【事後】研究テーマ、研究目的を確実なものとする。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
16	同上	同上	同上	同上
17	研究計画書の作成	・研究デザイン、研究方法、倫理的配慮等の記載 ・研究計画書の記載マニュアルに従って書く。	【事前】研究計画書の記載マニュアルを読む。【事後】研究計画書を作成する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
18	同上	同上	同上	同上
19	同上	同上	同上	同上
20	同上	同上	同上	同上
21	修士論文計画発表会	・研究発表会に向けて、研究要旨の作成 ・パワーポイントの作成	【事前】自身が主張したい内容について把握する。【事後】発表要旨の作成をする。効果的なパワーポイントを作成する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
22	同上	同上	同上	同上
23	同上	同上	同上	同上
24	研究計画書の修正・完成	・発表会で指摘を受けたことに対する修正 ・研究計画書を完成させる。	【事前】発表会での指摘を真摯に受け止め表現する。【事後】研究計画書を完成させる。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
25	同上	同上	同上	同上
26	同上	同上	同上	同上
27	倫理申請書の作成・提出	・倫理申請書の内容に従って作成する。 ・研究内容に即した倫理申請書を作成する。	【事前】倫理的配慮について熟考する。【事後】審査結果に応じて修正・加筆する。指導教員とのディスカッションをノートに書く。	関連文献
28	同上	同上	同上	同上
29	同上	同上	同上	同上
30	総括	・看護の課題解決に向けた研究的取り組みを俯瞰的に考察し、倫理審査許可後の実際的な研究活動についてディスカッションする。	【事前】学修の成果を検討する。 【事後】自身の研究課題の追いをイメージしておく。	倫理申請書類一式の再考
教科書・参考文献など				
研究課題に必要な文献等は学生自身で検索する。				

最終到達目標	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・文献検索、検討を行い自己の研究課題（研究テーマ）を明確化できる。 ・研究テーマに基づき研究目的が設定できる。 ・研究目的を達成するための概念枠組み（理論モデル）を設定できる。 ・研究目的に応じた研究デザインを作成できる。 ・研究テーマ、目的、研究方法が内包された研究計画書が作成できる。 ・研究計画書に基づき研究構想発表ができる。 ・倫理審査委員会に申請書を提出できる。 	<p>課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・</p>
履修判定指標・評価基準	
<p>履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EMC0502			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 基盤看護学領域 EMC05				教育・実践力	○
授業科目名	基盤看護学特別研究IM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	中島紀子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、看護教育・管理学の質保証に欠かせない科学的知見を得るために、看護サービスの提供、看護システム、看護教育の内容、及び展開方法などについて個別研究指導を行うことを目的とする。研究過程は①研究課題の把握、②研究テーマの設定、③関連文献の探索、④研究目的と研究デザインの決定、⑤倫理的配慮、⑥データ分析の方法を明確化し、修士論文計画書を作成し、公開審査会で発表する。</p>						
授業の概要						
<p>本科目は、基礎看護学領域の視点から学生の研究テーマに合わせた研究指導を担当する。これまでの研究は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がん治療における口腔内合併症の予防的介入に関する研究 2. 限界集落地域での健康生活を維持するための社会的課題と取り組みの検証 3. 看護基礎技術に関するエビデンスの創出と看護基礎教育への発展的展開 4. 高齢者の尊厳の保持と自立生活支援のための課題の検討 <p>である。</p> <p>本科目は、1年次の4月に研究指導教員の決定と履修指導が決定された後、文献検討から課題を分析し、研究テーマを決定し研究計画書作成を行う。研究テーマ決定後、研究計画書の作成を始め、10月に研究計画書の発表を実施し、12月に研究計画書を完了し、2月に倫理審査委員会へ申請書を提出し審査を受ける。</p> <p>(オフィスアワー：木曜日 12:00-13:30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	オリエンテーション	研究動機の確認と研究スケジュールの組立	【事前】研究スケジュールと自身の勤務スケジュールを把握する 【事後】研究スケジュールをふまえ、自身の研究スケジュールを把握する。	関連文献		
2	文献検討および研究課題の検討 問題の焦点化	自分のテーマに関する文献検索を実施し、批判的検討を行い、問題を焦点化する。	【事前】文献検索 【事後】問題を焦点化できるよう繰り返し分析を行う。	関連文献		
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10	研究テーマの決定	研究テーマを決定する。	【事前】自身の研究テーマを絞り込む	関連文献		
11						
12	研究計画書の作成 研究デザインや方法の検討	研究テーマにそった研究デザインや方法を検討し、研究計画書を作成する。	【事前】研究デザインを調べる 【事後】研究デザインを検討しながら、研究計画書を作成する。	関連文献		
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20	研究計画書の発表 準備および発表	研究発表会の準備および発表を行う。	【事前】研究計画書の発表準備 【事後】研究発表会で指摘された	関連文献		
21						

			箇所を修正する。	
22	研究計画書完成	研究計画書を完成させる。	【事前】研究計画書を完成させる。 【事後】研究計画書を必要に応じて修正する。	関連文献
23				
24				
25				
26				
27	申請書作成	必要な申請書類をそろえ、提出に必要な申請書を作成する。	【事前】提出書類の確認 【事後】申請書を提出する。	関連文献
28				
29				
30	倫理審査委員会へ申請書の提出	倫理審査委員会へ申請書を提出し、審議を受ける	【事前】倫理審査委員会に申請書を提出する。 【事後】審査結果に応じて、必要であれば修正する。	関連文献
教科書・参考文献など				
最終到達目標				
最終到達目標			評価方法	
1. 文献検討をして、問題を焦点化することができる。 2. 研究テーマを決定することができる。 3. 研究計画書を作成することができる。 4. 倫理審査委員会に申請書を提出することができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMC0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目・基盤看護学領域 EMC06				教育・実践力	○
授業科目名	基盤看護学特別研究ⅡM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	2 学年/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	佐伯由香				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、看護教育・管理学の質保証に欠かせない科学的知見を得るために、看護サービスの提供、看護システム、看護教育の内容、及び展開方法等について個別研究指導を行うことを目的とする。この科目では、研究計画書の作成・倫理審査承認後に、研究活動の実際を展開する。研究データの収集と入力、データ分析、得られた結果を考察し、修士学位論文を完成させるプロセスを学習する。</p>						
授業の概要						
<p>学生自身の個別課題に合わせて研究指導を実施する。基盤看護学特別研究Ⅰを進化・発展させ、1年次の倫理審査承認後に研究を進める。研究プロセスは、研究の承認を受けた内容を実施し、データの収集と正確な入力、信頼性かつ妥当な分析を行い、修士学位論文を完成させる。自己の研究結果を発表（プレゼンテーション）し、質疑応答を受け、論文の完成度を高める。修士学位論文審査委員3名による審査、及び最終試験を受ける。 （オフィスアワー：火曜日 13：10-14：40）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	後学期学習過程のオリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 研究課題の確認 修士学位の修得プロセス ディスカッション 	【事前】自身の研究課題の再確認をする。【事後】ガイダンス後に、1年間の学位取得のイメージを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> 作成した研究計画書使用 大学院要覧 		
2	研究計画書の修正	<ul style="list-style-type: none"> 倫理審査結果を踏まえた研究計画書のレベルアップ 	【事前】倫理審査結果の把握・吟味を行う。【事後】倫理審査結果に対するコメントを付記し再提出をする。			
3	同上					
4	研究活動の推進（調査の実施）	<ul style="list-style-type: none"> 倫理審査委員会の承認後、研究実施の展開 	【事前】研究実施に対して、事前準備を入念に行う。【事後】調査に対する施設、及び研究協力者の反応を受け止める。データの収集・管理、及び保管を徹底する。			
5	同上					
6	同上					
7	同上					
8	同上					
9	同上					
10	同上					
11	同上					
12	データ入力と分析	<ul style="list-style-type: none"> 収集したデータの確実な入力、及び意味のある分析 目的に沿った分析 	【事前】コーディング表を作成する。確実な入力をする。【事後】目的に沿った集計や統計解析を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 関連文献 		
13	同上					
14	同上					
15	同上					
16	同上					
17	修士学位論文の執筆	<ul style="list-style-type: none"> データの分析結果の提示 研究課題、目的、分析結果を踏まえた論文の作成 	【事前】データの結果を分析・検討し、研究目的に必要な統計資料を抽出し、研究目的に沿	<ul style="list-style-type: none"> 大学院要覧 関連文献 		

			った研究結果を導き出す。【事後】修士学位論文記載要領に沿って文章を記述する。研究課題、目的、方法、結果、考察などが論理的、客観的、科学的根拠を踏まえた記述内容になっているか熟読する。	
18	同上			
19	同上			
20	同上			
21	同上			
22	同上			
23	同上			
24	同上			
25	修士中間発表	・ 中間発表、質疑応答。	【事前】 中間発表の資料を作成する。パワーポイントを作成する。 【事後】 中間発表での質疑応答を真摯に受け止める。	・ 中間発表資料
26	修士学位論文中間発表後の論文修正	・ 修士学位論文の修正	【事前】 中間発表で指摘された箇所を正確に把握し、論文のレベルアップにつなげる。【事後】 修士学位論文の完成度が高くなるまで内容を吟味・検討する。	・ 関連文献
27	同上			
28	同上			
29	修士学位論文の最終審査・最終試験	・ 論文審査、及び最終試験の受審	【事前】 修士学位論文・最終審査に必要な書類を整える。【事後】 審査委員から指摘された箇所を修正して、最終の修士学位論文としてまとめる。	・ 大学院要覧
30	修士学位論文の提出	・ 修士学位論文の提出	【事前】 修士学位論文の提出に必要な書類を整える。【事後】 可否の決定を受ける。	・ 大学院要覧
教科書・参考文献など				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の研究に参考となる各種文献 ・ 大学院要覧 				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究計画書を基に研究を実施できる（施設、調査協力者等との打ち合わせ、連絡・調整）。 ・ 研究を実施し、データ収集を行い、データの分析ができる。 ・ 修士学位論文が作成できる。 ・ 中間発表、最終発表において自身の報告ができ、質疑応答を行うことができる。 ・ 修士論文学位審査を受け、審査に合格できる。 ・ 修士学位論文を提出できる。 			課題達成度を以下の方法で評価する。修士学位論文完成度（90%）、プレゼンテーション（10%）。	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標：				
評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。				
A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)				
B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)				
C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				

D(60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E : 試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F : 出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMC0602			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 基盤看護学領域 EMC06				教育・実践力	○
授業科目名	基盤看護学特別研究ⅡM	選択・必須	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	中島紀子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、特別研究ⅡMの研究計画書に従って、学生に対する個別研究指導に取り組み、学位論文を完成させることを目的とする。学生自身の研究課題に対して、科学的思考力と研究手法を用いて、修士論文としてまとめることにより問題解決能力や研究能力を身につける。</p> <p>作成した研究計画書にそって、①データを収集する、②データを入力する、③データを分析する、④得られた研究結果の信頼性・妥当性を検討する、⑤適切な図表を作成する、⑥研究テーマ、目的・方法・結論までの文章を作成する、⑦論旨の一貫性を吟味し、論文を完成させる。修士論文を完成させることにより、看護実践リーダー、管理者、教育者としての高度専門職業人としての能力を養う。</p>						
授業の概要						
<p>本科目における各担当教員の指導可能な研究テーマは以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がん治療における口腔内合併症の予防的介入に関する研究 2. 限界集落地域での健康生活を維持するための社会的課題と取り組みの検証 3. 看護基礎技術に関するエビデンスの創出と看護基礎教育への発展的展開 4. 高齢者の尊厳の保持と自立生活支援のための課題の検討 <p>1年次の2月から3月に研究倫理審査委員会へ申請書を提出し、承認を得られた後に研究を開始する。2年次2月には修士論文最終審査、最終試験を行い、審査委員3名による審査が行われる。 (オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1～2	研究計画書修正	倫理審査結果をもとに研究計画書を修正し、必要であれば再提出する。	事前：倫理審査結果の内容を熟読する。 事後：倫理審査結果に対するコメントを行い、再提出する。	必要に応じた文献		
3～12	データ収集	倫理審査委員会から承認を得た後に研究を開始、データ収集を行う	事前：データ収集を行うための各施設へのあいさつ等、準備を進める。 事後：回収されたデータを分析できるように管理する。			
13～20	データ分析	回収したデータの分析を開始する。	事前：回収されたデータを入力し、データについては保管を厳重にする。 事後：必要な統計解析を実施し、データ分析を行う。			
21～26	修士論文作成	分析したデータをもとに、修士論文を作成する。	事前：分析したデータから考察を行う。 事後：修士論文の書式を整える。			
27～30	修士論文最終審査、最終試験	修士論文中間発表会の指摘をもとに、修士論文の修正を行う。	事前：修士論文中間発表会で指摘された内容をふまえて修正する。 事後：最終審査に向けた準備を行う。			
教科書・参考文献など						
<ul style="list-style-type: none"> ・大学院要覧 ・各種文献 						

最終到達目標	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究倫理審査委員会から承認を得ることができる。 ・ データ収集、データ分析を行うことができる。 ・ 修士論文を作成することができる。 ・ 修士論文学位審査を受け、審査に合格することができる。 ・ 修士論文を提出することができる。 	課題達成度を以下の方法で評価する 修士学位論文完成度(90%)・プレゼンテーション(10%)・
履修判定指標・評価基準	
<p>履修判定指標：</p> <p>評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 2em;">A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p style="margin-left: 2em;">B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p style="margin-left: 2em;">C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p style="margin-left: 2em;">D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p style="margin-left: 2em;">(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EMD0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD01				教育・実践力	○
授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	高田律美				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、リプロダクティブヘルスの基本理念と健康のとらえ方を学修する。女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題をグローバルヘルスの視点を含む支援に関する理論を学修する。周産期における健康問題とその時期の特徴を捉え、マタニティヘルスと家族の発達段階に関する理論を適用し母子保健施策について学修することを目的とする。</p>						
授業の概要						
<p>講義の内容としては、リプロダクティブヘルスの基本概念と歴史の変遷学び、グローバルヘルスの視点でリプロダクティブヘルスに関する健康問題を概説する。女性の思春期から老年期までの各ライフサイクルの特徴とパートナーを含む健康課題について心理的、身体的、社会政策的側面から学修し、アプローチ法と理論を学ぶ。また、周産期における健康問題とその時期の特徴をとらえ、マタニティヘルスと家族の発達段階に関する理論とその適用を学修する。現代の母子保健とその家族の健康課題について、関連する最新の知識・技術に関するエビデンスの獲得について学修する。母子保健施策と周産期のケアシステムなど、現代の母子保健についての課題を取り上げて、課題解決の方法を探求する。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。リプロダクティブヘルス/ライツの基本理念と歴史の変遷	リプロダクティブヘルス/ライツのとの基本理念と歴史の変遷知識についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	リプロダクティブヘルス/ライツについて、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
2	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
3	ジェンダー・家族についての社会的課題（LGBTQを含む）	ジェンダー・家族についての社会的課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	ジェンダー・家族についての社会的課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	岩間暁子他 問からは始める社会学、		
4	課題の探求①	①-③の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマについてレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。			
5	思春期の特徴と健康課題	思春期の特徴と健康課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	思春期の特徴と健康課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
6	成熟期の特徴と健康課題	成熟期の特徴と健康課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	成熟期の特徴と健康課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
7	更年期・老年期の特徴と健康課題	更年期・老年期の特徴と健康課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	更年期・老年期の特徴と健康課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	女性生涯看護学		
8	リプロダクティブヘルスに関連するガイドライン	リプロダクティブヘルスに関連するガイドラインの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	リプロダクティブヘルスに関連するガイドラインの課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	性感染症診断・治療ガイドライン2020、		

9	課題の探求②	⑤-⑧の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマについてレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	事前学習：各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。	
10	リプロダクティブヘルスに関する社会的課題と施策	リプロダクティブヘルスに関する社会的課題と施策の課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	リプロダクティブヘルスに関する社会的課題と施策的課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	ART 大国日本から考えるリプロダクティブヘルス/ライツ、リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス
11	周産期における健康課題・ケアシステム	周産期における健康課題・ケアシステムの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	周産期における健康課題・ケアシステムについて、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	WHO 推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア
12	課題の探求③	⑩-⑪の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマについてレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	事前学習：各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。	
13	マタニティヘルスに関連するガイドライン	マタニティヘルスに関連するガイドラインの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	マタニティヘルスに関連するガイドラインの課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	妊娠高血圧症候群ガイドライン2021
14	マタニティヘルスに関連する家族の発達課題とその理論	グローバルヘルスの視点でのリプロダクティブヘルスの課題についての講義。各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする。	ジェンダー・家族についての社会的課題について、文献をもとに調べ、プレゼンテーションの準備を行う。事後学習については、講義時に提示予定。	標準産婦人科学第5版、家族看護学：家族のエンパワーメントを支えるケア
15	課題の探求④	⑬-⑭の授業に関する課題に関連した各自が事前学習に関する文献についてディスカッションする	事前学習：各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを15分程度実施し、その後ディスカッションを行える準備をする。	
16	試験			
教科書・参考文献など				
参考文献 * 女性生涯看護学 吉沢豊予子 真興交易(株)医学出版部 (2004)、* 問からはじめる社会学、岩間暁子他、有斐閣 (2015)、* 性感染症診断・治療ガイドライン2020、日本性感染症学会、診断と治療社、(2020)、* ART 大国日本から考えるリプロダクティブヘルス/ライツ (2022)、* リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス、信山社、谷口真由美 (2007)、* WHO 推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア、分娩期ケアガイドライン翻訳チーム、(2021)、* 妊娠高血圧症候群の診療指針2021、日本妊娠高血圧学会、MEDICAL VIEW((2021)、* 標準産科婦人科学 第5版、綾部 琢哉ら、医学書院、(2021) * 家族看護学：家族のエンパワーメントを支えるケア、中野 綾美ら、メディカ出版 (2020)				
最終到達目標			評価方法	
1. リプロダクティブヘルスとの基本理念と歴史的変遷とグローバルヘルスの視点でリプロダクティブヘルスの課題を取り上げ、その内容についてプレゼンテーションし、説明することができる。 2. 妊婦とその家族が不安なく快適で健康な妊娠生活を送り、親となる準備や新しい家族を迎える準備が整うよう支援する内容をプレゼンテーションし、説明することができる。 3. ハイリスク・異常妊婦のケアと心理面へ支援する内容をプレゼンテーションし、説明することができる。 4. 現代の母子保健とその家族の健康課題について、関連する最新の知識・技術に関するエビデンスの獲得について取り上げ、その内容及び、課題解決のための、母子保健施策と周産期のケアシステムについて、プレゼンテーションし、説明できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験 (60%)・課題レポート (20%)・プレゼンテーション (20%)・	

履修判定指標・評価基準

履修判定指標：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMD0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD02				教育・実践力	○
授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学特別演習M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	高田律美				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、女性の健康がよりウェルネスに向うための健康行動理論、移行期理論等をもとに、その援助方法を探求することを目的とする。ヘルスプロモーションの実際と支援方法とそれらの研究手法について学修する。研究と理論、研究との関連について学修する。周産期医療および看護、ウイメンズヘルス・マタニティヘルス・リプロダクティブヘルス/ライツに関するアプローチ方法とそれらに関する研究手法を学ぶまた、論文のクリティークの方法を学修し研究課題の探求のための手法を学修する。</p>						
授業の概要						
<p>演習の内容については、女性の健康をよりウェルネスに導くために健康行動理論、移行期理論等をもとに、健康教育等の援助方法の実際を学修し、ヘルスプロモーションの実際と支援方法と関連する研究手法について学修する。さらに、周産期医療・看護に関する健康問題についてその周産期ケアの実際をエビデンスの創出に寄与する研究について学修する。新たな健康課題改善のための研究的アプローチ方法を学修する。そのうえで、講義に関連した課題をもとにレポートを作成、また各自の興味あるウイメンズヘルス・マタニティヘルス・リプロダクティブヘルス/ライツに関連するテーマについて文献をクリティークし、発表後のディスカッションで学びを深める。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13:20-14:50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。 研究と理論：健康行動理論	健康行動理論について講義とグループディスカッション実施。	健康行動理論に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	健康行動理論による研究と実践		
2-4	研究と理論：健康行動理論の研究と実践	健康行動理論の研究と実践について講義とグループディスカッション実施。	健康行動理論の研究と実践に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	健康行動理論による研究と実践		
5-8	研究と概念：ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションについて講義とグループディスカッション実施。	ヘルスプロモーションに関連する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	ナッジ×ヘルスリテラシー—ヘルスプロモーションの新たな潮流、		
9	課題の探求	①-⑧の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマをレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを実施し、その後ディスカッションを行える準備をして臨む。			
10-12	研究と理論：移行期理論	移行期理論について講義とグループディスカッション実施。	移行期理論に関連する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回の発表ができるように準備する。	移行理論と看護—実践, 研究, 教育—		

13-15	研究と理論：移行期理論の研究と実践	移行期理論の研究と実践について講義とグループディスカッション実施。	移行期理論の研究と実践に関連する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後はレポート課題を提示し、次回発表できるように準備する。	移行理論と看護—実践, 研究, 教育—
16、17	研究方法：質的研究	質的研究について講義とグループディスカッション実施。	質的研究に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後は関心あるテーマについて質的研究方法を用いている原著論文を検索し熟読しておく。	質的研究法：その理論と方法 健康・社会科学分野における展開と展望
18、19	研究方法：量的研究（尺度開発）	尺度開発について講義とグループディスカッション実施。	尺度開発に関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後は関心あるテーマについて尺度開発の研究方法を用いている原著論文を検索し熟読しておく。	質問紙調査と心理測定尺度計画から実施・解析まで
20、21	研究方法：アクションリサーチ	アクションリサーチについて講義とグループディスカッション実施。	アクションリサーチに関する文献を熟読する。その内容についてグループディスカッションに臨める準備をする。事後は関心あるテーマについてアクションリサーチの研究方法を用いている論文を検索しておく。	アクションリサーチ - 看護研究の新たなステージへ
22	課題の探求	⑨-⑳の授業に関する課題に関連した各自の興味あるテーマをレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	各自が自分の興味あるテーマでプレゼンテーションを実施し、その後ディスカッションを行える準備をして臨む。	
23	論文クリティークの方法	クリティークとは何かについて概説する。	事前に該当図書を熟読する。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版
24、25	論文クリティークの方法と実際①	質的研究における文献クリティークに関する講義をする。第7回目の授業後に検索した論文についてクリティークを展開する。	事前に該当図書を熟読する。各自の論文についてクリティークの実際を展開してくる。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版
26	論文クリティークの方法と実際②	尺度開発研究における文献クリティークに関する講義をする。第8回目の授業後に検索した論文についてクリティークを展開する。	事前に該当図書を熟読する。各自の論文についてクリティークの実際を展開してくる。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版
27、28	論文クリティークの方法と実際③	システムティックレビューにおける文献クリティークに関する講義をする。第7回目の授業後に検索した論文についてクリティークを展開する。	事前に該当図書を熟読する。各自のシステムティックレビュー論文を検索してクリティークの実際を展開してくる。	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版
29、30	ウイメンズヘルス・マタニティヘルス・リプロダクティブヘルス・ライツに関連する論文のクリティーク	各自の研究テーマに関連する論文のクリティークした結果についてプレゼンテーションを実施する。	各自の研究テーマに関連する論文のクリティークした結果をプレゼンテーションできる準備をして臨む。	

教科書・参考文献など	
参考文献 *健康行動理論による研究と実践、日本健康教育学会、医学書院（2019）、*ナッジ×ヘルスリテラシー—ヘルスプロモーションの新たな潮流、村山洋史、大修館書店（2022）。*ヘルスプロモーション 健康科学 和田雅史ら、聖学院大学出版（2016）、*移行理論と看護—実践、研究、教育—、アフアフ イブラヒム メレイス 監修、学研（2019）*質的研究法：その理論と方法 健康・社会科学分野における展開と展望、プランニー・リアムプットーン 著、メディカル・サイエンス・インターナショナル（2022）*質問紙調査と心理測定尺度計画から実施・解析まで、宇井美代子ら著、サイエンス社（2014）*アクションリサーチ入門 - 看護研究の新たなステージへ、筒井真優美ら著、ライフサポート社、（2010）*よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版 牧本清子ら編著、日本看護協会（2020）	
最終到達目標	評価方法
1. 女性の健康をよりウェルネスに導くために健康行動理論、移行期理論等をもとに、健康教育等の援助方法の実際を学修し、ヘルスプロモーションの実際と支援方法と関連する研究手法についてプレゼンテーションし、説明することができる。 2. 周産期医療・看護、ウイメンズヘルス・マタニティヘルス・リプロダクティブヘルス/ライツに関する健康問題について講義に関連した課題をもとにレポートを作成、プレゼンテーションできる。 3. 各自の興味あるウイメンズヘルス・マタニティヘルス・リプロダクティブヘルス/ライツに関連するテーマについて文献をクリティークし、その内容についてプレゼンテーションし、ディスカッションすることができる。	課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験 (60%) ・ 課題レポート (20%) ・ プレゼンテーション (20%) ・
履修判定指標・評価基準	
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EMD0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD03				教育・実践力	○
授業科目名	小児看護学特論M	選択・必須	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	三並 めぐる				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、子どもと家族を生涯発達の視点から捉え、子どもの成長・発達、小児看護における理論、遊び、健康課題と健康生活、子どもの人権、感染症対策、小児救急、児童虐待、先天性疾患や小児慢性特定疾患などのある患児と家族支援、小児と家族のアセスメントとセルフケア、家族や養育環境、多職種連携、家族看護の視点から、小児と家族にとっての最善の看護と健やかな生活について考究することを目的とする。そのため、小児看護における理論、アセスメント力、ケア実践能力、ケア評価、ケア管理、水準の高いケア実践の提供など、実践者・研究者としての管理の力と倫理的課題に対して対応できる知識と方法、思考を学修する。</p>						
授業の概要						
<p>子どもの成長・発達と遊び、小児看護における理論、こども基本法の活用について論じる。また、子どもの健康生活と健康教育、子どもの人権について言及するとともに、感染症対策と予防接種、ライフサイクルにおける子どもの健康増進の在り方について論じる。さらに、先天性疾患や小児慢性特定疾患などのある患児と家族支援、及び家族看護、日本と世界のタバコ対策とSDGsについても自研究と先行研究を踏まえて論じる。</p> <p>小児と家族のアセスメントとセルフケア、小児と家族の養育環境について、実践と研究を往還しながら論じる。また、多職種連携の現状と課題、現代社会の課題である小児救急看護の現状と課題、児童虐待の防止と早期対策について研究的視点で論じる。さらに、小児の生活習慣の課題と対応、学童期・思春期女子の冷えの課題と対応について自研究と先行研究から論じる。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 15:00-16:30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション、子どもの成長・発達と遊び	科目オリエンテーション 子どもの成長・発達と遊びについてディスカッション	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	学生が書籍や文献等で資料作成		
2	小児看護における理論(三並)	アタッチメント理論、認知発達理論、自我発達理論、情緒の分化についてディスカッション	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	学生が書籍や文献等で資料作成		
3	こども家庭庁とこども基本法	こども家庭庁、こども基本法の基本理念、子ども施策についてディスカッション。	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	令和四年法律第七十七号 こども基本法		
4	子どもの人権	「子どもの人権110番」についてディスカッション	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	法務省：子どもの人権110番		
5	子どものレジリエンス	アメリカ心理学会が推奨している子供向けのレジリエンスを強める方法についてディスカッション	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	子どもの逆境に負けない力「レジリエンス」を育てる本		
6	子どもの健康生活と健康教育	アンデシュ・ハンセン著：スマホ脳を読み、子どもの健康生活と健康教育についてディスカッション	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	アンデシュ・ハンセン著：スマホ脳		
7	子どもの健康増進	ライフサイクルにおける子どもの健康増進のための子どもたちに読んで欲しい本・映像の紹介	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	児童福祉文化財 子どもたちに読んで欲しい本		
8	日本と世界のタバコ対策とSDGs	「タバコの規制に関する世界保健機関枠組条約」についてディスカッション	【事前】 テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う。 【事後】 400文字で振り返る。	タバコの規制に関する世界保健機関枠組条約		

9	慢性疾患をもつ子どもの実態と自立支援・施策について	小児慢性特定疾患治療研究事業および小児慢性特定疾病児童への自立支援事業の目的や具体的な施策内容に関するプレゼンテーション・ディスカッションの実施。	事前学修：慢性疾患児の自立支援施策について、文献を調べプレゼンの準備を行う。 事後学修：小児慢性特定疾患治療研究事業、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の意義と課題をまとめる。	小児慢性特定疾患治療研究事業
10	移行期医療と移行支援について	移行期医療をめぐる日本の動向に関するプレゼンテーション・ディスカッションの実施。	事前学修：日本における移行期医療・移行支援に関する文献を調べその特徴をまとめる。 事後学修：日本の移行期医療・移行支援の現状について課題をまとめる。	関連文献
11	成人期への移行過程にある慢性疾患児の支援の在り方について	成人診療科への転科、医療システムにおける課題に関するプレゼンテーション・ディスカッションの実施。	事前学修：成人診療科への転科、医療システムに関する文献・書籍を調べ、プレゼンの準備を行う。 事後学修：事例について、成人診療科への転科、医療システムにおける課題をまとめる。	関連文献
12	医療的ケアを必要とする在宅療養の子どもと家族の支援システムについて	医療的ケア児およびその家族に対する支援施策、法律、多職種間の連携、社会資源の活用、課題等に関するプレゼンテーション・ディスカッションの実施。	事前学修：医療的ケアを必要とする在宅療養の子どもと家族の支援システムに関する文献・書籍を調べ、その特徴や課題についてプレゼンの準備を行う。事後学修：地域で生活する医療的ケア児とその家族への支援の課題と対応についてまとめる。	医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律
13	児童虐待の動向	児童虐待に関する法律、児童虐待の動向、児童虐待の実態、多機関による対応システムの実際と課題についてプレゼンテーション・ディスカッションを実施。	事前学習：日本における児童虐待の現在の動向とその実態について、文献等を読み特徴をまとめる。 事後学修：ディスカッションした内容をもとに、自身が考える児童虐待の予防と防止、対応についてまとめる。	改正児童福祉法 児童虐待防止対策
14	児童虐待の防止と予防に関するシステムと課題	児童虐待の発生予防、早期発見・早期対応、保護に関する取り組み、社会的養護の現状についてのプレゼンテーション・ディスカッションの実施。	事前学習：児童虐待の発生予防、早期発見・早期対応、保護に関するそれぞれの取り組みの内容や社会的養護の現状について文献等で調べ、プレゼンの準備を行う。 事後学修：児童虐待の防止と予防に関するシステムと課題をまとめる。	改正児童福祉法 児童虐待防止対策
15	健康に問題を抱える子どもと家族の支援における看護師の役割と多職種連携	健康障害をもつ子どもと家族に関わる看護師の役割と多職種連携の実際と今後の課題に関するプレゼンテーション・ディスカッションの実施。	事前学修：興味のある事例をもとに、健康障害をもつ子どもと家族に関わる看護師としての役割と多職種の連携の必要性についてプレゼンの準備を行う。 事後学修：事例に基づき、看護師の役割と課題、新たな取り組みを考える。	関連文献
教科書・参考文献など				
教科書				
1. アンデシュ・ハンセン著：スマホ脳、新潮新書、1080円（2020）				

参考 1. 令和四年法律第七十七号 こども基本法 2. 法務省：子どもの人権 110 番 3. 厚生労働省：児童福祉文化財 4. 外務省・厚生労働省：タバコの規制に関する世界保健機関枠組条約	
最終到達目標	評価方法
子どもと家族を生涯発達の視点から捉え、子どもの成長・発達、小児看護における理論、遊び、健康課題と健康生活を理解する。 小児と家族のアセスメントとセルフケア、小児と家族の養育環境、生活習慣、小児救急看護、児童虐待の防止と早期対策等を理解する。	課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・
履修判定指標・評価基準	
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EMD0302			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD03				教育・実践力	○
授業科目名	小児看護学特論M	選択・必須	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	羽藤 典子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、小児看護領域における対象理解と援助の基盤となる理論・概念を、日本の文化的・社会的背景および時代的変遷を踏まえて体系的に理解することを目的とする。あわせて、子どもと家族を取り巻く社会および医療の現状と課題を批判的に検討し、健康増進に寄与する諸理論の意義と適用可能性を探究する。</p> <p>さらに、子どもの成長・発達、生活環境、ならびに家族との相互作用に関する理論的枠組みを活用し、看護実践との関連から対象を多角的に分析する能力および論理的思考力の基盤を養う。加えて、これらの理論を現代の日本社会において応用する際の課題を明確化し、小児看護実践の質向上に向けた理論的発展の可能性を探究する。</p>						
授業の概要						
<p>子どもを取り巻く社会や医療の現状と課題、ならびに子どもの生活環境を理解することを基盤として、子どもの成長・発達、セルフケア、コーピング、家族発達、家族関係などに関する諸理論・概念・モデルについて体系的に学修する。</p> <p>さらに、各理論・概念については、書籍や学術論文を活用し、子どもおよび家族の発達理論や学習理論などの理論的枠組みを用いて現象を多角的に捉える力を養う。その上で、これらの理論の看護実践への適用可能性を検討するとともに、課題や限界について批判的に考察する。(オフィスアワー：水曜日 15：00-16：30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	科目オリエンテーション	科目オリエンテーション 講義目的、学習方法について		【事前】シラバスに基づき、学習予定の理論に関連のある文献を調べ文献リストを作成する。 【事後】プレゼンテーション内容およびディスカッション内容を考える。	学生が書籍や文献等で資料作成	
2	こどもと家族を取り巻く現状と課題①②	子どもの成長・発達、生活環境、子どもと家族を取り巻く社会・医療の歴史と変遷から現状を考察する		【事前】テーマについての文献を探し、熟読し、ディスカッション内容を考える 【事後】授業で学んだ内容や疑問点や考察を A4用紙1枚にまとめる。	学生が書籍や文献等で資料作成	
3						
4	成長・発達する子どもの理解に関する理論①	フロイトの発達理論についての概念の理解とディスカッション		【事前】テーマについての文献を探し、熟読し、ディスカッション内容を考える 【事後】授業で学んだ内容や疑問点や考察を A4用紙1枚にまとめる。	学生が書籍や文献等で資料作成	
5						
6	成長・発達する子どもの理解に関する理論②	ピアジェの認知発達理論についての概念の理解とディスカッション(看護実践にどう活用できるか)		【事前】テーマについての文献を探し、熟読し、ディスカッション内容を考える 【事後】授業で学んだ内容や疑問点や考察を A4用紙1枚にまとめる。	学生が書籍や文献等で資料作成	
7						
8	成長・発達する子どもの理解に関する理論③	エリクソンの心理社会的発達理論の概念の理解とディスカッション(看護実践にどう活用できるか)		【事前】テーマについての文献を探し、熟読し、ディスカッション内容を考える 【事後】授業で学んだ内容や	学生が書籍や文献等で資料作成	
9						

			疑問点や考察を A4用紙 1 枚にまとめ	
10	乳幼児の成長・発達に関する理論①	ポウルビー（愛着理論） 子どもと母親（養育者）との関係形成を理解し、発達に応じた適切な援助につなげるための理論を学ぶとともに、看護実践にどう活用できるか考察する。	【事前】テーマについての文献を探し、熟読し、ディスカッション内容を考える 【事後】授業で学んだ内容や疑問点や考察を A4用紙 1 枚にまとめる。	学生が書籍や文献等で資料作成
11				
12	乳幼児の成長・発達に関する理論②	ウィニコット（対象関係論） 子どもと母親（養育者）との関係形成を理解し、発達に応じた適切な援助につなげるための理論を学ぶとともに、看護実践にどう活用できるか考察する。	【事前】テーマについての文献を探し、熟読し、ディスカッション内容を考える 【事後】授業で学んだ内容や疑問点や考察を A4用紙 1 枚にまとめる。	学生が書籍や文献等で資料作成
13				
14	ストレスを抱える子どもと家族の理解と支援を考える理論	子どものストレスとコーピングの理解および看護実践への活用についてディスカッションおよび考察する。	【事前】テーマについての文献を探し、熟読し、ディスカッション内容を考える 【事後】授業で学んだ内容や疑問点や考察を A4用紙 1 枚にまとめる。	学生が書籍や文献等で資料作成
15	健康に問題を抱える子どもと家族の支援における看護師の役割と多職種連携	健康障害をもつ子どもと家族に関わる看護師の役割と多職種連携の実際と看護実践への活用ディスカッションおよび考察する。	【事前】テーマについての文献を探し、熟読し、ディスカッション内容を考える 【事後】授業で学んだ内容や疑問点や考察を A4用紙 1 枚にまとめる。	学生が書籍や文献等で資料作成

教科書・参考文献など

講義で提示する。

なお、各回の授業の準備学習として以下の文献に目を通しておくこと。

川名るり(2025) 子どもの発達と家族のかたち. 南山堂.

最終到達目標

評価方法

1. 子どもを取り巻く社会や医療の現状と課題、ならびに生活環境について理解し、説明できる。
2. 子どもの成長・発達、セルフケア、コーピング、家族発達・家族関係等に関する諸理論・概念、および看護援助に関連する理論と看護学との関係について理解し、説明できる。
3. 子どもと家族の健康増進に関する諸理論を踏まえ、関心領域に関連する理論・概念や現象を分析し、課題を明確に述べることができる。
4. 理論および既存研究を活用し、子どもと家族への看護援助の適用可能性を検討し、具体的な援助を考案することができる。
5. 小児看護実践における理論・概念の活用意義と課題を批判的に検討し、小児看護の現状を踏まえた援助のあり方について考察できる。

- 課題達成度を以下の方法で評価する
- ・ 課題レポート(70%)
 - ・ プレゼンテーション(10%)
 - ・ 討論(10%)

履修判定指標・評価基準

履修判定指標：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMD0401			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD04				教育・実践力	○
授業科目名	小児看護学特別演習 M	選択・選択	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1 年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	三並 めぐる				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、小児看護学特論 M の学修を踏まえ、自己の研究課題を明確にするために、小児看護学に関連する論文講読を行うとともに、研究デザイン、研究方法の妥当性、信頼性、得られた結果の新規性を論理的、批判的に精読し、科学的論理的思考に基づく研究課題を導き出すことを目的とする。子育て支援や子どもの虐待防止に関する総合的な見識と専門的な実践能力の視点と態度、支援する方法を探求する。臨床にある課題を深く追求し、さらに多角的な視点で子どもと家族の生活問題、健康問題、セルフケア、発達課題、育児支援など自己の研究課題を研究的視点で掘り下げる。</p> <p>また、学生の研究課題や関心に応じて、小児看護の現場や、保育所、子育て支援センター、児童クラブ、病院施設などのフィールドワークを実施し、その結果を報告・討議し、自身の研究課題に結びつける。</p>						
授業の概要						
<p>子どもの生活環境と遊びの環境の中の課題を明らかにし、健やかな成長・発達への支援について海外や国内の論文を中心にクリティカルシンキングとディスカッションなど研究的視点で論述する。また、子どもの病気や障害がきょうだいに及ぼす影響ときょうだいの反応行動、子どものストレスコーピングモデルと小児看護、健康生活と健康教育、子どもの人権と子どもの貧困など現代的課題に対する小児看護師の役割と家族支援について論述する。</p> <p>小児と家族の健康や病気に対するアセスメントから子どもと家族のセルフケアの課題をセルフケア理論と生活支援を関連付けて論述する。また、児童虐待の防止と早期対策、マルトリートメント対応の国内外の研究の動向から得た知見を多職種連携、小児と家族の養育環境の改善に関連付けて自身の研究課題を導き出す。小児の生活習慣から生じる健康課題について、実験や介入の具体的方法について演習を取り入れ、現実の健康課題の解決を研究的視点から論述する。(オフィスアワー：水曜日 15：00-16：30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1. 2	オリエンテーション 子どもの健やかな成長と施策	授業オリエンテーション 子どもの健やかな成長のための施策についてディスカッション	【事前】テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う 【事後】400文字で振り返り	令和3年版 子供・若者白書(全体版)(PDF版)		
3. 4	子どもの生活環境と遊び環境①	保育所、子育て支援センター、児童クラブでのフィールドワーク	【事前】テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う 【事後】400文字で振り返り	フィールドワーク		
5. 6	子どもの生活環境と遊び環境②	フィールドワークを通してのディスカッション	【事前】テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う 【事後】400文字で振り返り	学生が体験したことを書籍や文献等を加えて資料作成		
7. 8	子どもの病気や障害ときょうだい	子どもの病気や障害ときょうだい、ヤングケアラーについてディスカッション	【事前】テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う 【事後】400文字で振り返り	学生が書籍や文献等で資料作成		
9. 10	子どもと無煙環境	子どもと無煙環境についてディスカッション	【事前】テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う 【事後】400文字で振り返り	UICC (2008). たばこの煙から子どもたちを守るには		
11. 12	子どもの貧困	子どもの貧困についてディスカッション	【事前】テーマについてのスライド4枚作成と発表準備を行う 【事後】400文字で振り返り	子どもの貧困対策の推進に関する法律(平成二十五年法律第六十四号)		
13. 14	子どもの人権	「小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針について」ディスカッション	【事前】資料をもとに子どもの人権について発表準備【事後】400文字での振り返りを行う	日本小児看護学会資料		

15	ガイダンス、オレムのセルフケア看護理論の小児看護への応用、概念理解	本科目の羽藤担当分の概要および教育内容の説明を行い、主体的に学修する方法について説明を行う。オレムのセルフケア看護理論の小児への適用について、主要な概念、こどもを理解するために必要な理論を学ぶ。	事前学修：オレムセルフケア理論の小児看護への適用について、重要な概念を調べ、資料を準備する。 事後学修：オレムの主要概念と小児看護への適用を復習する。	こどものセルフケア看護理論
16	オレムセルフケア看護理論のこどもを理解するために必要な理論および基本的考え方の理解	こどもを理解するために必要な理論およびオレム看護理論の基本的な考え方を理解し、子どもとその家族へ活用する意義を学ぶ。	事前学修：こどもを理解するために必要な理論およびオレム看護理論の基本的な考え方、こどもセルフケア看護理論の構造と目的について調べ資料を準備する。 事後学修：こどもセルフケア看護理論の構造と目的を復習する。	こどものセルフケア看護理論
17	オレムセルフケア看護理論における子どものセルフケアの理解	こどもセルフケア看護理論でのセルフケアの定義と特徴、こどものセルフケアにおける基本的条件付け要因、こどものセルフケア能力の構造とその発達を学ぶ。	事前学修：セルフケアの定義と特徴、こどもセルフケア看護理論における基本的条件付け要因、こどものセルフケア能力の意味やその発達等について調べ、資料 (Ppt) を準備する。	こどものセルフケア看護理論
18	オレムセルフケア看護理論におけるこどものセルフケア不足の理解	こどもにおけるセルフケア不足および、「依存」から「補完される」とする考え方、こどもにとって補完されるケアの意味の理解、こどものセルフケア不足を補完する力とは何かについて理解する。	事前学修：こどもにおけるセルフケア不足とはどういったことなのか、小児看護にとって「依存」から「補完される」とする考え方の重要性について調べ、資料 (Ppt) を準備する。	こどものセルフケア看護理論
19	オレムセルフケア看護理論におけるこどもへの看護支援の理解	こどもセルフケア看護理論における看護実践の構造と内容、こどものセルフケア能力を引き出す看護の役割、こどもセルフケア看護理論における看護システムの基本構造を学ぶ。	事前学修：看護実践の構造と内容、こどものセルフケア能力を引き出す看護の役割、こどもセルフケア看護理論における看護システムの基本構造について調べ、資料 (Ppt) を準備する。	こどものセルフケア看護理論
20	オレムセルフケア看護理論における看護過程の理解	理論を用い、身体面・心理面・社会面を統合した系統的アセスメント、看護目標の設定、計画の立案、評価の方法について具体的に学ぶ。	事前学修：こどもに必要なセルフケアの確定、こどものセルフケア能力と可能な行動の確定、親または養育者がこどものセルフケアを補完するケア能力と可能な行為の確定、セルフケア不足：看護として行うケアの確定などに必要な基本的知識等について調べ、資料 (Ppt) の準備をする。	こどものセルフケア看護理論
21	オレムセルフケア看護理論における子どもと家族へのケアの理解	こどもセルフケア看護理論における家族へのケア、こどものセルフケアを補完する親または養育者のケアとは何かについてディスカッションする。	事前学修：家族へのケアについて、家族のみかたや家族の位置づけ、こどものセルフケアを補完する親または養育者のケアとは何かについて調べプレゼンの準備 (Ppt) をする。	こどものセルフケア看護理論
22	オレムセルフケア看護理論の小児看護への適用実践への適用	これまでの自身の小児看護実践を振り返り、本理論を実践にどのように適用できるか発表・ディスカッションを行う。	事前学修：院生は、自身のこれまでの実践経験を振り返り、オレムのセルフケア看護理論を今後、どのように実践に適用できるかについて、事例を踏ま	こどものセルフケア看護理論

			え、Ppt でプレゼンができるよう準備する。	
23	子どもの権利とプレパレーションの理解 I	子どもの権利、医療における子ども憲章を踏まえた子どもへの支援の重要性について、これまでの研究成果を学び、その背景や重要性、プレパレーションの必要性について理解する。	事前学修：院生は、子どもの医療における人権、権利擁護、子どもの自己決定権（インフォームド・アセント）などについて、これまでの研究成果を文献等で調べ、Ppt でプレゼンの準備をする。	子どもの権利条約 医療における子ども憲章
24	子どもの権利とプレパレーションの理解 II	子どもの権利、医療における子ども憲章を踏まえた子どもへの支援の重要性について、これまでの研究成果を学び、その背景や重要性、プレパレーションの必要性について理解する。	事前学修：院生は、子どもの医療における人権、権利擁護、子どもの自己決定権（インフォームド・アセント）などについて、これまでの研究成果を文献等で調べ、Ppt でプレゼンの準備をする。	子どもの権利条約 医療における子ども憲章
25	子どもの権利とプレパレーションの理解	子どもの医療における人権、権利擁護、子どもの自己決定権（インフォームド・アセント）などについて、その背景や重要性についての発表・ディスカッションを行う。	事前学修：各院生の発表・ディスカッションから学んだ内容や自身の看護実践の振り返りを通して、小児医療における子どもの人権を尊重した最善の医療とはどういったことであるのかレポートを作成し提出する。	子どもの権利条約 医療における子ども憲章
26	日本におけるマルトリートメントの現状とその対応	日本におけるマルトリートメント（不適切な養育）の動向の把握とその対応について、理解する。	事前学修：これまでの研究成果を学び、その背景や現状、マルトリートメントに対する認知、その対応や重要性について、これまでの研究成果を文献等で調べ、Ppt で資料を作成する。	配布資料
27	日本におけるマルトリートメントの現状とその対応	日本におけるマルトリートメント（不適切な養育）の動向の把握とその対応について、理解する。	事前学修：これまでの研究成果を学び、その背景や現状、マルトリートメントに対する認知、その対応や重要性について、これまでの研究成果を文献等で調べPpt で資料を作成する。	配布資料
28	マルトリートメントに対する日本の取り組みと課題	日本のマルトリートメントに関する現状とその取り組みを踏まえ、小児看護師をはじめ多職種との連携として可能な支援や課題についてプレゼン、ディスカッションを行う。	事前学修：医療現場におけるマルトリートメントに関する取り組みの可能性と課題について、これまでの研究成果を文献等で調べまとめる。	配布資料
29. 30	小児と家族の発達課題とその支援について① ②	多様な養育環境で育っている子どもと家族に焦点をあて、小児と家族の発達課題とその支援についてレポート発表とディスカッション、遊びの実際を入れ、自己の研究課題の研究に臨む	【事前】自身のテーマについてのスライド 10 枚作成と発表準備、遊びの実際準備を行う【事後】 400 文字で振り返り	学生がテーマにそった資料作成
教科書・参考文献など				
教科書				
1. 片田範子著：こどもセルフケア看護理論、医学書院、3850 円（2019）				
参考書				
1. 日本小児看護学会：小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針（2022）				
2. 令和 3 年版 子供・若者白書（全体版）（PDF 版）				

3. たばこの煙から子どもたちを守るには、UICC (2008)	
4. 子どもの貧困対策の推進に関する法律 (平成二十五年法律第六十四号)	
最終到達目標	評価方法
子どもの生活環境と遊び、児童逆題防止と早期対策、生活習慣など子どもと家族を取り巻く環境の中の課題を明らかにし、海外や国内の論文を中心にクリティカルシンキングとディスカッションなど研究的視点で論述できる。	課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験 (60%)・課題レポート (20%)・ プレゼンテーション (20%)・
履修判定指標・評価基準	
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A (100～80 点)：到達目標を達成している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EMD0402			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD04				教育・実践力	○
授業科目名	小児看護学特別演習 M	選択・選択	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	羽藤 典子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、小児看護学特論 M の学修を踏まえ、健康課題をもつ子どもと家族に対し、小児期特有の疾病に関する病態生理、診断・検査、治療過程、症状マネジメントの理解を深めるとともに、小児看護学の視点から身体的・心理社会的側面を含めた包括的なケアを探求する。</p>						
授業の概要						
<p>本授業では、健康課題をもつ子どもと家族に対し、小児期特有の疾病に関する病態生理、診断・検査、治療過程、症状マネジメントの理解を基盤として、小児看護学の視点から身体的・心理社会的側面を含めた包括的ケアを探求する。さらに、ケアのエビデンスや院生の実践経験を活用し、子どもの苦痛緩和や子ども・家族のニーズの充足に向けた倫理的判断および臨床判断、多職種連携の視点を踏まえた看護実践ケアモデルを検討し、看護実践いかすための考察をする。(オフィスアワー：水曜日 15：00-16：30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1.2	オリエンテーション	授業オリエンテーション 健康課題を持つ子どもと家族の課題と問題		【事前】シラバスに基づき、学習予定の理論に関連のある文献を調べ文献リストを作成する。 【事後】プレゼンテーション内容およびディスカッション内容を考える。	学生が書籍や文献等で資料作成	
3.4	健康課題をもつ子どもの苦痛に関する文献検討と支援の考察①	先行研究およびエビデンスに基づき、「子どもの苦痛の理解、苦痛緩和や症状マネジメント」に関する文献検討とディスカッションを行う。		【事前】テーマについての文献を探し、熟読し、ディスカッション内容を考える 【事後】授業で学んだ内容や疑問点や考察を A4用紙1枚にまとめる。	各自必要な文献を用いる。	
5.6						
7.8	急性期における健康課題を持つ子どもと家族の理解	急性期状態にある子どもと家族 病態理解・診断に必要な検査や治療方法・ケアの理解・管理について		【事前】テーマについての文献を探し、熟読し、ディスカッション内容を考える 【事後】授業で学んだ内容や疑問点や考察を A4用紙1枚にまとめる。	各自必要な文献を用いる。	
9.10						
11.12	健康課題を持つ子どもと家族を取り巻く療養環境に関する文献検討および援助の検討	急性状態における子どもと家族の療養環境に関する文献に基づき、援助方法について検討する。		【事前】テーマについての文献を探し、熟読し、ディスカッション内容を考える 【事後】授業で学んだ内容や疑問点や考察を A4用紙1枚にまとめる。	各自必要な文献を用いる。	
13.14						
15.16	慢性期における健康課題をもつ子どもと家族の理解	慢性期状態にある子どもと家族 病態理解・診断に必要な検査や治療方法・ケアの理解・管理について		【事前】テーマについての文献を探し、熟読し、ディスカッション内容を考える 【事後】授業で学んだ内容や疑問点や考察を A4用紙1枚にまとめる。	各自必要な文献を用いる。	
17.18						

19. 20	健康課題を持つ子どもと家族を取り巻く療養環境に関する文献検討および援助の検討	慢性状態にある子どもの苦痛緩和と症状マネジメントに関する文献を基に援助方法を検討する。 ・子どもが感じる痛み	【事前】テーマについての文献を探し、熟読し、ディスカッション内容を考える 【事後】授業で学んだ内容や疑問点や考察を A4用紙1枚にまとめる。	各自必要な文献を用いる。
21. 22				
23. 24	虐待の疑いがある子どもと家族の理解	虐待の疑いのある（虐待のある）子どもと家族 病態理解・診断に必要な検査や治療方法・ケアの理解・管理について	【事前】テーマについての文献を探し、熟読し、ディスカッション内容を考える 【事後】授業で学んだ内容や疑問点や考察を A4用紙1枚にまとめる。	各自必要な文献を用いる。
25. 26	健康課題を持つ子どもと家族を取り巻く療養環境に関する文献検討および援助の検討	虐待の疑いのある（虐待のある）子どもと家族への関わりや支援に関する文献に基づき、法律・援助方法・現状・課題について検討する		
27. 28	エンドオブライフにある子どもと家族の理解	エンドオブライフにある子どもと家族 病態理解・診断に必要な検査や治療方法・ケアの理解・管理について	【事前】テーマについての文献を探し、熟読し、ディスカッション内容を考える 【事後】授業で学んだ内容や疑問点や考察を A4用紙1枚にまとめる。	各自必要な文献を用いる。
29. 30	健康課題を持つ子どもと家族を取り巻く療養環境に関する文献検討および援助の検討	エンドオブライフにある子どもが抱える諸問題に関する文献に基づき、援助方法について検討する。		

教科書・参考文献など

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。
必要時、参考文献リストを配布するとともに、随時授業で資料を配付する。

最終到達目標

1. 小児期に特有な病気の病態生理、診断に必要な検査法とその解釈、治療過程および症状マネジメントについて説明することができる。
2. 小児看護学の視点に立ち、身体的・心理社会的側面を含めた包括的な専門的ケアについて自らの考えを述べることができる。
3. 健康課題をもつ子どもと家族の状況、苦痛やニーズ、多職種との連携を踏まえ、ケアモデルを検討することができる。
5. 健康課題をもつ子どもと家族への看護援助について発展的に考察することができる。

評価方法

課題達成度を以下の方法で評価する

- ・課題レポート(70%)
- ・プレゼンテーション(20%)
- ・討論(10%)

履修判定指標・評価基準

履修判定指標：

評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。

A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)

B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMD0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD07				教育・実践力	○
授業科目名	発達看護学特別研究IM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
学年/学期	1年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	高田律美				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、ライフステージ各期における発達看護領域の健康課題に対して、子どもと家族の最善の利益とリプロダクティブヘルス・ライツに関する臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。この科目では、研究計画書の完成と、倫理審査の申請を目標とする。研究過程は、研究課題の把握、研究テーマの設定、国内外の関連文献の探求、研究目的と研究デザインの決定、倫理的配慮、データ収集、データ分析の方法を明確化し、修士論文計画書を作成し、計画書の発表を行なう。教員の指導可能な研究テーマは以下のとおりである。</p>						
授業の概要						
<p>本科目は、各自の研究テーマについては院生の関心あるテーマを探求するが、担当教員の研究テーマを参考にしてテーマを探求してもよい。それらは以下の通りである。1. 思春期前期からのプレコンセプションケアの研究、2. 睡眠研究及び乳幼児突然死に関連する研究、3. リプロダクティブヘルス・ライツに関する研究、4. 出産直後の子育て（母乳育児等）の子どもへの成長要因に及ぼす影響、5. 子育て期にある夫婦の社会関係に関連するコンストラクト要因の研究、6. 母子を一体とした領域・時系列横断的な研究、途上国の母子調査研究</p> <p>本科目の展開は1年次の10月に研究計画書発表後、12月に研究計画書完成し、2月の倫理審査委員会へ提出審査を受けることを念頭に進めていく。授業はゼミ式でディスカッションを行う。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。研究課題の検討	科目の進め方についてオリエンテーションを実施。関心あるテーマについてグループディスカッションを行う。	事前にシラバスを読み、年間スケジュールを把握する。 事後には関心あるテーマについて授業中にレポート課題を指示すので文章化する。	大学院要覧 適宜提示		
2-3	研究課題の明確化：文献検討	各自の持参した論文とレポート課題を発表し、グループディスカッションしつつ研究課題を明確化する。	事前に第1回目の事後レポートを参考にキーワードに沿って文献検索し、授業中に提示できるようにする。事後は文献を検討し研究課題を明確化しレポートする。	適宜提示		
4-7	研究テーマと研究枠組みの決定：文献検討	研究課題に関連した国内外の文献をレビューしてグループディスカッションしつつ研究テーマを決定する。	事前に研究課題に関連した文献を検索し、文献一覧にするとともにその内容をクリテイクしておく。事後は研究テーマを明確化しレポートする。	適宜提示		
8	研究枠組み等の発表	②-⑥の授業を参考に各自のテーマ、リサーチクエッション、研究枠組みを文献の挿入されたレジメを使用してプレゼンテーションしその後ディスカッションを実施	事前に各自のテーマ、リサーチクエッション、研究枠組みを文献の挿入されたレジメを準備する。事後は研究計画書の内容を確認して発表の内容を記載しておく。			
9-12	研究計画書の作成	研究計画書の発表とループディスカッションし修正箇所を検討する。	事前に文献をさらに検索し一覧表にして研究計画書を作成および修正しプレゼンテーションの準備をする。事後は授業での検討内容について計画書を修正する。	適宜提示		
13-15	調査対象の選択・調査現場の連絡調整等の準備	研究計画に従い、調査対象を確定し、依頼文を検討し、具体的に連絡しておく。	事前・事後に調査対象や調査内容を検討し、依頼文を作成する。	適宜提示		

16-17	研究計画書の修正	研究計画書の発表とループディスクッションし修正箇所を検討する。	事前に文献をさらに検索し一覧表にして研究計画書を作成および修正しプレゼンテーションの準備をする。事後は授業での検討内容について計画書を修正する。	適宜提示
18-19	研究計画書発表会の準備	発表会に向けての準備をする	発表会に向けてのパワーポイントとレジメの作成、発表の練習	適宜提示
20	研究計画書発表会	研究計画書の発表	事前に指摘される点について検討しておく。事後は指摘された点のまとめをしておく。	
21	研究計画書の完成	発表会で指摘を受けた内容について再検討し、研究計画書を完成させる。	事前には指摘された内容について検討修正し授業に臨む。	適宜提示
22-23	倫理申請書の作成提出	倫理委員会の書類について検討し、完成後に提出する。	事前に倫理委員会の書類を作成し、授業で検討できる準備をする。事後に授業での検討に沿って修正する。	適宜提示
24-26	研究計画書の修正	倫理委員会の審査決定後に必要な書類や研究計画書の修正をする。	倫理委員会の決定に沿って事前・事後に書類や研究計画書の修正をする。	適宜提示
27-30	調査対象や確定、調査依頼の準備	研究計画に従い、調査対象を確定し、調査の依頼文の修正等書類を完成させ、連絡をする。	事前・事後に調査対象や調査内容を検討し、依頼文等の書類を作成する。	適宜提示
教科書・参考文献など				
適宜提示する。				
最終到達目標			評価方法	
1. 文献検討及び研究テーマの決定、研究方法論の決定ができる。 2. 研究計画書を作成し、研究発表会に臨める。 3. 研究計画書を修正し、完成できる。 4. 倫理審査委員会に申請書を提出でき審査を通ることができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験 (60%) ・ 課題レポート (20%) ・ プレゼンテーション (20%) ・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMD0702			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD07				教育・実践力	○
授業科目名	発達看護学特別研究IM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	三並めぐる				提言力	○
授業の目的						
<p>本研究は、ライフステージ各期における発達看護領域の健康課題に対して、子どもと家族の最善の利益とリプロダクティブヘルス・ライツに関する臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。この科目では、研究計画書の完成と、倫理審査の申請を目標とする。研究程は、研究課題の把握、研究テーマの設定、国内外の関連文献の探求、研究目的と研究デザインの決定、倫理的配慮、データ収集、データ分析の方法を明確化し、修士論文計画書を作成し、中間発表を行う。各担当教員の指導可能な研究テーマは以下のとおりである。</p>						
授業の概要						
<p>本科目は、研究テーマは学生自身の個別テーマであるが、子どもと家族に関する研究を担当する。1. 小児の成長発達支援、2. 生活習慣病と健康教育、3. タバコフリー（一次・二次・三次喫煙防止）と家庭内無煙のための家族支援、4. 養護教諭・保健室・学校保健のレリバンス、5. 養護教諭の危機管理能力を高める実践研修プログラム、6. 救急処置力（災害時も含む）等である。</p> <p>自研究テーマに関する先行研究の課題を整理し、研究テーマに関する課題の明確化、研究課題の選定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、倫理審査を受ける。これらの研究プロセスと論理的思考、適切な研究方法を理解・選択し、質の高いデータ収集と分析につなぐ。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：10-14：40）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目刈エーション 文献のクリティークを行い、研究課題を明確化させる。	今後の授業スケジュールを組み立てる自研究に関連する文献の検索を行い、文献レビュー・クリティークレーディングによる自研究課題の周辺の様々な知見を整理・分析し、研究課題を絞る。 自研究課題等の研究手法を検討する。	先行研究を検索し、自己の研究課題の周辺テーマについて情報を集める。文献をクリティークし、課題の周辺の研究に整理・分析を行う。研究課題を明確化していく。研究手法を理解する。	関連文献は自身で検索 ①黒田裕子著：看護研究 step by step 第6版、医学書院 ②牧本清子・山川みやえ編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版		
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11	研究目的を明確にし、研究計画書を作成する。	文献を分析し、課題を論理的に説明する研究の概念化を行う。研究の意義と価値を問い直す。研究の目的と目標を設定し、それに合う研究方法を選択する。量的研究の場合は仮説を立てる。質的研究の場合はインタビューガイドを作成する。	研究計画書を記載していく。研究の価値を明文化し、研究を設計し、目的に沿った研究方法を選択しているかを確認する。	先行研究論文は自身で検索 研究計画書と倫理申請書		
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19	研究計画の作成を行う。	研究計画を立て、矛盾や疑問点を解決して研究計画書を精選、完成させる。	計画書の文章を何度も読み返し、完成度を高める。発表後に質疑応答の内容を加味して計画書を修正する。	先行研究論文は自身で検索 研究計画書		
20						
21						
22						
23						
24						

25	1 年次以内に研究倫理申請を行う。	倫理審査申請書を作成し、各書類を整えて、申請する。	倫理審査申請書の様式を事前に取り寄せる。倫理審査の結果を受けて修正する。	
27				
28				
29	研究調査の実施準備をおこなう。	倫理審査で指摘部分を改善する。承認後、調査を開始する	倫理審査と計画書を読み返し、指摘があれば改善し、データ収集のための予定を立てる。	調査関連書類、倫理申請書類 研究計画書
30				
教科書・参考文献など				
1. 黒田裕子著：看護研究 step by step 第6版、医学書院、2,970円（2023） 2. 牧本清子・山川みやえ編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版会、3,520円（2020） 3. 坂下玲子、宮芝智子、小野博史編著：系統看護学講座別冊 看護研究第2版、医学書院2,750円（2023）				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・文献検討および課題の分析から研究テーマを決定できる。 ・研究計画書を作成し、研究計画発表を行うことができる。 ・自己の研究課題解決に向けた独創的な研究計画書が完成できる。 ・倫理審査申請書を提出できる。 			課題達成度を以下の方法で評価する 研究計画書(50%)・倫理審査(30%)・ 中間発表などプレゼンテーション (20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMD0703			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	研究力	○
科目区分	専門科目（発達看護学領域）EMD07				教育・実践力	○
授業科目名	発達看護学特別研究IM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	羽藤典子				提言力	○
授業の目的						
<p>本研究は、ライフステージ各期における発達看護領域の健康課題に対して、子どもと家族の最善の利益とリプロダクティブヘルス・ライツに関する臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。この科目では、研究計画書の完成と、倫理審査の申請を目標とする。研究計画書は国内外の先行研究レビューから自己の研究課題を絞り、研究の目的を明確にする。研究目的に合った研究デザインと研究方法を選択し、倫理的配慮、データ収集、データ分析の方法を明確化し、修士論文計画書を作成し、中間発表を行う。</p>						
授業の概要						
<p>研究テーマは学生自身の個別テーマであるが、担当教員の指導可能な研究テーマは以下のとおりである。</p> <p>1. 医療処置を受ける子どものプレパレーションの研究、2. ディストラクションに関する研究 3. 子供虐待の低減に向けた取り組みに関する研究、4. 医療的ケア児とその家族の支援、5. 思春期女性の冷え症と自律神経調節障害との関連、6. 子どもの保育環境と家族支援</p> <p>本科目は、1年次の4月に研究指導教員決定後、文献検討から課題の分析、研究テーマの決定、研究計画書の作成、その後、10月に研究計画発表、12月に研究計画書作成を完了し、2月の倫理審査委員会への申請書を提出し、審査を受ける。この一連の流れを行う。 (オフィスアワー：火曜日 12：00～13：00)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	オリエンテーション	1年間のスケジュールの概要説明とスケジュール立案	事前：勤務の状況等を踏まえた自身の年間の研究スケジュールを立てる。 事後：関心のある研究テーマを次回までに文章化する。	大学院要覧 関連文献		
2	文献検討 研究課題の検討	自身の研究テーマに関する文献検索を行い、研究の課題を検討する。	事前：関心のあるテーマに関する文献検索の実施 事後：文献検討を繰り返し、研究課題の分析を行う。	関連文献		
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10	研究テーマの決定	文献検討および課題の分析、批判的検討を行い、研究のテーマを決定する。	事前：文献検討から導かれた課題についてまとめておく。発表できるよう準備する。	関連文献		
11						
12	研究計画書の作成	自身の研究テーマに沿った研究デザイン、具体的方法を検討し、研究計画書を作成する。	事前：これまでの文献検討などからも研究デザインのヒントを得るよう熟読し、研究で財および方法の確立、事項に沿った計画書を丁寧に作成する。	関連文献		
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						

21	研究計画書の発表準備	10月の研究計画発表に向けて準備を行う。	事前：研究計画書の完成と発表準備	
22			事後：研究計画発表に向けてのプレゼンの練習	
23	研究計画発表	研究計画発表を行う。	事前：発表後の質問に対する対策を立てておく。 事後：発表会でアドバイス、指摘を受けた点につき加筆・修正を行う。	
24	研究計画書の完成	研究計画発表で助言・指摘を受けた内容について修正・改善を行い、研究計画書を完成させる。	事前：発表会でアドバイス、指摘を受けた点につき加筆・修正を行う。	関連文献
25				
26	研究倫理審査委員会への申請書作成	2月の研究倫理審査委員会への申請に向けて、倫理申請書を作成する。	事前：提出書類を確認し、不足なく申請書を作成する。	関連文献
27			事後：申請書を提出する前に指導教員に確認を取る。	
28				
29				
30	研究倫理審査委員会への申請書提出	倫理審査委員会に申請を行い、審査を受ける。	事前：倫理審査委員会に申請書を提出する。 事後：審査の結果によっては、指摘箇所の修正や追記を行い、承認を得る。	関連文献
教科書・参考文献など				
必要に応じて参考書の提示および資料配布を行う。				
最終到達目標			評価方法	
1. 文献検討および課題の分析から研究テーマを決定することができる。 2. 研究計画書を作成・完成させることができる。 3. 研究計画発表を行うことができる。 4. 研究倫理審査委員会に申請書を提出することができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMD0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD08				教育・実践力	○
授業科目名	発達看護学特別研究ⅡM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
学年/学期	2年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	高田律美				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、特別研究ⅡMの研究計画書に従って、学生に対する個別研究指導に取り組み、学位論文を完成させることを目的とする。ライフステージ各期における発達看護領域の健康課題に対して、子どもと家族の最善の利益とリプロダクティブヘルス・ライツに関して臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。この科目では、精度の高い研究データの収集、データの入力と分析、結果、考察し、論文を完成する。さらに自己の研究結果を発表し、他領域の指導教員との討議により、自己の論旨の精度、論文の完成度を高める。修士論文を完成させることにより、看護実践リーダー、管理者、教育者としての高度専門職業人としての能力を養う。</p>						
授業の概要						
<p>本科目は、各自の研究テーマについては院生の関心あるテーマを探求するが、担当教員の研究テーマを参考にしてテーマを探求してもよい。それらは以下の通りである。1. 思春期前期からのプレコンセプションケアの研究、2. 睡眠研究及び乳幼児突然死に関連する研究、3. リプロダクティブヘルス・ライツに関する研究、4. 出産直後の子育て（母乳育児等）の子どもの成長要因に及ぼす影響、5. 子育て期にある夫婦の社会関係に関連するコンストラクト要因の研究、6. 母子を一体とした領域・時系列横断的な研究、途上国の母子調査研究</p> <p>本科目の展開は2年次の9月に修士論文作成、1月に修士論文提出、2月修士論文最終発表会、その後修士論文の最終提出をすることを念頭に進めていく。授業はゼミ式でディスカッションを行う。 （オフィスアワー：火曜日 13:20-14:50）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目オリエンテーション。調査項目と調査方法を検討	科目の進め方についてオリエンテーションを実施。研究計画調書に沿って調査項目と調査方法を検討する。	事前に研究計画所に沿って、今後のスケジュールを立案する。事後には関心あるテーマについて授業に調査票の内容を検討し、次回の提出に備える。	大学院要覧 適宜提示		
2-4	調査対象者への依頼文の決定、同意書の決定、調査依頼。	調査対象者への依頼文の決定、同意書の決定、調査票、インタビューガイドを作成する。調査依頼をする。インタビューや調査票配布についてあらかじめのシュミレーションを行う。調査を依頼する。	事前に調査対象者への依頼文、同意書を作成する。調査票やインタビューガイドの準備をする。事後にはインタビューや調査票配布についてあらかじめのシュミレーションを行う。調査対象者についての情報を整理する。データ入力の準備をする。	適宜提示		
5-7	調査依頼・データ収集	調査対象者にインタビューや調査票配布をおこなう。必要時追加の依頼を実施する。	事前に調査についての進め方や関連施設の人との打ち合わせをし、検討事項、回収時期や方法を確認する。事後は調査票やインタビュー内容を整理しデータ入力を行う。研究課題に関連した文献を検索し、文献一覧にするとともにその内容をクリテックしておく。事後は研究テーマを明確化しレポートする。	適宜提示		
8-11	データ収集とデータ分析	必要時追加のデータ収集を行う。データの分析を行う。分析結果についてディスカッションを行う。	事前にデータ入力と分析方法を確認し、分析に必要なソフトや枠組みを準備する。事後はデータ分析の適切な処理を確認する。	適宜提示		
12-13	データ分析と結果の図表化	分析の結果を計画書に従って図表化したものを検討する。考察の方	事前に検討した分析結果を図表化しておく。結果を考察できる文献	適宜提示		

		向性についてディスカッションを行う。	を検索しておく。事後は図表の文献を修正し、考察を展開できるよう文献を検索し、結果と考察の方向性を決定する。	
14-16	研究論文の作成	研究の成果を論文として執筆した内容を提示し、ディスカッションを行う。	事前に研究成果を論文として執筆し、迷っている点などを明確化する。事後はディスカッションした結果を研究論文に反映させ修正する。	適宜提示
17-21	研究論文の作成	研究の成果を論文として執筆した内容を提示し、ディスカッションを行う。	事前に研究成果を論文として執筆し、迷っている点などを明確化する。事後はディスカッションした結果を研究論文に反映させ修正する。	適宜提示
22	研究論文の作成	研究の成果を論文として執筆した内容を提示し、副査も含めディスカッションを行う。	事前に研究成果を論文として執筆し、迷っている点などを明確化する。事後はディスカッションした結果を研究論文に反映させ修正する。	
23-25	研究論文の作成	研究の成果を論文として執筆した内容を提示し、ディスカッションを行う。	事前に研究成果を論文として執筆し、迷っている点などを明確化する。事後はディスカッションした結果を研究論文に反映させ修正する。	適宜提示
26-27	研究論文の最終発表会の準備	発表会で指摘を受けた内容について再検討し、再度発表のシュミレーションを実施する。	事前に論文の最終発表会で指摘が予想される点について回答できるよう準備を行う。パワーポイントとレジメの修正を行う。事後は最終発表会までに授業での意見を参考に発表会の資料を修正し発表の準備を行う。	適宜提示
28	研究論文の審査の提出	審査の書類について検討し、完成後に提出する。	事前に審査関連の書類を作成し、授業で検討できる準備をする。事後に授業での検討に沿って修正する。	適宜提示
29	研究論文の審査修正	研究論文の最終発表の審査で受けた指摘をもとに論文修正を行う。	事前に審査で指摘を受けた点について論文の修正を行う。事後は授業で受けた意見をもとに論文を見直す。	適宜提示
30	研究論文の修正・最終提出	審査で指摘を受けた箇所の修正を修正し、論文を提出する。特別研究についての評価を行う。	事前審査で指摘を受けた箇所の修正を修正する。事後に論文を様式も含め最終確認し提出する。	適宜提示
教科書・参考文献など				
適宜提示する。				
最終到達目標			評価方法	
1. 専門領域において意義のある研究課題を設定できる。 2. 研修課題に関する文献を論文に反映できる。 3. 研究課題に適した研究方法を実施できる。 4. オリジナリティのある論文が完成できる。 5. 教育研究者・実践者としての倫理観や倫理的態度を身につけることができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100~80点)：到達目標を達成している (Very Good)				

B(79～70点) : 到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)

C(69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D(60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

(E : 試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F : 出席不足で成績評価要件の未充足)

授業コード	EMD0802			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○		
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD08				教育・実践力	○		
授業科目名	発達看護学特別研究ⅡM	選択・必修	必修		倫理調整力	○		
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	4		連携力	○		
担当教員	三並めぐる				提言力	○		
授業の目的								
<p>本科目は、発達看護学領域における臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。この科目では、研究計画書作成・倫理審査承認後に、精度の高い研究データの収集、正確で妥当性のあるデータの入力と分析、クリアな結果を導き出し、得られた結果を考察するプロセスを修得する。</p>								
授業の概要								
<p>研究プロセスは、データの収集・分析・結果・考察の段階を経て、論文として完成させる。自己の研究結果を発表（プレゼンテーション）し、研究プロセスと内容に対して質疑に回答し、公表するプロセスまでが含まれる。そのプロセスの中では、論文指導者以外からの論文審査が行われ、同時に研究指導を受けるため、他学問、他領域の教員の研究指導からも、自己の論旨の精度、論文の完成度を高める。</p> <p>（オフィスアワー：火曜日 13：10-14：40）</p>								
授業の計画及び展開方法								
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献				
1	科目リエンション	研究計画に沿って研究データの収集を行う。研究倫理原則に則り、丁寧なデータ、質の良いデータが収集できるための計画を綿密に行う。	研究倫理申請書に則り、各種の書類を準備する。	各種のデータ解析法関連の著書 考察のための文献等 大学院要覧 p37-44				
2	研究活動を推進し、調査を実施する。					調査を実施する。データを解析・分析する。		
3								
4								
5								
6								
7	データを収集・分析し結果を出す。				データを集計・分析し、結果を出す。先行研究などと比較検討し、結果を考察する。			
8	結果を考察する。							
9								
10								
11								
12								
13	修士論文を執筆する。	修士論文を形にする。	結果を考察する。 結論を導き、先行研究との関連について検討し、結論と課題を導く。 論文に反映させる。	関連文献				
14		先行研究との整合性や論文のオリジナリティについて検討し、深める。						
15								
16								
17	修士学位論文を完成させる。	修士論文を作成する。	論旨に一貫性があるか確認し、矛盾する箇所は丁寧に見直し修正する。	修士論文原案				
18								
19								
20								
21								
22								
23	3年次1月に学位論文審査書類を提出し、審査を受ける。	学位論文審査書類を提出する。 学位論文審査は、原則、3名の審査者で行われる。審査者からの修正事項、追加事項を15分程度で説明し、1時間程度の質疑に回答する。 修正が必要な場合は、指定された期日に提出し、再度審査を受ける。	学位論文審査書類を整え、期日までに提出する。 審査時の質疑に答えられるよう、準備をする。審査結果を受け、修正が必要な場合は、指定の期日までに修正を行う。その際、質疑や指摘事項に対する修正について、対応表を作成する等、審査者に分かりやすいよう提示する。	必要な資料は配布 松山看護学研究科2026年度大学院要覧、				
24								

			不合格となった場合は、次年度の提出に向けて論文内容を吟味し、追加・修正する。	
25	2月修士学位論文 最終発表を行う (研究科の審査の一環)	最終発表の準備を行う。	最終発表の準備のため、資料と発表媒体を作成する。	
26				
27				
28				
29				
30	修士学位論文を提出する。		修士学位論文他、必要な書類を提出する。 学位論文は冊子にし、指定された部数を提出できるように準備する。	松山看護学研究科2026年度大学院要覧、
教科書・参考文献など				
自研究に沿った各種データ分析のための書籍 考察のための論文作成に沿った先行研究 大学院要覧				
最終到達目標			評価方法	
1. 修士論文を執筆し、学位論文審査を受ける。 2. 各審査で質疑に対応できる。助言及び指摘について、論文を適切に修正して提出する。 3. 最終発表で、自己の研究を報告でき、審査を終える。最終的には論文審査に合格する。			課題達成度を以下の方法で評価する 修士論文完成度(90%)・プレゼンテーション(10%)・	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EMD0803			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 発達看護学領域 EMD08				教育実践力	○
授業科目名	発達看護学特別研究ⅡM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	羽藤典子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、ライフステージ各期における発達看護領域の健康課題に対して、子どもと家族の最善の利益とリプロダクティブヘルス・ライツに関して臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。</p> <p>この科目では、この科目では、研究計画書の完成と、倫理審査の申請を目標とする。研究計画書は国内外の先行研究レビューから自己の研究課題を絞り、研究の目的を明確にする。研究目的に合った研究デザインと研究方法を選択し、信頼性と妥当性のあるデータの収集と分析から結果が導き出せるよう、研究設計を行う。』ことを目的とする。</p>						
授業の概要						
<p>主として小児看護学の研究を担当する。</p> <p>科目担当者の主な研究テーマは、1. 医療処置を受ける子どものプレパレーション、2. ディストラクションに関する研究、3. 子供虐待、4. 医療的ケア児とその家族の支援、5. 思春期女性の冷え症と自律神経調節障害との関連等、である。</p> <p>本科目は、1年次の4月に研究指導教員決定後、文献検討から課題の分析、研究テーマの決定、研究計画書の作成、その後、10月に研究計画発表、12月に研究計画書作成を完了し、2月の倫理審査委員会への申請書を提出し、審査を受ける。この一連の流れを行う。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 12：30-13：30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	授業スケジュールについて	今後の授業スケジュールを組み立てる		事前：自身の年間スケジュールの把握 事後：関心ある研究テーマの文章化を行う。	大学院要覧 関連文献	
2	文献検討から課題の分析	自身の個別テーマに関する文献検討を行い、課題の分析を行う。		事前および事後：文献検討を繰り返し、関心ある研究テーマに関する課題の分析を行う。	関連文献	
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9	研究テーマの決定	文献検討および課題の分析から、自身の研究テーマを決定する。		事前：課題の分析から自身の研究テーマの絞り込みを図る。	関連文献	
10						
11						
12	研究計画書作成	研究テーマ決定後、研究計画発表会に向け、研究計画書を作成する。		事前：これまでの文献検討および課題の分析をまとめておく。		
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22	研究計画書完成	研究計画発表で指摘を受けた内容		事前：研究計画発表で指摘を受け		

23		を再検討し、研究計画書を完成させる。	た点を、整理しておく。	
24				
25				
26	倫理申請書の作成	2月の倫理審査委員会への申請に向け、倫理申請書を作成する。	事前：研究計画書を完成させておく。	
27				
28				
29				
30	倫理審査委員会への申請	倫理審査委員会への申請を行い、承認を得る。	事前：倫理審査委員会に倫理申請書を提出する。	
教科書・参考文献など				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・文献検討および課題の分析から研究テーマを決定できる。 ・研究計画書を作成し、研究計画発表を行うことができる。 ・研究計画書を完成させることができる。 ・倫理審査申請書を提出することができる。 			課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(80%)・プレゼンテーション(20%)・	
履修判定基準・評価基準				
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EME0102			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME01				教育・実践力	○
授業科目名	地域・在宅看護学特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	西嶋 真理子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、地域で暮らす人々への保健医療福祉、看護の質を高め、健康維持と健康回復、安らかな死や家族支援も視野に入れ、高いQOL維持のための看護の役割・機能についての知識を深めることを目的とする。全ての世代の健康生活に関連する法制度を概観し、超高齢多死社会の地域生活における課題と対策について多角的に論述する。さらに既存の文献から、国内外の各地域の健康関連の戦略的な取り組みなどについて言及し、地域・在宅看護の方向性とその意義について論述する。</p>						
授業の概要						
<p>本科目担当教員は、県保健所保健師として6年間の実務経験と大学教員として27年間の教育・研究の経験、特にペアレントメンターなどの発達障害児の家族支援や訪問看護管理者研修会検討委員として訪問管理者育成に携わった経験をもとに、科目の授業を展開する。授業は、講義、討議、プレゼンテーション等で構成する。</p> <p>(1) 主として地域・在宅看護学分野の課題に関して、受講生の希望に合わせて取り上げる。</p> <p>(2) 主として、ヘルスプロモーションや発達障害、公衆衛生看護、地域・在宅看護の研究テーマを、受講生自身の研究課題に合わせて取り上げる。(オフィスアワー：水曜日 12:20～13:00)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目ガイダンス 地域看護学と在宅看護学の関連とヘルスプロモーション	本科目の進め方と内容を確認する。地域で暮らし、療養する人々のヘルスプロモーションについて探求する。	シラバスを読む。ヘルスプロモーションについて既存の資料を確認する。事後学修は、学びをまとめ考察する。	適時、提示する。		
2	地域看護、訪問看護、地域・在宅看護制度の変遷	日本の地域看護・訪問看護の歴史と諸外国との比較から、現在の課題を探究する。	諸外国の地域・在宅看護の実際を調べておく。事後学修は、制度の特徴と弊害をまとめ考察する。	適時、提示する。		
3	新しい時代の親子保健	親子保健の変遷と現在の親子保健施策を概観し、新しい時代に求められる親子保健の課題について議論する。	日本の親子保健(母子保健)の歴史と子ども家庭センターの役割機能について調べておく。事後学修は、学びをまとめ考察する。	適時、提示する。		
4	青年期・壮年期にある人々の健康生活への支援	生活習慣病予防や健康づくりのための保健活動の変遷を概観し、現在の施策とその課題について議論する。	健康づくりと疾病予防対策の歴史について調べておく。事後学修は、学びをまとめ考察する。	適時、提示する。		
5	高齢期にある人々の健康生活と地域づくり	高齢者施策を概観したうえで、現在の少子高齢化を背景とした高齢者保健施策とその課題について議論する。	高齢者への医療制度の変遷、高齢者保健施策について調べておく。事後学修は、学びをまとめ考察する。	適時、提示する。		
6	介護保険制度の変遷	日本における介護保険制度を概観し、地域で生活している療養者等の利用状況、課題等を探究する。	介護保険制度について調べる。事後学修は、今後の介護保険制度の在り方についてまとめ考察する。	適時、提示する。		
7	障害者総合支援法、発達障害者支援法、障害者の支援体制	地域における支援体制づくり、特に発達障害に視点を当て、議論する。事前に配布した文献を用いて、討議と発表で展開する。	関連文献を調べておく。事後学修では、支援体制の在り方について考察する。	適時、提示する。		
8	訪問看護、地域・在宅看護の実態と課題	様々な領域から見た現在の訪問看護や地域・在宅看護の実態と課題を経験知と文献から整理する。	先行文献や参考図書を調べる。事後学修は、法制度の限界と提言をまとめ考察する。	適時、提示する。		
9	地域看護における	地域住民に対する健康の保持増進	国民衛生の動向や県・市町のホー	適時、提示する。		

	るヘルスプロモーション	の実際と保健所及び市町村の機能について理解を深める。	ムページ等から、公衆衛生活動について調べておく。事後学修では、行政機関における公衆衛生活動についての学びをまとめる。	
10	看護職のコア・バリューとコア・コンピテンシー	公衆衛生看護を担う保健師が大事にしている考え方、コアとなる能力について理解を深める。	看護基礎教育と現任教育との接続の現状について事前学修しておく。事後学修では具体的な活動に潜むコア・バリューやコア・コンピテンシーの要素について考察する。	適時、提示する。
11	公衆衛生看護の技術・機能、PDCAサイクルと評価	公衆衛生看護活動の役割と機能、方法と評価についての理解を深める。講義と討議で展開する。	文献や参考図書を読んでおく。事後学修では、これまでに学んだ活動事例について、レポート課題を提示し提出を求める。	適時、提示する。
12	保健医療福祉関係機関における連携調整・協働	保健医療福祉関係機関における連携・協働について、発達障害の事例を通して理解を深める。講義と討議で展開する。	関係機関との連携や協働に関する文献を調べておく。事後学修では、多機関との連携・調整に関する学びをまとめ考察する。	適時、提示する。
13	発達障害児の家族支援	トリプルPを用いた家族への支援技術を学修することにより、親子保健活動や産業保健における適用方法を議論する。	事前に自身や援助事例、周囲の経験から2-12歳児への対応に苦慮した事例を用意しておき、メンバで共有する。事後学修では事例に対してどのように対応できるかを考察する。	適時、提示する。
14	地域包括ケアシステムと多職種連携	地域包括ケアシステムの現状について概観し、地域別特徴、差異の理解を深め、多職種連携の有様を探究する。	地域包括ケアシステムについて調べる。事後学修は、地域包括ケアシステムと多職種連携の有様についてまとめ考察する。	適時、提示する。
15	地域・在宅看護分野の研究の動向	最新の地域・在宅看護、訪問看護の研究動向について、関連文献や実践活動を通して議論し、課題解決のための研究の方向性を議論する。	関連文献を調べておく。事後学修は、関連文献から受講生自身の研究に活かす。	適時、提示する。

教科書・参考文献など	
参考文献：荒木田美香子他. 地域看護学 Theory and Practice of Community Health Nursing. 医歯薬出版 2026. 国民衛生の動向 2025/2026. 厚生労働統計協	
最終到達目標	評価方法
1) 地域・在宅看護、訪問看護に関連した課題が説明できる。 2) 近年の地域・在宅看護関連の研究の動向が説明できる。 3) 公衆衛生看護活動における健康課題の発見、アセスメント、計画の立案と実施、評価の展開方法が理解できる。 4) 提示した文献（活動事例）から、①なぜその活動が必要であるのか。②なぜ、その活動が他の地域にまで影響を与えたのか。鍵となる事柄や実践者の視点や役割などについて、分析・説明できる。	課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート（90%）毎回授業における受講生のプレゼンテーション（10%）
履修判定指標・評価基準	
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EME0202			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME02				教育・実践力	○
授業科目名	地域・在宅看護学特別演習 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	西嶋 真理子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、地域・在宅看護学特論 M を踏まえて、実践と研究の両側面から、より深く実践の現象と理論を往還させながら学修することを目的とする。幼児から高齢者までの地域生活者の生活支援と関連する法制度を概観し、医療保健福祉の課題と発展について、実践的に現象を理解しつつ、教育的視点と研究的視点で課題に対するサジェスションを得られるよう学修を進める。さらに、各地域で活用できる制度の中で、例えば認知症カフェ、ペアレントメンターカフェ、地域カフェのような地域の社会資源の創出について言及する。得られた知見が自己の実践的課題解決と研究課題の明確化に繋がるよう学生の研究テーマに合わせて、選択的に論述する。</p>						
授業の概要						
<p>小児期・青年期・壮年期・高齢期の人々や障害者を対象とした公衆衛生看護、在宅看護の研究テーマを、自身の研究課題に合わせて取り上げる。以下の内容を中心に文献検索、話題提供とディスカッション、フィールドの選択とフィールドワーク、発表の過程を通して学修する。①地域における保健活動・在宅看護活動と介護予防、地域における世代間の繋がりなどのための地域活動に関する実践的介入の実証研究について概観する。②地域における共生社会の創出と地域生活者の人材発掘と育成の効果、③集団の健康管理上の課題、及び行政の役割と機能による戦略的介入、④保健活動・在宅看護活動の役割と機能、実践と評価の文献的・実践的考察を行う。また、⑤各種制度の課題と制度の対象外の人々への支援、⑥健康危機と保健活動・看護活動の実際について論述する。(オフィスアワー：水曜日 12:20～13:00)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目ガイダンス	本科目の進め方を把握し、共有する。	事前学修：シラバスを読む。 事後学修：自己の学修課題を明確にし、文献の候補を選定する。	適時、提示する。		
2	地域看護、在宅看護に関連する文献の選定	自己紹介。自身の研究テーマに関連する先駆的な実践的介入の実証研究を選定し概観し、討議する。	事前学修：選定した文献をクリティークする。事後学修：学生間、教員と討議したことを振り返る。	適時、提示する。		
3	研究課題の設定	研究課題に関連した討議を行い、知見を共有し、研究テーマを決定する。	事前学修：更なる文献を選定し、クリティークする。事後学修：討議した内容をレポートする。	適時、提示する。		
4	実践活動事例の検索	研究テーマに深く関連する実践活動が行われている地域活動の場(フィールド)の情報を得る。	事前学修：活動事例を検索する。 事後学修：活動事例の情報を収集する。	適時、提示する。		
5	実践活動事例の決定	実際に現地調査を行う実践活動事例を決定し、明らかにしたい内容を検討する。	事前学修：活動事例の情報を他と比較する。事後学修：検討した内容をレポートする。	適時、提示する。		
6	実践活動事例の情報収集とアセスメント	地域活動の実践に関して、直接情報を得るなどを通して、自己の研究課題を焦点化する。	事前学修：実践活動事例の情報を整理し、資料化する。事後学修：研究課題の構造化案の作成	適時、提示する。		
7	研究課題に即したフィールドワークの計画作成	現地の状況に合わせた現実的で具体的なフィールドワークの計画作成をする。	事前学修：フィールドワーク計画作成案を作成する。事後学修：フィールドワーク計画を加筆修正する。	適時、提示する。		
8 9	現地で説明を受け、資料からの情報と統合	実践の場で地域の健康課題の発見から計画、実践、評価までの展開に関する説明を受ける。資料閲覧。	事前学修：現地での情報収集の内容を明確化する。事後学修：得た情報を整理し資料化する。	適時、提示する。		
10 11	フィールドワークの計画作成	実践の場で得られた情報をもとにより詳細なフィールドワークの計画作成	事前学修：現地での情報収集の内容を明確化する。事後学修：得た情報を整理し資料化する。	適時、提示する。		
12	実践活動に参加	実践活動の場に、学生と教員が参	事前学修：現地での活動の手順、	適時、提示する。		

13 14	し住民の声を聴取し観察する。	加し、実践者と共同で活動を行う。直接、住民の声を聞き、観察を行うことにより、活動についてより深く理解する。	実施要領を作成し参加者と現地スタッフ用を印刷する。 事後学修：得た情報・観察した内容を整理し資料化する。	
15 16 17	活動に参加後、討議し、活動について考察・評価	実践活動の場に参加後、実践者とその活動（事業）の展開の具体的な経緯と展開方法、評価などについての考察を行う。	事前学修：資料化し印刷する。 事後学修：討議した内容や考察した内容を資料化する。	適時、提示する。
18 19 20	研究課題と問題解決の明確化	現地の活動で得られた情報と観察、インタビュー等から、自身の研究課題に視点を当て、考察する。学生間での討議を行い、研究課題と課題解決について明確化する。	事前学修：資料を印刷し討議用に持参する。 事後学修：討議した内容を記録整理し、研究課題と課題解決について明確化する。	適時、提示する。
21 22 23	研究課題について論述	現地での活動で得られた情報と観察、インタビューなどから、自身の研究課題に視点を当て、論述する。	事前学修：研究課題と問題解決について、考察した内容を記述し、担当教員に説明する。 事後学修：論述を継続する。	適時、提示する。
24 25 26	成果発表資料の作成	演習での成果をプレゼンテーションするために、資料（パワーポイント）を作成する。	事前学修：プレゼンテーションの内容を検討しておく。 事後学修：資料を作成する。	適時、提示する。
27	成果発表、討議	研究課題を発表し、学生・教員による討議を行う。	事前学修：資料を印刷しておく。 事後学修：討議の結果を記録整理し、次回まとめに備える。	適時、提示する。
28	演習のまとめ、評価	特別演習のまとめと振り返りを行う。	事前学修：演習の振り返りをレポートしておく。 事後学修：レポートを課す	適時、提示する。
29	健康危機管理	健康危機（自然災害）を想定したシミュレーションを行い振り返る。	事前学修：現地での活動中に起こり得る自然災害と平常時の備えについて検討する。 事後学修：シミュレーションの内容を振り返りまとめる。	適時、提示する。
30	健康危機管理	健康危機（感染症）を想定したシミュレーションを行い振り返る。	事前学修：感染症のパンデミックの状況下で現地での活動を行うことを想定し、事前準備について検討する。 事後学修：シミュレーションの内容を振り返りまとめる。	適時、提示する。
教科書・参考文献など				
電子媒体による資料配布予定				
最終到達目標			評価方法	
①地域・在宅看護の対象を理解し、法制度や社会資源を効果的に活用しながら健康課題の解決に向けた方策を提案できる。 ②研究の意義と研究成果の実践への応用について考察できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・プレゼンテーション(20%)	
履修判定指標・評価基準				
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EME0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME03				教育・実践力	○
授業科目名	精神看護学特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	別宮直子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目の目的は、精神看護学に関連する理論や現象を学び、現代社会の抱える精神の健康問題に対し、自ら探究し、知識を深め精神看護学の技術の質向上を図る。具体的には、精神保健医療福祉を取り巻く社会情勢、精神分析理論や危機介入理論、集団精神力動、ストレングスモデル、セルフケア理論、治療的関係、対人関係論、医療施設や地域における精神看護の役割や課題、精神看護における倫理課題等を先行研究などから探究し、知識を深める。さらに、コロナ感染による PTSD やうつ、現代病ともいえるゲーム障害、国際的にも病床数の多さが指摘されている日本の精神科医療の抱える問題など、歴史や社会など複雑に絡み合った課題について心理的社会的側面を探究し、知識や課題分析力（アセスメント力）を養う。</p>						
授業の概要						
<p>具体的には、精神保健医療福祉を取り巻く社会情勢、精神分析理論 や危機介入理論、集団精神力動、ストレングスモデル、セルフケア理論、治療的関係、対人関係論、医療施設や地域における精神看護の役割や課題、精神看護における倫理課題等を先行研究などから探究し、知識を深める。15回 （オフィスアワー：水曜日 12：00-13：30）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	精神保健・医療・福祉の歴史の変遷と法制度	精神保健・医療・福祉の歴史の変遷とそれに伴う法制度について概説する。	初回の授業では、講義を行う。その際、以後の授業について、各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	精神障害をもつ人の看護①②、メヂカルフレンド社		
2	精神の健康と不健康	精神の健康と不健康について、どのように捉えられているかを概説する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	標準精神医学【第8版】医学書院、		
3	精神看護における倫理的問題の特徴および傾向	精神看護における倫理的問題について、その特徴や傾向を理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	関連文献		
4	精神科医療の課題	現在、国際的にも日本の精神科医療の抱える課題は取り上げられている。それらの課題とその背景を理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	関連文献		
5	医療における精神看護の役割	医療機関における精神看護の役割を理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	関連文献		
6	地域における精神看護の役割	地域における精神看護の役割を理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	関連文献		
7	精神分析理論	フロイトの提唱した精神分析理論について理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	関連文献		
8	危機介入理論	現在提唱されている危機（介入）理論について理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	危機介入の理論と実際、川島書店		
9	セルフケア理論	オレム - アンダーウツのセルフケア理論やケアシステム論を理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	オレム - アンダーウツのセルフケア理論		
10	ストレングスモデル	現在、支援の視点とされるストレングスモデルについて理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	ストレングスモデル		
11	集団精神療法	集団精神療法について理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	グループサイコセラピー、西村書店		

12	対人関係論、治療的関係	対人関係論および治療的関係について理解する。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	対人関係論
13	現在における精神問題と治療や看護	現在社会においてメンタルヘルスの問題となっている疾患（例えばゲーム障がいやギャンブル障がいなど）について、調べ、理解を深める。	各自が担当するテーマや内容を検討し、準備を進める。	関連文献
14				
15				
教科書・参考文献など				
参考文献：標準精神医学【第8版】医学書院、カプラン臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開、MEDSI、危機介入の理論と実際、川島書店、看護における危機理論、危機介入、金芳堂他				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学に関連する代表的な理論を理解することができる。 ・現在の精神看護に至る背景や、抱える課題を理解し、その要因を考察することができる。 ・現在の社会情勢とメンタルヘルスの関連を探究することができる。 			課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(60%)・プレゼンテーション(40%)・	
履修判定基準・評価基準				
<p>評価の基準は以下のとおりとする。</p> <p>A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)</p> <p>D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)</p> <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>				

授業コード	EME0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME04				教育・実践力	○
授業科目名	精神看護学特別演習 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	別宮直子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目の目的は、精神看護学特論 M の学修を踏まえ、精神の健康問題や精神看護学に関連するテーマを設定し、テーマに関する論文を複数精読し、各文献のクリティークを行う。同一のテーマに対し複数の文献を批判的に精読することで、研究目的から研究デザイン、研究方法等の研究計画の流れ、さらに研究目的・研究方法から結果および考察への科学的論理の一貫性への理解を深め、自身の研究課題に取り組む論理的思考力を培うことである。</p>						
授業の概要						
<p>本科目の授業は、上記の目的に記述したように、精神の健康問題に関連するテーマを設定し、テーマに関する論文を精読し、各文献のクリティークを行う。基本的にはこのクリティークを対象論文を変え、行うことで批判的視点、能力を培う。さらに自己の研究課題を明確にする必要がある場合には、必要時、病院施設や地域施設でのフィールドワーク等の実体験を取り入れ、自身の体験をまとめ、ディスカッションを行い、自己の研究課題に繋げる。具体的には、疾患と看護（診断基準、症状と特徴、治療と経過、経過に沿った看護）、自殺予防と自殺への看護、看護介入法（認知行動療法、心理教育、生活技能訓練、WRAP、SST、カウンセリングなど）、精神疾患をもつ対象者に対する地域包括ケアシステムの現状、地域包括ケアシステムにおける精神看護の役割、ACT、オーブンダイアログ、ハームリダクション等について、テーマを決定し、テーマに関する論文を複数精読し、各文献のクリティークを行う。しかし、基本的には受講学生の関心テーマが望ましい。 (オフィスアワー：水曜日 12：00-13：30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	クリティークとは	クリティークとは、クリティカルシンキングとはについて概説する	事前：使用図書を授業開始までに購入しておくこと。 事後：クリティークとは等を復習する。	よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版、日本看護協会出版会		
2						
3	文献クリティークの方法	研究テーマと研究枠組みから研究手法によるクリティークについて、使用図書を参考にまとめる。	事前：使用図書の該当箇所をまとめる。 事後：関心あるテーマに関する質的研究文献を入手する。			
4						
5～8	文献クリティーク（質的研究）	質的研究における文献クリティークの視点をまとめ、関心あるテーマにおける質的研究文献のクリティークを行う。	事前：文献のクリティークをしておく。 事後：関心あるテーマに関する尺度開発研究文献を入手する。			
9～12	文献クリティーク（尺度開発）	尺度開発における文献クリティークの視点をまとめ、関心あるテーマにおける尺度開発研究文献のクリティークを行う。	事前：文献のクリティークを行う。 事後：関心あるテーマに関する介入研究文献を入手する。			
13 16	文献クリティーク（介入研究）	介入研究における文献クリティークの視点をまとめ、関心あるテーマにおける介入研究文献のクリティークを行う。	事前：文献のクリティークを行う。 事後：関心あるテーマに関するシステムティックレビューを入手する。			
17 ～ 20	文献クリティーク（システムティックレビュー）	システムティックレビューにおける文献クリティークの視点をまとめ、関心のあるテーマにおけるシステムティックレビューのクリティークを行う。	事前：文献のクリティークを行う。 事後：関心あるテーマに関するケーススタディを入手する。			

21 ～ 24	文献クリティーク（ケーススタディ）	ケーススタディにおける文献クリティークの視点をまとめ、関心のあるテーマにおけるケーススタディ文献のクリティークを行う。	事前：文献のクリティークを行う。 事後：関心あるテーマに関する観察研究文献を入手する。	
25 ～ 28	文献クリティーク（観察研究）	観察研究における文献クリティークの視点をまとめ、関心のあるテーマにおける観察研究文献のクリティークを行う。	事前：文献のクリティークを行う。 事後：各研究方法におけるクリティークの視点をおさえる。	
29 30	まとめ	これまでの授業内容をまとめ、クリティカルシンキング能力の向上を図る。	事前：各研究方法におけるクリティークの視点をまとめる。	
教科書・参考文献など				
教科書：よくわかる看護研究論文のクリティーク第2版、日本看護協会出版会				
最終到達目標			評価方法	
(1)クリティークとは、クリティカルシンキングとは何かを理解できる。 (2)実際に、入手した文献のクリティークを行うことができる。 (3)クリティークを行ったことで研究全体における科学的論理的一貫性を理解できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(60%)・プレゼンテーション(40%)・	
履修判定基準・評価基準				
評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EME0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME05				教育・実践力	○
授業科目名	高齢者看護学特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	赤松公子				提言力	
授業の目的						
<p>本科目は、日本の超高齢・多死社会における医療・看護およびエンドオブライフケアの課題を明確化することを目的とする。諸外国における高齢者ケアおよびエンドオブライフケアに関連する制度や支援システムについて文献等を用いて学修し、日本との相違点を明らかにする。さらに、日本における高齢者看護の課題について、既存文献および自身の実践経験をもとに整理する。加えて、高齢者看護に関連する看護理論を活用し、ケースレポートとしてまとめ、アセスメント、介入方法、ケアシステム、他職種連携の視点から、課題解決に向けたプランニングを行う。</p>						
授業の概要						
<p>本授業では、日本の超高齢・多死社会を背景に、高齢者医療・看護およびエンドオブライフケア (End-of-Life Care : EOLC) の現状と課題を多角的に理解することを目的とする。</p> <p>諸外国の高齢者ケアおよびエンドオブライフケアに関する制度・支援システムについて文献を用いて学修し、日本の制度・文化的背景との相違点を明らかにする。</p> <p>さらに、日本における高齢者看護の課題を、既存文献および学生自身の臨床・実践経験をもとに整理する。加えて、高齢者看護に関連する看護理論を活用し、ケースを通してアセスメント、看護介入、ケアシステム、他職種連携の視点から課題解決に向けたプランニングを行い、ケースレポートとしてまとめることで、実践的思考力の涵養を目指す。(オフィスアワー：水曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	オリエンテーション	業の目的・進め方・評価方法の説明／日本の人口動態と多死社会	超高齢社会・多死社会に関する統計資料および基礎文献を読み要約する。	適時提示		
2	日本の超高齢・多死社会における高齢者医療・看護とEOLCの課題	高齢者医療の特徴	自身の臨床・実践経験（直接・間接を含む）において、高齢者医療またはエンドオブライフケアで「課題」と感じた事例を1つ振り返り、簡潔に整理する。	適時提示		
3		高齢者看護における主要課題の整理 エンドオブライフケアの定義 倫理的課題 高齢者特有の倫理的ジレンマ				
4	意思決定支援とACP	ACPの概念と実践	ACPに関する論文・ガイドラインを読み要点を整理する。	適時提示		
5		高齢者・家族への意思決定支援 日本におけるACPの現状と課題				
6	諸外国における高齢者ケア制度と日本における高齢者看護の課題整理	欧米諸国の高齢者ケア・EOLC制度	諸外国と日本のエンドオブライフケアに関連する制度と支援システムにおける課題について論文や文献、実践経験をもとに整理する。	適時提示		
7		在宅ケア・ホスピスの仕組み				
8		日本との比較				
9	高齢者看護に関連する看護理論とその活用	高齢者看護に用いられる主要理論 理論をEOLC・高齢者ケアにどう適用するか	高齢者看護に関連する看護理論を1つ選択し、理論の背景、主要概念、特徴を整理する。 当該理論が高齢者やエンドオブライフケアにどのように適用可能かを考えておく。	適時提示		
10						
11						
12	ケースアセスメントと看護介	身体・心理・社会・スピリチュア	提示されたケースまたは自身の経験した高齢者事例について、身	適時提示		

13	入・ケアシステム・他職種連携	ルの統合的アセスメントと生活史・価値観を理解した高齢者特有のアセスメントの視点、多職種連携について	体・心理・社会・スピリチュアルの視点から情報を整理する。他職種連携が必要と考えられる場面を抽出する。	
14	ケースレポートの統合と高齢者看護の展望	ケースレポートの発表 相互フィードバック 課題解決プランの再検討	ケースレポートを完成させ、理論・文献・実践の統合ができているかを確認する。 自身の専門性がどのように発揮されているかを振り返る。	適時提示
15				
16	試験			
教科書・参考文献など				
参考文献は適時紹介する。				
最終到達目標			評価方法	
日本の超高齢多死社会における医療・看護、及びエンドオブライフケアの課題を諸外国の状況から考察・説明できる。 エンドオブライフケアの質保証について説明できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 最終課題レポート(50%)・授業への参加・討論への貢献(50%)	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EME0502			定める養成する能力 ディプロマポリシーに	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME05				教育・実践力	○
授業科目名	高齢者看護学特論M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/前期	単位数	2		連携力	○
担当教員	岡多枝子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目の目的は、日本の超高齢多死社会における医療・看護、エンドオブライフケア（End-of-Life Care : EOLC）の課題を明確化することである。そのため、諸外国の高齢者並びにエンドオブライフの各種制度とシステムの特徴と課題を考察する。さらに、高齢者自身が生きてきた存在価値を認識でき、意思の自己決定が尊重されることを目標に、健康の自己コントロールを行う理論と実践に関して、先行研究などから探究し、アセスメント力やケア実践能力、ケア評価、ケア管理、実践者・研究者としての管理能力および倫理的課題に対応できる力を高める。</p>						
授業の概要						
<p>本授業の概要は高齢者医療・看護と EOLC の現状と課題を多角的に理解し、国内外の制度や支援システム・文化的背景との相違点を比較検討する。さらに、高齢者看護の課題を、既存文献および院生自身の臨床・実践経験をもとに整理するとともに、看護理論を活用して、ケースを通じたアセスメント、看護介入、ケアシステム、多職種連携の視点から、主要な看護理論・概念を体系的に学ぶ。加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化を統合的に捉え、高齢者の QOL 向上と尊厳の保持を支える看護の在り方について探究する。また、高齢者を取り巻く医療・保健・福祉制度の動向や倫理的課題を踏まえ、専門的看護実践に必要な判断力・応用力を養い、国内外の研究知見を批判的に検討して、理論と実践の往還によって研究的視点を涵養する。授業は主として、文献検討とプレゼンテーションを受けてのディスカッションによって院生が主体的に学びを深めることを重視する。課題解決に向けたプランニング、ケースレポートとしてまとめることで、実践的思考力を培う。</p> <p>（オフィスアワー：月曜日 12：20-13：30）</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・教員によるガイダンス。 ・受講者自己紹介後に関心テーマを共有する。 ・ディスカッションによって課題認識を整理する。 		事前学修：シラバスを精読する。 事後学修：本科目の課題を自己の研究に反映させる。	適時提示	
2	加齢変化の統合的理解と課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的・精神的・社会的加齢変化の理解に基づく加齢変化の相互関連を把握する。 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義による理論整理と文献精読による要約を基に概念マップを作成してディスカッションを行う。 		事前学修：加齢変化に関する文献を講読する。 事後学修：概念マップを研究課題に活用する。	適時提示	
3						
4	健康課題と生活機能の評価	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレイル、ルコペニア、慢性疾患、多疾患併存、認知機能低下、生活機能評価の枠組みと関連を理解する。 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討に基づくアセスメント演習、グループディスカッションを行う。 		事前学修：高齢期の健康課題を概観する。 事後学修：ケーススタディを繰り返す。	適時提示	
5						
6		<p>【内容】</p>		事前学修：QOLに関する文献レビュー	適時提示	

7	QOL と尊厳を支える看護実践の探究	・自立支援の理念、意思決定支援の在り方、エンドオブライフケアの視点を理解する。 【方法】 ・事例分析とロールプレイを実施し、相互にリフレクションを行う。	ューを行う。 事後学修：EOLC の課題を整理する。	
8				
9	高齢者の在宅療養を支える看護実践の探究	【内容】 ・家族看護の視点、介護負担と支援の現状、多職種連携の理論を理解する。 【方法】 ・グループワークによる事例検討と連携シミュレーションを行う。	事前学修：在宅療養の制度を概観する。 事後学修：多職種連携教育の在り方を考察する。	適時提示
10				
11				
12	地域包括ケアと社会資源の理解	【内容】 ・地域包括ケアシステム、在宅医療・介護の現状、社会資源の種類と機能及び課題を把握する。 【方法】 ・制度分析、情報共有に焦点化したディスカッションを実施する。	事前学修：地域包括センターの役割とシステムの課題を概観する。 事後学修：超少子高齢社会における地域包括システムを考察する。	適時提示
13				
14	倫理的課題と研究的視点の涵養	【内容】 ・意思決定能力と倫理、終末期における倫理的課題を文献検討によって把握し、研究課題を明確化する。 【方法】 ・倫理事例検討、ディベート、ジャーナルクラブを行之の発表と相互フィードバック、課題解決プランの再検討を行う	事前学修：研究倫理に関する事前検索を行う。 事後学修：高齢者の尊厳を守る研究課題に関する考察と、今科目の総括レポートを作成・提出する。	適時提示
15				
16	試験			
教科書・参考文献など				
参考文献は受講生の学修課題の進捗・研究命題に合わせて適時紹介する。				
最終到達目標			評価方法	
日本の超高齢多死社会における医療・看護、及びエンドオブライフケアの課題を諸外国の状況から考察・説明できる。 エンドオブライフケアの質保証について説明できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 最終課題レポート(50%)・授業への参加・討論への貢献(50%)	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EME0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME06				教育・実践力	○
授業科目名	高齢者看護学特別演習 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	赤松公子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、高齢者がこれまで培ってきた経験や価値観を強みとして捉え、最期まで自身の人生を全うできるよう支援する方法を探究することを目的とする。臨床現場における課題をより深く掘り下げ、多角的な視点から生活上の問題、身体的問題、セルフケア、介護予防、認知症ケア、各施設におけるケア実践、認知症看護管理、看取りケア、家族看護、看護システム等について検討し、知識および看護実践技術の質を高める。</p>						
授業の概要						
<p>本科目は、ケアのアセスメントと日常生活行動機能評価指標、うつと認知症など心理社会的機能等評価指標、援助方法の分析と評価について、介入に結びつくアセスメント方法について考察する。各種高齢者支援サービスと制度、認知症看護の看護管理と安全管理について言及し、高齢者の各種リスクへの介入対策について探究する。科目全体の到達目標として、高齢者が培ってきた経験・価値観を強みとして捉えたケアの理論的基盤を理解できる。臨床現場における高齢者看護の課題を多角的に分析し、介護予防・セルフケア・認知症ケアに結びつくアセスメントができる。既存の評価指標を批判的に検討し、実践に活用可能な評価表を構築・説明できる。看護管理・制度・サービスを踏まえたリスク介入とケアシステムを提案できることである。</p> <p>(オフィスアワー：火曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	科目概要	本科目の目的・演習の進め方	シラバスを確認して授業に臨む	適時提示		
2	高齢者看護の理論的基盤と視点の共有	高齢者の経験・生活史を強みとして捉える視点	ストレングスモデルまたはエンパワメントに関する文献を1編精読	適時提示		
3		臨床現場における高齢者看護の主要課題整理	自身の臨床・研究において課題と感じている高齢者看護の問題を3点挙げる	適時提示		
4		多角的アセスメントの枠組み	高齢者アセスメントに関する論文を精読しアセスメント視点を整理	適時提示		
5		事例を用いた課題構造化演習 問題の「見立て」を言語化	指定事例を読み、問題点と強みをそれぞれ整理	適時提示		
6		介護予防の理論と研究	介護予防の概念と変遷	介護予防に関する政策またはレビュー論文を精読	適時提示	
7	(演習)	介護予防に関する先行研究の批判的検討	介護予防をテーマとした原著論文を1編選択し、研究目的・方法・限界を整理	適時提示		
8		自研究の結果と介護予防への示唆	自身の研究と介護予防との関連を整理	適時提示		
9		今後の介護予防対策の方向性	地域・施設・在宅のいずれかの視点から、今後必要と考える介護予防対策を検討	適時提示		
10		介護予防介入に結びつくアセスメント項目の検討	フレイル等の評価指標を1つ選び、活用場面と課題を整理する	適時提示		
11	セルフケアと生活機能評価	高齢者におけるセルフケアの概念と理論	セルフケア理論に関する文献を精読し高齢者看護への応用可能性を考える	適時提示		
12		日常生活行動機能評価指標	ADLまたはIADL評価指標を1つ選び、評価内容を整理	適時提示		
13		心理社会的機能の評価	高齢者のうつまたは認知症評価尺	適時提示		

			度に関する文献を精読	
14	(演習)	アセスメントから援助方法への展開	アセスメント結果が介入につながった事例を整理	適時提示
15		事例に基づくアセスメント・介入案計画立案	指定事例についてアセスメント項目と援助方針を検討	適時提示
16	認知症ケア・看護管理・安全管理	認知症ケアの基本理念と実践課題	認知症ケアに関するガイドラインまたは総説を精読	適時提示
17		BPSD の理解と非薬物的介入	BPSD に関する原著またはレビュー論文を精読	適時提示
18		認知症看護における看護管理	認知症看護の看護管理・教育に関する文献を精読	適時提示
19		安全管理とリスクマネジメント	高齢者の転倒・誤嚥等のリスクに関する文献を精読	適時提示
20		リスクアセスメント事例検討	指定されたリスク事例について、要因と対策を整理	適時提示
21	制度・サービス・看取りと家族看護	高齢者支援サービスと制度の理解	介護保険制度における主要サービスを整理	適時提示
22		施設別ケア実践の特徴と課題	勤務・研究対象とする施設のケア体制を整理	適時提示
23		看取りケアと支援	看取りケアの文献を精読	適時提示
24		家族看護と意思決定支援 家族アセスメント	家族看護理論または意思決定支援に関する文献を精読	適時提示
25		制度・サービスを活用した支援計画立案	指定事例について、利用可能な制度・サービスを整理	適時提示
26	評価表開発演習	評価表開発の目的と方法	既存の高齢者評価指標を 1 つ選び、構成と特徴を整理	適時提示
27		評価項目の抽出と概念定義	自身が評価したい概念について、関連文献を 2 編以上精読	適時提示
28		評価尺度・判定基準の検討	評価尺度（定量・定性）の違いについて整理	適時提示
29		評価表の試行・修正	作成中の評価表案を持参し、修正点を整理	適時提示
30		評価表発表・総括	自身の評価表の特徴と意義を整理し、発表準備を行う	適時提示
31	試験			
教科書・参考文献など				
授業で紹介する。				
最終到達目標			評価方法	
高齢者・認知症者へのエンドオブライフケア、認知症者の日常生活援助方法の課題解決に向けた研究展開が広い視野から検討ができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 最終課題レポート(50%)・授業への参加・討論への貢献(50%)	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EME0602			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME06				教育・実践力	○
授業科目名	高齢者看護学特別演習 M	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1 年次/後期	単位数	2		連携力	○
担当教員	岡多枝子				提言力	○
授業の目的						
本演習は、超高齢社会における複雑かつ多様な健康課題に対応できる高度実践看護能力の基盤形成を目的とする。高齢者の身体的・精神的・社会的側面を統合的に理解し、エビデンスに基づく看護実践および研究的視点をもって課題を探究する力を養う。さらに、多職種・多機関連携の視点を踏まえ、地域包括ケアの中で高齢者とその家族を支援するための実践力と課題解決能力の深化を図る。						
授業の概要						
演習では、高齢者看護に関する諸課題について、文献検討および事例分析、ディスカッションを通して探究的に学修する。身体的・精神的・社会的側面を統合した高齢者理解を基盤に、複雑化する健康問題や生活課題に対する看護のあり方を検討する。さらに、エビデンスに基づく実践（EBP）の視点から看護実践を批判的に検討し、研究課題の明確化と研究計画立案に向けた基礎的能力を養う。 (オフィスアワー：月曜日 12：20-13：10)						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法		事前学修・事後学修	使用図書・文献	
1	オリエンテーション 本科目の目的・演習の概要を踏まえた自己のテーマとの関連・研究計画の検討	内容 ：本科目の目的として高齢者看護における学際的課題と研究的視点を理解する。演習の概要として文献検討・事例分析・多職種連携の枠組みを把握する。自己の研究テーマと高齢者の身体的・精神的・社会的側面との関連を整理する。先行研究を踏まえた研究課題と研究目的の妥当性を検討する。倫理的配慮および研究デザインの基本的枠組みを確認する。 方法 ：教員による講義と最新文献の提示。データベースを用いた文献検索とクリティカルリーディングを実施。自己の研究テーマに関するプレゼンテーション。多職種連携の視点を取り入れたグループディスカッション相互評価を実施する。		事前学修：シラバスおよび関連資料を読み本科目の目的と内容を理解する。自己の研究テーマに関する基礎文献を収集し整理する。 事後学修：演習内容を振り返り自己の研究テーマとの関連を再整理する。指摘を踏まえて研究課題と計画の修正を行う。	適時提示	
2						
3						
4						
5						
6	高齢者看護における研究課題の明確化と文献検討	内容 ：高齢者看護における主要な研究領域と課題の動向を理解する。文献検討の意義と研究課題形成の基本的プロセスを把握する。自己の研究テーマに関連する国内外の先行研究を体系的に整理する。文献の批判的検討を通して研究課題および研究目的の明確化を図る。研究倫理および文献活用における基本的配慮を確認する。 方法 ：教員による講義と関連領域の		事前学修：高齢者の身体的側面に関する基礎知識および関連文献を収集し整理する。自己の研究テーマとの関連を検討する。 事後学修：事例分析およびディスカッションの内容を整理し身体的課題に対する看護の理解を深化する。研究課題への反映を行う。	適時提示	
7						
8						
9						
10						

		<p>主要文献の提示を行う。データベースを用いた文献検索および文献管理を実施する。選定文献のクリティカルリーディングと要約を行う。自己の研究課題に関するプレゼンテーションを行う。グループディスカッションおよび教員からのフィードバックにより研究課題を精緻化する。</p>		
11	高年齢者の身体的側面に関する課題の分析と看護の検討	<p>内容： 高年齢者に特徴的な身体的変化および加齢に伴う健康課題の特性を理解する。慢性疾患、多疾患併存、フレイルやサルコペニアなど身体的課題の構造を把握する。自己の研究テーマと身体的側面における課題との関連を整理する。事例および先行研究を基に看護介入の有効性と課題を分析する。エビデンスに基づく看護実践の観点から看護の方向性を検討する。</p>	<p>事前学修：高年齢者の精神的・社会的側面に関する理論および関連文献を収集し整理する。自己の研究テーマとの関連を検討する。 事後学修：事例分析および討論を踏まえ精神的・社会的課題に対する看護の視点を整理する。研究課題の再構築を行う。</p>	適時提示
12				
13				
14				
15				
16	高年齢者の精神的・社会的側面に関する課題の分析と看護の検討	<p>内容：高年齢者に特徴的な心理的变化および社会的背景を含む精神的・社会的健康課題の特性の理解。認知症、うつ、孤立、社会的役割の喪失や社会参加の低下など精神的・社会的側面における課題の把握。自己の研究テーマと精神的・社会的側面における課題との関連を整理する。事例および先行研究を基に心理社会的支援と看護介入の有効性を分析する。エビデンスに基づく看護実践の観点から精神的・社会的支援の検討。</p>	<p>事前学修：多職種連携および地域包括ケアに関する基礎資料と文献を収集し理解を深める。自己の研究テーマとの関連を検討する。 事後学修：演習内容を踏まえ連携の課題と看護の役割を整理する。研究課題への統合を行う。</p>	適時提示
17				
18				
		<p>方法： 教員による講義と最新の研究動向の提示を行う。事例分析を通して身体的課題のアセスメントを実施する。 関連文献の検索およびクリティカルリーディングを行う。自己の研究テーマに基づく分析結果のプレゼンテーションを行う。グループディスカッションおよび教員からのフィードバックを通して看護の在り方を検討する。</p>		

19				
20		ト実施。関連文献の検索、クリティカルリーディング。自己の研究テーマに基づく分析結果のプレゼンテーション。グループディスカッション、教員のフィードバックを通して看護の在り方を検討。		
21	自己の研究課題に関連する学会に参加、研究者間の討論	内容：自己の研究課題に関連する学会の動向と研究領域の理解。学会発表を通して最新の研究知見と実践課題を把握。研究者間の討論を通して多様な視点と学際的知見を獲得。自己の研究課題の位置づけと独自性を再検討。知見を基に研究課題および研究計画の精緻化。 方法：関連学会参加・聴講。口演・ポスター発表の内容を整理し記録。研究者との質疑応答および意見交換に参加。報告およびプレゼンテーション。ディスカッションとフィードバック。	事前学修：参加予定学会のテーマおよび関連研究を事前に確認し論点を整理する。自己の研究課題に関する質問事項を準備する。 事後学修：学会で得た知見および討論内容を整理し研究課題の位置づけを再検討する。研究計画の精緻化を行う。	適時提示
22				
23				
24				
25				
26	研究計画の立案と成果の統合・発表 研究倫理申請書の作成	内容：研究計画の妥当性。研究倫理原則と審査要件。記載内容を整理 方法：講義と研究計画立案。先行研究を踏まえた研究計画書および倫理申請書の作成。研究計画に関するプレゼンテーションを行う。相互評価とディスカッションを行う。フィードバックを基に研究計画および倫理申請書の修正。	⑥ 事前学修：先行研究を踏まえ研究目的・方法および倫理的配慮を整理する。研究計画書および倫理申請書の草案を作成する。 事後学修：フィードバックを踏まえ研究計画および倫理申請書を修正する。研究成果の発表内容を整理し完成度を高める。	適時提示
27				
28				
29				
30				
31	試験			
教科書・参考文献など				
授業で紹介する。				
最終到達目標			評価方法	
高齢者・認知症者へのエンドオブライフケア、認知症者の日常生活援助方法の課題解決に向けた研究展開が広い視野から検討ができる。			課題達成度を以下の方法で評価する 最終課題レポート(50%)・授業への参加・討論への貢献(50%)	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EME0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME07				教育・実践力	○
授業科目名	広域看護学特別研究 IM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	岡 多枝子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目の目的は、「広域看護領域」の諸課題に対する臨床と研究の循環型研究の基礎を修得することである。授業では、自己の問題意識・経験と先行研究の探求による研究課題の把握、研究目的と研究デザインの決定、倫理的配慮、信頼性と妥当性のあるデータ収集・検討方法を明確化して、修士論文の研究設計と中間発表を行う。本科目の到達目標は、倫理審査の申請および研究計画書の完成と、調査研究の準備に着手する事である。</p>						
授業の概要						
<p>授業では、地域社会における健康課題を多角的に捉え、保健・医療・福祉・教育など多領域と連携した広域的視点から看護学研究を遂行する力を養う。学生は自らの研究テーマや問題意識に基づいて、国内外の先行研究を整理・探求し、研究テーマ・課題の明確化と確定、研究目的の設定と研究方法の選択、必要な倫理的配慮、及び研究計画書作成と倫理審査申請書の作成を行い、研究倫理審査を受ける。これら一連の研究プロセスと論理的思考、適切な研究方法について理解・選択し、質の高いデータ収集と検討・考察・論文作成につなげる。特に、地域包括ケア、多文化・多世代共生社会、健康格差、災害時の地域看護など、現代社会における広域的健康課題を対象とし、実践と研究を往還させながら科学的根拠に基づく看護実践の構築を目指す。</p> <p>(オフィスアワー：月曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1 ～ 10	科目オリエンテーション 自己の研究に関する文献の検索・クリティークと研究課題の明確化	1. 年間授業スケジュールについて検討し組み立てる。 2. 自己の研究に関する国内外の文献の検索を行い文献レビュー・クリティカルリーディングによる研究課題周辺の知見を整理・分析して研究課題を絞る。 3. 課題の研究手法を検討する。	事前学修：シラバスを参照して先行研究を検索し、自己の研究課題の周辺テーマに関する情報を収集する。 事後学修：文献のクリティーク結果に基づく課題分野の研究を整理、研究課題を明確化したレポートを提出する。	適時提示 研究文献は各自で検索		
11 ～ 18	研究目的の明確化と研究計画書の作成	1. 文献を吟味して研究課題の論理的概念化、研究目的・目標を設定し、研究方法を選択する。 2. 量的研究は仮説を立てる。質的研究はインタビューガイドを作成する。	事前学修：研究課題に基づく研究計画書を作成する。 事後学修：研究的意義の明文化と研究設計、目的に沿った研究方法の選択かを確認する。	適時提示 先行研究論文は自身で検索 研究計画書 倫理申請書		
19 ～ 24	研究計画の中間発表準備と発表	1. 研究計画を立て、中間発表の資料を作成する。 2. 発表によって矛盾や疑問点を解決して研究計画書を精選、完成させる。	事前学修：計画書を精査、完成度を高めて発表準備を行う。 事後学修：発表後に質疑応答等の内容に基づいて計画書を修正する。	適時提示 先行研究論文は自身で検索 研究計画書		
25 ～ 29	研究倫理申請書の作成と提出	1. 倫理審査申請書を作成する。 2. 各書類を整えて申請する。	事前学修：倫理審査申請書の様式を事前に取り寄せる。 事後学修：倫理審査の結果を受けて修正する。	倫理申請書類		
30	研究調査の準備と開始	1. 研究倫理審査結果を踏まえて、指摘部分などの修正を行う。 2. 承認後に、調査を開始する。	事前学修：倫理審査・計画書を精査して必要箇所を修正する。 事後学修：調査計画書立案・データ収集の具体的予定を立てる。	調査関連書類、		
教科書・参考文献など						

<ol style="list-style-type: none"> 1. 川喜田二郎：KJ法：渾沌をして語らしめる，中央公論新社，1986. 2. 黒田裕子：看護研究 step by step 第6版、医学書院（2023） 3. 牧本清子・山川みやえ編著：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版、日本看護協会出版会円（2020） 4. 坂下玲子、宮芝智子、小野博史編著：系統看護学講座別冊 看護研究第2版、医学書院（2023） 5. D.F. ポーリット他：看護研究，原理と方法，医学書院（2010） 	
最終到達目標	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・文献検討および課題の分析から研究テーマを決定できる。 ・研究の概念化と研究手法が検討できる。 ・自己の研究課題解決に向けた独創的な研究計画書が完成できる。 ・研究計画の発表を行うことができる。 ・研究倫理委員会に倫理審査申請書を提出できる。 	課題達成度を以下の方法で評価する 筆記試験(60%)・課題レポート(20%)・ プレゼンテーション(20%)
履修判定指標・評価基準	
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EME0702			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME07				教育・実践力	○
授業科目名	広域看護学特別研究 IM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	赤松公子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、広域看護学領域における課題に対し、臨床と研究の循環型研究に取り組むための基礎を修得することを目的とする。本科目では、研究計画書の完成および倫理審査申請を到達目標とする。研究計画書の作成にあたっては、国内外の先行研究レビューを通して自己の研究課題を焦点化し、研究目的を明確にする。さらに、研究目的に適した研究デザインおよび研究方法を選択し、信頼性・妥当性の確保されたデータ収集および分析によって結果が導き出せるよう、研究設計を行う。</p>						
授業の概要						
<p>本授業では、広域看護学領域における臨床的課題を研究課題として捉え、臨床と研究を往還する循環型研究に取り組むための基礎的能力を修得する。国内外の先行研究の体系的レビューを通して研究課題を焦点化し、研究目的および研究課題を明確化する過程を学ぶ。あわせて、研究目的に適した研究デザインおよび研究方法の選択、倫理的配慮を踏まえた研究計画の立案、データ収集・分析方法の検討について理解を深める。授業は講義と演習を組み合わせる進行し、受講生が自らの研究テーマに基づいて研究計画書を作成し、倫理審査申請に必要な書類を完成させることを目指す。(オフィスアワー：月曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1 ～ 10	研究課題の設定	広域看護学領域における研究の特徴と意義 臨床課題から研究課題への展開方法 研究課題設定の基本 研究テーマの洗い出し グループディスカッション	広域看護学領域に関連する自身の臨床・実践経験を振り返り、問題意識を整理 関心のあるテーマについて国内文献を検索	適時提示		
11 ～ 18	先行研究レビューと研究課題の焦点化	先行研究レビューの視点 研究課題の焦点化と研究目的の書き方 演習：先行研究の整理と研究目的案の作成	国内外の先行研究を3～5編検索し、要点を簡潔に整理してくる 自身の研究テーマに関する「研究目的(案)」を作成しておく	適時提示		
19 ～ 24	研究デザイン・研究方法の選択	看護研究における主な研究デザイン(量的・質的・混合研究) 対象者の設定、データ収集方法、分析方法の考え方 信頼性・妥当性の基本概念 演習：研究デザイン・研究方法の検討と発表	先行研究の中から、研究デザインと研究方法に注目して整理 自身の研究に用いる研究方法案を簡単にまとめておく	適時提示		
25 ～ 28	究倫理と倫理審査申請の実際	研究倫理の基本原則 個人情報保護・インフォームドコンセント 倫理審査申請書の構成と記載上の留意点 演習：自身の研究における倫理的配慮の整理	所属機関の倫理審査ガイドラインを読んでおく 自身の研究において想定される倫理的課題を箇条書きで整理してくる	適時提示		
29 ～ 30	研究計画書の完成と発表	研究計画書の最終確認 研究計画書の発表と質疑応答 相互フィードバック 研究計画書および倫理審査申請に向けた最終確認	研究計画書案を完成させて提出する 発表用に研究計画の要点を整理しておく	適時提示		

教科書・参考文献など	
適時提示する。	
最終到達目標	評価方法
1. 広域看護学領域における臨床的課題を研究課題として焦点化できる。 2. 国内外の先行研究レビューに基づき、研究目的および研究課題を明確に設定できる。 3. 研究目的に適した研究デザインおよび研究方法を選択し、研究計画を立案できる。 4. 研究倫理を理解し、倫理審査申請に必要な書類を作成できる。	課題達成度を以下の方法で評価する 研究計画書(70%)・中間発表などプレゼンテーション(30%)・
履修判定指標・評価基準	
評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)	

授業コード	EME0703			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME07				教育・実践力	○
授業科目名	広域看護学特別研究IM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	1年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	別宮直子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目の目的は、『広域看護領域における課題に対する臨床と研究の循環型研究に取り組むための科目である。この科目では、研究計画書の完成と、倫理審査の申請を目標とする。研究計画書は国内外の先行研究レビューから自己の研究課題を絞り、研究の目的を明確にする。研究目的に合った研究デザインと研究方法を選択し、信頼性と妥当性のあるデータの収集と分析から結果が導き出せるよう、研究設計を行う。』ことを目的とする。</p>						
授業の概要						
<p>本科目は、研究テーマは学生自身の個別テーマであるが、精神看護学およびメンタルヘルスに関する研究を担当する。 1. 精神疾患をもつ対象者とその家族への看護および支援方法の開発 2. 対象者のセルフコントロールに向けた支援方法の開発 3. 長期入院患者の退院支援 4. 精神科における倫理的課題に関する研究</p> <p>本科目は、1年次の4月に研究指導教員決定後、文献検討から課題の分析、研究テーマの決定、研究計画書の作成、その後、10月に研究計画発表、12月に研究計画書作成を完了し、2月の倫理審査委員会への申請書を提出し、審査を受ける。この一連の流れを行う。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 12:00-13:30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1	授業スケジュールについて	今後の授業スケジュールを組み立てる	事前：自身の年間スケジュールの把握 事後：関心ある研究テーマの文章化を行う。	大学院要覧 関連文献		
2	文献検討から課題の分析	自身の個別テーマに関する文献検討を行い、課題の分析を行う。	事前および事後：文献検討を繰り返し、関心ある研究テーマに関する課題の分析を行う。	関連文献		
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9	研究テーマの決定	文献検討および課題の分析から、自身の研究テーマを決定する。	事前：課題の分析から自身の研究テーマの絞り込みを図る。	関連文献		
10						
11						
12	研究計画書作成	研究テーマ決定後、研究計画発表会に向け、研究計画書を作成する。	事前：これまでの文献検討および課題の分析をまとめておく。			
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19	研究計画発表準備	10月の研究計画発表に向けて準備を行う。	事前：研究計画書を作成しておく 事後：研究計画発表に向け、練習を重ねる。			
20						
21						
22	研究計画発表	研究計画発表を行う。	事前：指摘される点の洗い出しを行っておく。 事後：指摘された点の整理			

23	研究計画書完成	研究計画発表で指摘を受けた内容を再検討し、研究計画書を完成させる。	事前：研究計画発表で指摘を受けた点を、整理しておく。	
24				
25				
26	倫理申請書の作成	2月の倫理審査委員会への申請に向け、倫理申請書を作成する。	事前：研究計画書を完成させておく。	
27				
28				
29				
30	倫理審査委員会への申請	倫理審査委員会への申請を行い、承認を得る。	事前：倫理審査委員会に倫理申請書を提出する。	
教科書・参考文献など				
最終到達目標			評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・文献検討および課題の分析から研究テーマを決定できる。 ・研究計画書を作成し、研究計画発表を行うことができる。 ・研究計画書を完成させることができる。 ・倫理審査申請書を提出することができる。 			課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(80%)・プレゼンテーション(20%)・	
履修判定基準・評価基準				
評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EME0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME08				教育・実践力	○
授業科目名	広域看護学特別研究ⅡM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	岡多枝子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目の目的は、1年次に構想した研究計画に基づき、広域看護学領域における研究を体系的かつ実践的に遂行する能力を修得することである。明確化した研究目的および研究方法に基づき、データ収集および分析を段階的に推進し、研究結果を導出する過程を通して、臨床実践と研究の相互作用による循環型研究の深化を図る。さらに、得られた知見を理論的かつ批判的に考察し、修士論文として論理的一貫性をもって体系化するとともに、広域看護学の発展に資する学術的成果を発信する能力を養う。</p>						
授業の概要						
<p>授業の概要は、1年次に策定した研究計画に基づき、研究の実施から成果の統合・発信に至る一連の過程を体系的に学修する科目である。具体的には、研究目的および研究方法の妥当性を再確認した上で、データ収集および分析を段階的に推進し、得られた結果の解釈と考察を行う。さらに、臨床実践との関連を踏まえた批判的検討を通して研究の意義と限界を明確化し、修士論文として論理的一貫性をもって構成・記述する能力を養うとともに、広域看護学領域における研究成果の発信に向けた基礎的能力の深化を図る。</p> <p>(オフィスアワー：月曜日 12：20-13：10)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1 ～ 6	研究計画の再構築と研究方法の精緻化	<p>内容：研究計画の再構築と研究目的・研究方法の精緻化を行う。先行研究の再検討を通して研究課題の焦点化と妥当性の確認を行う。</p> <p>方法：文献検討とクリティカルリーディング、研究計画書の見直しを行う。指導教員とのディスカッションおよびフィードバックを受け修正する。</p>	<p>事前学修：先行研究および関連文献を収集・精読し研究課題と研究方法の整理を行う。研究計画書を再確認し課題点を明確化する。</p> <p>事後学修：指導および討議内容を踏まえ研究計画の修正と精緻化を行う。文献検討を継続し研究課題の焦点化を進める。</p>	適時提示		
7 ～ 12	データ収集の実施と研究過程の管理	<p>内容：データ収集の実施と研究過程の適切な管理を行う。研究対象や調査手順に基づき計画的にデータ収集を進める。</p> <p>方法：調査・実験・フィールドワークの実施と記録の整理を行う。進捗状況の共有と教員からの指導を受けながら調整する。</p>	<p>事前学修：データ収集方法および手順に関する文献を確認し調査計画を具体化する。倫理的配慮事項を再確認する。</p> <p>事後学修：収集したデータの整理と記録の精緻化を行う。進捗状況を振り返り次段階に向けた課題を明確化する。</p>	適時提示		
13 ～ 18	データ分析と結果の導出	<p>内容：データ分析と結果の導出を行う。量的・質的データに応じた分析を通して研究結果を明確化する。</p> <p>方法：統計解析や質的分析手法の適用と結果の整理を行う。分析過程について教員の指導を受け検討を深める。</p>	<p>事前学修：分析手法に関する文献を精読し適用方法を理解する。収集データの前処理と整理を行う。</p> <p>事後学修：分析結果を整理し解釈の妥当性を検討する。追加分析や分析方法の修正を行い結果の精緻化を図る。</p>	適時提示		
19 ～ 24	結果の解釈と理論的・実践的考察	<p>内容：研究結果の解釈と理論的・実践的考察を行う。先行研究や理論枠組みとの関連から結果の意味づけを行う。</p> <p>方法：文献との比較検討とディスカッションを行う。教員および受</p>	<p>事前学修：関連理論および先行研究を精読し結果解釈の視点を整理する。考察の構成案を作成する。</p> <p>事後学修：討議内容を踏まえ考察を再構成し理論的・実践的意義を明確化する。研究の限界と課題を</p>	適時提示		

		講者との討議を通して考察の深化を図る。	整理する。	
25 ～ 30	修士論文の作成と研究成果の発信	内容 ：修士論文の作成と研究成果の発信を行う。論理的一貫性をもって研究内容を体系化する。 方法 ：論文執筆と構成の検討、プレゼンテーションを行う。教員からの指導とフィードバックを受け修正を重ねる。	事前学修 ：論文構成および執筆要領を確認し原稿の下書きを作成する。発表資料の準備を行う。 事後学修 ：指導およびフィードバックを踏まえ論文および発表内容の修正を行う。最終成果としての完成度を高める。	適時提示
教科書・参考文献など				
受講生の研究課題、進捗に合わせて適時提示				
最終到達目標			評価方法	
1. 研究計画に基づき、倫理的配慮を踏まえて研究を主体的に遂行できる。 2. 適切なデータ収集および分析を通して研究結果を導き出すことができる。 3. 研究結果を先行研究および臨床実践と関連づけて考察できる。 4. 研究成果を修士論文として論理的にまとめ、広域看護学領域における学術的・実践的意義を提示できる。			課題達成度を以下の方法で評価する 修士論文完成度(90%)・プレゼンテーション(10%)	
履修判定指標・評価基準				
履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。 A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) (E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)				

授業コード	EME0802			ディプロマポリシーに定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME08				教育・実践力	○
授業科目名	広域看護学特別研究ⅡM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	赤松公子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目は、「広域看護学特別研究 M1」で構想した研究計画に基づき、広域看護学領域における研究を実践的に遂行することを目的とする。M1で明確化した研究目的および研究方法をもとに、データ収集および分析を進め、研究結果を導き出す過程を通して、臨床と研究の循環型研究を深化させる。さらに、得られた結果について考察を行い、修士論文として論理的にまとめ、広域看護学の発展に寄与する研究成果を提示する能力を養う。</p>						
授業の概要						
<p>本授業では、「広域看護学特別研究 M1」において構想した研究計画に基づき、広域看護学領域における研究を実践的に遂行する。研究目的および研究方法に沿ってデータ収集および分析を進め、研究結果を導き出す過程を通して、臨床と研究を往還する循環型研究を深化させる。さらに、得られた研究結果について考察を行い、修士論文として論理的にまとめ、広域看護学の発展に寄与する研究成果を提示する能力を養う。授業は演習・個別指導・発表を中心に進め、修士論文完成に向けた研究遂行力の向上を図る。</p> <p>(オフィスアワー：月曜日 13：20-14：50)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1 ～ 14	研究計画の再確認と研究遂行スケジュールの立案	研究目的・研究課題・研究方法の再確認 データ収集および分析の進め方の整理 修士論文完成までのスケジュール立案 個別指導・ディスカッション	M1で作成した研究計画書を再読し、修正点や課題を整理 修士論文提出までのおおまかなスケジュール案を作成	適時提示		
15 ～ 18	データ収集の実施と進捗共有	データ収集状況の共有 データ収集時の倫理的配慮の確認 想定外の問題への対応方法 進捗報告・助言	データ収集を実施し、進捗状況を整理 収集過程で生じた疑問点や課題をまとめる	適時提示		
19 ～ 24	データ分析と結果の整理	データ分析方法の確認 分析結果の整理と可視化 結果の記述方法 演習：結果の整理とフィードバック	データ分析を進め、暫定的な結果を整理 図表やカテゴリー案などを作成	適時提示		
25 ～ 28	研究結果の考察と臨床的意義の検討	考察の構成と書き方 先行研究との比較・解釈 臨床と研究の循環の視点からの考察 個別指導・ディスカッション	研究結果をもとに考察の下書きの作成 関連する先行研究の再確認	適時提示		
29 ～ 30	修士論文のまとめと研究成果の提示	修士論文全体構成の最終確認 研究成果の発表 相互フィードバック 修士論文完成に向けた最終調整	修士論文案を作成し、提出 発表用の研究成果を整理	適時提示		
教科書・参考文献など						
適時提示						
最終到達目標				評価方法		

<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画に基づき、倫理的配慮を踏まえて研究を主体的に遂行できる。 2. 適切なデータ収集および分析を通して研究結果を導き出すことができる。 3. 研究結果を先行研究および臨床実践と関連づけて考察できる。 4. 研究成果を修士論文として論理的にまとめ、広域看護学領域における学術的・実践的意義を提示できる。 	課題達成度を以下の方法で評価する 修士論文完成度(90%)・プレゼンテーション(10%)
履修判定指標・評価基準	
<p>履修判定指標：</p> <p>評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	

授業コード	EME0803			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	研究力	○
科目区分	専門科目 広域看護学領域 EME08				教育・実践力	○
授業科目名	広域看護学特別研究ⅡM	選択・必修	選択		倫理調整力	○
配当学年/学期	2年次/通年	単位数	4		連携力	○
担当教員	別宮直子				提言力	○
授業の目的						
<p>本科目の目的は、成人・高齢者看護領域における臨床と研究の循環型研究に取り組む科目である。この科目では、研究計画書作成・倫理審査承認後に、精度の高い研究データの収集、正確で妥当性のあるデータの入力と分析、クリアな結果を導き出し、得られた結果を考察するプロセスを修得することである。研究プロセスは論文として完成し、さらに自己の研究結果を発表（プレゼンテーション）し、研究プロセスと内容に対して質疑に応答し、公表するプロセスまで含まれる。そのプロセスの中では、論文指導者以外からの論文審査が行われ、同時に研究指導を受けるため、他学問、他領域の教員の研究指導からも、自己の論旨の精度、論文の完成度を高める。</p>						
授業の概要						
<p>本科目における、担当教員の指導可能な研究テーマは以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患をもつ対象者とその家族への看護および支援方法の開発 2. 対象者のセルフコントロールに向けた支援方法の開発 3. 長期入院患者の退院支援 4. 精神科における倫理的課題に関する研究 <p>本科目は、1年次の2月に倫理審査委員会への申請書を提出し、審査を受けた後に修正を行い、倫理審査委員会の承認を得る。承認を得た研究を前期期間にデータ収集および分析を行う。その後、9月には修士論文作成にとりかかり、2月には修士論文審査委員3名による審査、修士論文最終発表会、修士論文最終審査、最終試験を行う。</p> <p>(オフィスアワー：水曜日 12:00-13:30)</p>						
授業の計画及び展開方法						
回	学修課題	内容・方法	事前学修・事後学修	使用図書・文献		
1～4	研究計画書の修正	倫理審査結果を踏まえた研究計画書の修正を行う。	事前：倫理審査結果を把握する。 事後：倫理審査結果を踏まえた修正およびコメントを行い、再提出を行う。			
5～12	研究の実践	倫理審査委員会の承認を得た後、研究計画書に基づき、研究を行い、データの収集を進める。	事前：研究を行うための、事前準備を十分に行う。 事後：データの収集および保管を徹底する。			
13～20	データ分析	収集したデータの分析を行う。	事前：収集したデータの入力および、統計解析の手法を理解しておく。 事後：集計や統計解析を行い、データの分析を進める。			
21～29	修士論文作成	データの分析結果を踏まえ、修士論文を作成する。	事前：分析結果をまとめる。 事後：修士論文要領に従った作成を行う。			
30	修士論文最終審査、最終試験	修士論文最終審査および最終試験を受ける。	事前：これにより合否が決定することを理解しておく。			
教科書・参考文献など						
最終到達目標				評価方法		

<ul style="list-style-type: none"> ・倫理審査委員会の承認を得ることができる。 ・研究計画書を基に、研究を行い収集したデータの分析を行うことができる。 ・修士論文を作成し、修士論文の提出を行うことができる。 ・修士論文の審査を受け、最終発表会を行うことができる。 	<p>課題達成度を以下の方法で評価する 課題レポート(90%)・プレゼンテーション(10%)・</p>
履修判定指標・評価基準	
<p>履修判定指標： 評価基準：評価の基準は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> A(100～80点)：到達目標を達成している (Very Good) B(79～70点)：到達目標を達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D(60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure) <p>(E：試験不受験・課題未提出で成績評価要件の未充足、F：出席不足で成績評価要件の未充足)</p>	